

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人権の歴史
- 第5回 人権の内容・享有主体
- 第6回 人権規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 司法制度
- 第15回 地方自治

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義 I (第2版) (初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起している。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業の目標】

具体的な歴史上の宗教思想家の生涯の分析を通して、具体的に宗教的人間の特徴について考える。そして、釈尊や孔子など東洋思想市場の原点に立つ思想家に着目し、東洋における宗教的人間について考えていく。

【授業計画】

- 第一回は授業概要の具体的な説明を行いません。
- 第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統の持つ意味を考えたいと思います。
- さらに、本年度は、儒教を原始仏教との比較で考えます。仏教をめぐっては東洋における「宗教的人間」を語る事ができないからです。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

1. 釈尊の歴史の実像 (磯部隆著 大学教育出版)
2. 孔子と古代オリエント (磯部隆著 大学教育出版)

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権 (人間としての権利) の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】

政治変動のなかで、民主主義、人権保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前に思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史 (ペリクレスからウィルソンまで)
- 第2回 近代民主主義の変容 (市民社会から大衆社会へ)
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人権総論
- 第12回 人間の尊厳と人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人権
- 第15回 平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家 (初谷良彦他 成文堂)

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを1回または2回の授業で順に取り上げていく。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任 (クローン技術はどのように応用されるべきか?)
5. 環境倫理学の主張 (自然保護は何をめざしているのか?)
6. インターネット時代の倫理 (知的財産は誰のものか?)
7. 内部告発と社会の浄化 (内部告発は行なうべきか?)

【評価方法】

小レポート (3、4回授業時に書いてもらう予定) と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)
 先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)
 科学技術社会論の技法 (藤垣裕子著 東京大学出版会)

ジェンダーと社会 I

北仲千里

【授業の概要】

男らしさ、女らしさは最近大きく変わってきています。しかし、現在でも人生の始まりから最後まで、雨が降った時さす傘の色からくしゃみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の差異と平等は、今日大きな社会問題にもなっています。この講義では、社会学的な見方をベースに「男であること、女であること」や家族、そしてセクシュアリティにまつわるテーマを考えていきます。

【授業の目標】

性別に関する現象を、社会学的な視点から考えられるようになること。
性別や労働、家族問題に関する法律などについての基礎知識を得ること。

【授業計画】

- 1) 「ジェンダー」概念 1 身体の違いはどういう意味を持つのか
- 2) 「ジェンダー」概念 2 男らしさ、女らしさとは何か
- 3) 「ジェンダー」概念 3 性別とは何か～その1
- 4) 「ジェンダー」概念 4 性別とは何か～その2
- 5) 働くこと、働かないこととジェンダー 1 賃金からみるジェンダー
- 6) 働くこと、働かないこととジェンダー 2 女性は早く辞めるのか?
- 7) 働くこと、働かないこととジェンダー 3 均等法と社会・…いったい何が「差別」なのか?
- 8) ジェンダーと結婚・家族 1 専業主婦という「肩書」?
- 9) ジェンダーと結婚・家族 2 結婚と社会
- 10) セクシュアリティの社会学 1 性の規範とジェンダー
- 11) セクシュアリティの社会学 2 レイプやストーカー犯罪と社会
- 12) セクシュアリティの社会学 3 セクシュアル・ハラスメント
- 13) セクシュアリティの社会学 4 同性愛は異常かそれとも純粋な愛か

【評価方法】

講義中に数回行うミニレポートと、期末の試験との両方で評価します。
単なる「出席点」というものではありません。
期末試験の際は、持ち込み自由とします。

【テキスト】

教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学へジェンダー論入門～(伊藤公雄・國信潤子著 有斐閣)
新訂 ジェンダーの社会学(江原由美子・山田昌弘著 放送大学テキスト)

ジェンダーと社会 II

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業の目標】

文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 幼い頃に出会った表現
- 第3回 教科書のなかのジェンダー
- 第4回 映画のなかのジェンダー
- 第5回 <ことば>とジェンダー
- 第6回 男性作家のジェンダー
- 第7回 【山下智恵子先生担当】
- 第8回 【山下智恵子先生担当】
- 第9回 表現する女性の困難
- 第10回 『青鞥』の女たち
- 第11回 <娘>の表現
- 第12回 <母>の表現
- 第13回 <家族像>を描きなおよす
- 第14回 まとめ

*第7回、第8回以外は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 恋愛と結婚
- 第3回 母になるということ、父になるということ
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 暴力の根絶
- 第6回 「男らしさ」からの解放
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 性別分業の歴史と将来
- 第10回 男女をめぐる国際比較
- 第11回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 多様性とエンパワーメント
- 第14回 テスト

【評価方法】

毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

岡本信也

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業の目標】

大衆文化の問題点は何かを考え、新しい文化の創造を構想する。
とくに1960年代の若者文化との比較から考察する。

【授業計画】

- 第1回 大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
- 第2回 モダン都市の文化現象を考える。洋装化しはじめの衣風俗、喫茶店や食堂(デパート)など。
- 第3回 戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
- 第4回 映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
- 第5回 大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
- 第6～8回 身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
- 第9回 現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
- 第10回 続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
- 第11回 自由討議「市民文化とは何か」
- 第12～13回 テーマごとに報告(型式は随時)する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【テキスト】

特になし。(毎回プリント配布)

【参考文献・資料】

しぐさの日本文化(多田道太郎著 筑摩書房)
戦後日本の大衆文化史(鶴見俊輔著 岩波書店)
超日常観察記(岡本信也・靖子著 情報センター出版局)

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大幅に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業の目標】

日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 導入（情報社会と知的財産・契約）
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10～12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文化人類学

藤井麻湖

【授業の概要】

文化人類学は、人間社会におけるありとあらゆる領域を対象とし、また色々なやりかたで観察します。何でもあり、の世界です。異文化を自文化の視点から見たり、自文化を異文化の視点から見たりするのも、そのひとつのあり方です。本講義においては、モンゴル研究者である教員が、日本の文化現象を、異文化を経験した眼差しから文化人類学風に捉えなおします。

【授業の目標】

日本を「異文化」として捉えなおすという視点を獲得することです。

【授業計画】

1. 映画を文化人類学的に読む
 - (1) 椎名誠『白い馬』—異文化を異文化の人が撮る
 - (2) モンゴル国の女性監督オランヂメグ『天の馬』—自文化を自文化の人が撮る
 - (3) 今村昌平『うなぎ』—日本人が描く日本人の性愛の風景
 - (4) 『草原の愛』—漢人が描くモンゴル人の性愛の風景
2. 民話や小説を文化人類学的に読む
 - (1) モンゴルの馬頭琴伝説『スーホの白い馬』—男女の秩序と隠喩の関係
 - (2) 夏目漱石『こころ』—父子の秩序と隠喩の関係
 - (3) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
 - (4) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
3. 物語化された日本人の自画像を読む
 - (1) 柳田國男『遠野物語』（1910年）
 - (2) 中根千枝『タテ社会の人間関係』（1967年）
 - (3) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）
 - (4) 未定（前期と後期で変わる可能性あり）

【評価方法】

出席（出席代わりの授業の感想文等を毎回出す）と定期試験により評価する。

【テキスト】

適宜配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

国際政治論

若松孝司

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

冷戦後の現在における諸問題、諸現象の多くが、冷戦に起源、原因を持つことを理解し、現在の国際情勢を歴史的な視点から説明できるようになることを、本講義の目標とする。

【授業計画】

- 以下の項目について講義を行う。
- 1) 冷戦とは何か
 - 2) パレスチナ・イスラエル問題
 - 3) 北朝鮮とはどんな国なのか
 - 4) 誰がフセインをつくったか
 - 5) アメリカ合衆国とテロリズム
 - 6) わかりにくいアジア情勢
 - 7) 民族紛争

【評価方法】

出席と筆記試験によって成績評価を決定する。詳細は講義のはじめに説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

国際交流論

ブイ トルン

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業の目標】

- * 現代社会において国際交流・国際協力活動の必要性を理解すること
- * 国際交流・国際協力活動に関して行政、NPO、市民ボランティアなどの諸アクターの役割について理解すること
- * 国際交流・国際協力活動の3領域について具体的内容を理解すること
- * 現代社会に生きるための総合的国際化情報を理解すること

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流・国際協力活動とは
3. 国際交流・国際協力活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・ 姉妹都市交流
 - ・ 青少年交流
 - ・ 文化・芸術交流
 - ・ NGOの国際協力活動
 - ・ 自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・ 自治体と外国籍住民
 - ・ NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・ 国際理解セミナー
 - ・ JETプログラム
 - ・ 地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流・国際協力活動の新課題
 - ・ 事業評価
 - ・ IT戦略

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」(毛受敏浩編著 明石書店)

初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在(および未来)のことから関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使えないものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使えないものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないという意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか?実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しみ学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

【授業計画】

毎回、担当教員(フランス人)が文法と語彙のメインポイントをしっかりと説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4(スペイン語)」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・ スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
- ・ 世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているのです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解すること
- (2) 家族や親族をめぐりあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
- (3) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】

- (1) 氏・名字・姓の歴史
- (2) 戸と戸籍
- (3) イエとヤケ
- (4) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (5) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (6) 家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (7) 婚姻と家族・親族の諸形態1 <妻問婚の特徴>
- (8) 婚姻と家族・親族の諸形態2 <婿取婚と嫁取婚の成立>
- (9) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (10) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

【授業の目標】

受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたい。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと魔娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽(そうもう)隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによる。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけではなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 「アジア」を考えるということ(1)
4. 「アジア」を考えるということ(2)
5. 「中国」の歴史を学ぶとは?
6. 中国近現代史への眼差し: 歴史観の諸相
7. 中国の〈近代〉: 「中国」の創生
8. 中国の〈近代〉と日本
9. 近代日本の中国観
10. 日中戦争を考える: 特に南京事件をめぐって
11. 現代中国と日本: 歴史認識問題をめぐって
12. 現代中国を考える: 特に中国の「民主」をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末テスト(人数によってはレポート)、および随時課后感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになりたい。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒: ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識: 大航海時代
 - (3) 普遍性の否定: 宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) バクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム(谷川稔 山川出版社)
 - 国民国家を問う(歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】

今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 地域社会の歴史と構造 3
- 5 地方分権とコミュニティ 1
- 6 地方分権とコミュニティ 2
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動の実践例 1
- 10 コミュニティ活動の実践例 2
- 12 まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことが目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
中国伝統文化導論 (劉榮興 河北大学出版社)

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的事例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

【授業の目標】

専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感覚的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1講 | Introduction: ビジネスモデルと日本の国際競争力 |
| 第2講 | 企業活動の環境変化～ |
| 第3講 | ～ Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任 |
| 第4講 | 制度変革と企業活動～ |
| 第5講 | ～ 企業を取り巻く社会システムの変化 |
| 第6講 | ～ 商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など |
| 第7講 | 金融・資本市場の進化とFinancial Literacy |
| 第8講 | 市場 (金融・株式・外国為替市場) について |
| 第9講 | 企業の組織 |
| 第10講 | ビジネスとは何か? (その法的要件) |
| 第11講 | 会社とは何か? (その法的要件) |
| 第12講 | 組織の分解と再編 (ITと生産性)、財務の重要性 |
| 第13講 | 企業のマネジメント |

【評価方法】

学期末テストの成績で評価 (出席率は成績に反映させない)

【テキスト】

「ビジネスの世界」(伊藤義明著 栄進堂書店)

【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの働きと副作用について理解を深める。

【授業の目標】

病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1回 | 受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた [病気とくすりについて] の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説 |
| 第2～3回 | くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説 |
| 第4回 | くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える |
| 第5～6回 | 近年発売されたビルなど、医師の処方が必要とする生活改善薬をはじめ、常用される一般用医薬品 (OTC) と医師が処方する医療用医薬品を薬効別に解説 |
| 第7回 | 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム |
| 第8回 | アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの働き方 |
| 第9回 | 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法 |
| 第10～12回 | 生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効くしくみを解説 |

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する。

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の構造～心をどう捉えるか？
2. 心の発達
3. 脳と心
4. 心の病とは？
5. 心の病のいろいろ
6. ストレスのメカニズムとコーピング

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

講義初日に紹介する。

スポーツ科学

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を实践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしい運動量やスポーツ実践の大切さを認識し、安全に行うことを学び、運動・スポーツを通して人間関係の向上を図る。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
- 第2回～最終授業
カロリーカウンター（万歩計）を利用して運動量を知り、自己管理の能力を身に着ける。
前半は、主にニュースポーツ（ミニテニス、ユニホック、インディアカ、ソフトバレー等）を展開する。ソフトバレーからバレーボールへと発展させる。
後半は、卓球を展開する。
- 1～2回 導入、ラケットイング
サーブとレシーブ
フォアハンド、バックハンド
- 3～5回 ゲームの進め方
フォーメーションと審判
ゲーム（ダブルス、シングルス）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解度（20%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせて運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

高齢化社会を迎え、健康を維持し、生きがいのある生活を実現するために、運動不足、栄養のバランス、ストレス等、現代人に特有な健康上の問題点に着目して、学生生活と生活習慣の見直し、運動・スポーツ実践の重要性について理解する。

【授業計画】

- 第1～3回 現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生生活と健康
- 第4～7回 運動不足とその影響
食生活と健康
ウエイトコントロール
生活習慣の修正
- 第8～10回 身体の仕組みと働き
大学生の体格・体力
心と体の変化
- 第11～13回 運動・スポーツの効果と安全性
トレーニングの基礎
運動・スポーツと環境・条件
- 第14～終了 ライフスタイルと健康
まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜、指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

健康と運動

鶴原香代子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本技術の習得とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、施設・用具について理解する。
・バドミントンの特徴や歴史的ゲームの追体験を行う（VTR）
- 第2～3回 シャトルに慣れる
・ラケットイング
・ストローク練習（アンダーハンド、サイドハンド、オーバーヘッド）
- 第4～7回 ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サーブからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、ブッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム（シングルス）
- 第8～11回 フォーメーションと戦術
・サーブ（コースを決めて打ち分ける）
・ゲームの進め方（ルールの理解・審判）
・ゲーム（シングルス・ダブルス）の実践
- 第12～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、種目の理解と学習意欲、参加態度（30%）、技能の習得（20%）より総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業の目標】

様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
 2. イギリスのボランティア
 3. アメリカのボランティア (1)
 4. アメリカのボランティア (2)
 5. アメリカのボランティア (3)
 6. 日本のボランティアの変遷
 7. 特定非営利活動促進法 (NPO法)
 8. 日本のボランティア活動 (1) 災害とボランティア
 9. 日本のボランティア活動 (2) 高齢者とボランティア
 10. 日本のボランティア活動 (3) 障害者とボランティア
 11. 日本のボランティア活動 (4) 難民とボランティア
 12. 日本のボランティア活動 (5) 開発とボランティア
 13. ボランティアの課題
- ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。
期末レポート 70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために (内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロピーの思想：NPOとボランティア (林雄二郎他 日本経済評論社) 他

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き (日本点字図書館) 及び手話教室入門 (全日本ろうあ連盟出版局)

スポーツ文化論

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツの歴史の変遷から、スポーツの文化的、社会的な側面について理解を深め、現代社会の中でどのような機能、役割を果たしているかを考える。

【授業計画】

- 第1～5回・スポーツは遊びから出発し、技能を追究する
- ・スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
 - ・スポーツは富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い
 - ・スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレーの精神によって成り立つ
- 第6～8回・スポーツは教育、政治、科学が関係する
- ・スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
 - ・スポーツには民族性が反映される
- 第9～12回・スポーツには商業主義がつきまとう
- ・スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
 - ・スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へ、また、「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
- 第13～終了・スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである
- ・まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。
資料としてプリントの配付、ビデオを利用する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
- 第2～6回 2. 生物の進化
3. 植物と人の関わり
- 1) 農耕の始まり
 - 2) 世界の農耕文化
 - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物—作物
- 1) 作物とは?
 - 2) 世界の作物の起源
- 第7～8回 5. 作物改良の原理と方法
- 1) 作物改良の原理
 - (1) メンデルの法則—遺伝学
 - (2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 2) 作物の改良方法
- 第10回 6. バイオテクノロジー
- 第11～12回 1) バイオテクノロジーとは?
- 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
 - (1) 細胞・組織培養
 - (2) 遺伝子操作
 - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
 - (1) 倫理
 - (2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界

鹿島英佑 瀬川正夫

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生息しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

- (1) 地球上の生物を構成する動植物について基本的な知識と自然環境における役割を学び、自然と人間の関わりを知る。
- (2) 外来生物、動物由来感染症等、環境上の問題を知る。

【授業計画】

〔植物コース〕第1回～第7回
都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。
植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

〔動物コース〕第8回～第15回
動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、小動物の飼育管理、動物由来感染症、野生動物保護、自然環境の保全等の重要性を学習する。
野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、動物との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

【テキスト】

不要

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による砂漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】

学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】

- 地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために—
1. 宇宙観の変遷
 2. 宇宙を観測する手段
 3. 太陽系を探る
 4. 星の世界
 5. 銀河から宇宙へ
 6. 宇宙の始めと未来
- 毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト(配布プリント、ノート持ち込み可)によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて(池内了 新書館)
- (2) 星と宇宙の物理学読本(並木雅俊 丸善)
- (3) 見えてきた宇宙の神秘(野本陽代 草思社)
- (4) 太陽—その素顔と地球環境との関わり—(ケネス.R.ラング著 渡辺亮・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京)

食品の科学

来住準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

1. 食品の成分や栄養の基礎的な知識を学ぶ。
2. 食品の表示の意味を学ぶ。
3. 有機野菜やハーブなどの自然の食品は必ずしも安全ではなく、全ての食品にリスクが存在することを学ぶ。
4. 巷に氾濫する食情報から正しい情報を選択する方法を学ぶ。

【授業計画】

淑徳花子さんは、健康に人一倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろう大家族の一員です。一緒に淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回2つの類似した食品を提示し、受講者にその1つを選択してもらいます。なお、テーマによりVTR視聴や簡単な実験を実施します。

1. 食情報選択のヒント：リスクvs. ハザード
2. トースト：バターvs. マーガリン (実験) バターをつくらう
3. 水：ミネラルウォーターvs. 水道水
4. 学生食道：洋食vs. 和食 (実験) 人造いくらをつくらう
5. ガム：グリーンガムvs. キシリトールガム (実験) むし歯になり易さ度チェック
6. 紅茶飲料：ティオvs. ジャワティ (実験) お酒の強さ度チェック
7. 牛肉：近江牛vs. 近江和牛
8. レタス：減農薬vs. 低農薬
9. パナナ：フィリピンvs. 台湾
10. 牛乳：ホモvs. ノンホモ (消費期限vs. 賞味期限)
11. 機能性食品：健康食品vs. トクホ
12. 環境ホルモン：母乳vs. 人工乳
13. 健康常識クイズ

【評価方法】

出席(20%)、毎回の提出物(40%)、期末レポート(40%)。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

暮らしの化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ？どうして？という[素朴な疑問]に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

文学2 (中国)

河井昭乃

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業の目標】

中国古典文学を外国文学として捉え、その流れを理解し、作品鑑賞に必要な基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2. 漢文の特徴
3. 中国における「詩」の誕生
4. 古詩から近体詩へ
5. 近体詩の形式；押韻・平仄・対句
6. 代表的詩人の作品の鑑賞；李白・杜甫・白居易・李賀
7. 中国における「歌枕」；西域・長江流域・長安洛陽

【評価方法】

出席状況、レポート、単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

文学1 (日本)

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論(堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学3 (欧米)

間瀬欣英

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

欧米文学の概要の理解と代表的作品の鑑賞を通じて、文学的素養を高め、欧米文化の一層の理解に資する。

【授業計画】

- 第1回 受講に関するガイダンスと参考書目紹介
- 第2回 欧米の文学の特長について
- 第3～6回 小説について
- 第7～8回 詩について
- 第9～11回 劇について
- 第12回 散文について
- 第13回 結びと推薦書目紹介

【評価方法】

作品を読んで提出するレポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

現代英米文学作品解説(稲村松雄著 北星堂書店)
英米文学の名作を知る本(渡辺恵子編 研究社)
現代の英米作家100人(木内徹他編著 鷹書房弓プレス)

現代の芸術1 (書道)

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術3 (美術)

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】

前半

キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。
教材として樹脂パテ等(¥2500)を各自が購入する。

【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術2 (音楽)

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 声の出るしくみを知る(学園歌をうたう)
- 第2回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
(ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方)
- 第3回 発声練習と歌唱
- 第4回～9回 名演奏家によるオペラ鑑賞(カルメン、椿姫他)
- 第10回～12回 各自の課題(ジャンルは問わない)による実技発表とアドバイス
(毎回短時間を使って合唱曲を1曲仕上げる)

【評価方法】

授業内での実技演奏(各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可)と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術4 (映画)

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を追う傾向のある現代若者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものにしたい。

【授業計画】

*ミュージカル映画の「まるごと1本」の鑑賞を中心にしながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。

*ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を学ぶ。
*参考上映を予定している作品(上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。

『ウエスト・サイド物語』『バリの恋人』『プラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シェルブールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他

*有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法の特徴なども学習。
*延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。

*長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いざさかの変更がある。

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。5年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオードリー』(吉村英夫 講談社プラスα文庫)

現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業の目標】

- 1) 映画分析のための技術：
 - a. セグメンテーション (SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法 (映画ドラマにおける対立、競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画 (1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで) のスタイルとストーリーの語り方：
 - a. 「因果の関係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA (ファビュラ) =観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シューゼット、つまり「プロット」) =画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」やヒント)
 - c. ハリウッド映画はどのように「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

【授業計画】

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙2・3枚程度) にまとめて提出する。

課題: 「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画) の学期末評価は3つの宿題に基づく (学期末試験はなし):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図 (文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析 (原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

伝統芸能

安田徳子

【授業の概要】

日本の伝統芸能である歌舞伎を中心に、能・狂言・人形浄瑠璃 (文楽) も併せて、その歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどによる鑑賞と研究も行う。

【授業の目標】

芸能は文化の原点であり、人間の持つヒューマニズム、美意識、思想がもつとも素直に表現されている。これを知ること、日本人が育んできた心、ものの考え方、美意識を学びたい。

【授業計画】

1. 芸能とは
2. 芸能の発生
3. 民俗芸能・伝統芸能
4. 歌舞伎の成立 I
5. 歌舞伎の成立 II
6. 歌舞伎の女方
7. 歌舞伎の荒事
8. 歌舞伎の和事
9. 歌舞伎の舞台
10. 地芝居の楽しみ
11. 能・狂言
12. 人形浄瑠璃 (文楽)
13. 日本伝統芸能の特色と意味

猶、御園座十月の「四代目坂田藤十郎襲名披露吉例顔見世」興行、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演 (十二月) などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

歌舞伎入門 (おうふう)
歌舞伎のたのしみ (北白川書房)

【参考文献・資料】

その都度紹介する

現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】

現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているため、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の現代芸術としての側面を理解する。

【授業計画】

1. ドラマからポスト・ドラマ (脱ドラマ) という流れを理解する。
2. ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」(ドラマ) を見る、理解する。
3. 絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
4. 近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
5. ハイナー・ミュラー作「ハムレットマシン」(脱ドラマ) を見る、理解する。
6. ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術 (演劇に限定しない) を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

現代マナー論

佐々木紀子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

現代マナーの正しい知識を得、実践的な練習を通じその表現方法を身につける。

【授業計画】

1. マナーの重要性
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. 基本的なマナー
 - (1) 挨拶と返事
 - (2) 表情
 - (3) 態度
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかいと話し方
5. 実践的なマナー
 - (1) 電話のマナー
 - (2) 来客応対と訪問のマナー
6. マナーとタブー

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。詳しくは第1講で説明するので、必ず出席すること。

【テキスト】

授業中に指示する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)

第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

この間に

課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字語)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

メディア表現

鎌田 基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業の目標】

メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

言語表現

鷲塚美知代

【授業の概要】

音声表現。

マルチメディアの発達で人と人とが直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

【授業の目標】

わかりやすい日本語表現とはどのようなものか。奥深い日本語の世界を考察し音声表現としての日本語を磨いていく。また、メディアにあふれる気になる言葉を検証しながら最終的にコミュニケーション能力の向上を図る。

【授業計画】

1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
 2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 発声法
 3. 日本語の音声 2 (発音)
母音 子音 アクセント 鼻濁音
 4. 話し言葉の表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
 5. 文を読む
朗読
 6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート スピーチ インタビュー
 7. 現代言葉事情
敬語 言葉の変化 気になることば メディアとことば
 8. 自分をことばで表現してみよう
- 尚、授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

レポートによる。随時、授業後に提出するコメントあり。

【テキスト】

テキストは使用せず、レジュメ・資料を配布する。

職業と人生

樋口 貴子

【授業の概要】

将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

【授業の目標】

人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】

- 1) 21世紀の人材像
- 2) 職業観
- 3) プロフェッショナル意識
- 4) キャリア発達
- 5) キャリアコンピテンシー
- 6) 自己理解①
- 7) 自己理解②
- 8) コミュニケーション能力
- 9) 自己表現アサーション
- 10) ビジネスマナー
- 11) 職業研究
- 12) 企業研究
- 13) キャリアデザインと目標設定

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

職業と人生(樋口貴子著)

【参考文献・資料】

なし

生涯学習論

藤井基貴

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】

受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯発達と発達課題
- 3 戦後日本の教育改革
- 4 生きがいと自己実現
- 5 人生と学習計画
- 6 生涯学習施設の活用
- 7 ボランティアとNPO
- 8 高齢期の課題と学習支援

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著 有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著 ミネルヴァ書房）
参考文献については随時紹介する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- d. 学習と記憶
- e. 忘却と変容
- f. 防衛機制と無意識
- g. 心理療法
- h. 心理テスト
- i. 個人と集団
- j. 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

一般心理学

青柳真紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在であることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造
 - c 外圧と政策決定

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考（高島道敏 岩波ブックレット617）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2. 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人の暮らしと経済
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
6. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学（辻正次・八田英二著、有斐閣）
- (2) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）

生物学

多田萬里子

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

【授業の目標】

多様な生物が共有する統一性 - 細胞・繁殖・発生・成長・自己調節・進化など - について学び、生物の一員としてのヒトについての認識を高める。

【授業計画】

1. 生物の歴史
2. 生物の多様性
3. 生命の単位
生体を構成する物質
細胞の構造と機能
4. 代謝：生命維持のエネルギー
5. からだのなかの情報系
6. 恒常性の維持：ホメオスタシス
7. 個体の発生、生殖と分化
8. 遺伝情報の伝達 遺伝子の働き
9. 生体防御機構 血液のはたらき
10. 生命を操作する技術
遺伝子組み換え食品、クローン動物
11. 生物と環境

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

特に定めない
講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

生物学（ケイン著 東京化学同人）
エッセシャル遺伝学（布山喜章ら監訳 培風館）
現代生命科学の基礎（都築幹夫編 教育出版）
その他、授業中に適時紹介する。

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を統一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろな現象に関係のあることを理解する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 ニュートン力学、力学的エネルギー
- 4 ものの状態、熱と温度、圧力
- 5 熱力学
- 6 振動と波動、音と光
- 7 電気と磁気、電磁波
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫 ナツメ社）

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようなかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

- ・統計学の基本概念を理解し、統計的なものの見方、考え方を身につける。
- ・基礎統計量の算出や、統計的推測・統計的検定のやり方を習得する。

【授業計画】

- ・データの性質と基礎統計量
連続量と離散量、平均、分散、度数分布表、相関
- ・確率変数と確率分布
確率、正規分布、二項分布、ポワソン分布
- ・母集団と標本
無作為抽出、不偏推定値、中心極限定理
- ・統計的推測
点推定、区間推定、大数の法則
- ・統計的検定の考え方
仮説検定、棄却域、過誤確率
- ・統計的検定の事例
t検定、分散分析、カイニ乗検定

授業は基本的に上記の順で行うが、受講者の理解や関心にあわせて内容が変化することもある。

【評価方法】

定期試験の他、課題レポートが課されることもある。成績はこれらの結果から総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。

【参考文献・資料】

随時授業で紹介を行う。

実用日本語演習（生活実用文）

大西和美

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

日本語表現について、その変化の過程、世代間の相違等を踏まえつつ、日常生活におけるより適切な日本語表現について考え、学ぶこと。

【授業計画】

第1～2回 ことばの知識
 第3～6回 敬語
 第7～9回 手紙文
 第10～11回 文の書き方
 第12～13回 小論文
 なお、第7～13回は平行して自己表現について学び、順次短時間の発表を行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、小テストなどによる。

【テキスト】

新「ことば」シリーズ2「言葉に関する問答集—敬語編—」（文化庁）
 その他、適宜プリントを配布する。

英語コミュニケーション1（TOEIC I）

CURRAN, Beverley 二村慎一 水野 Stephenson, 友貴 安田千恵

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2（Listening I）

小沢 茂 樗木勇作 二村慎一
 水野 Stephenson, 友貴 安田千恵 横関美津紀 若山真幸

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3（Listening II）

小沢 茂 二村慎一 水野 Stephenson, 友貴 安田千恵

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

小沢 茂 CURRAN, Beverley 二村慎一 横関美津紀

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の Speed Reading 機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

MCGOLDRICK, Gemma

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

小沢 茂 二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma 横越 梓

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テスト TOEIC に向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

MCGOLDRICK, Gemma

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

小沢 茂 二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma 横越 梓

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I B

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I A

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II A

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II B

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

Get together and Talk II

NORRIS Harry T.

【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【授業の目標】

- There are three main objectives.
1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
 2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
 3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【評価方法】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【テキスト】

No text

【参考文献・資料】

<http://www.apple.com/support/isight/>

Get together and Talk I

石橋千鶴子 WOODMAN, Jo-Anne 太田晶子 二村慎一 福本明子

【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時（集中授業期間内 前期：8/7（月）～11（金）、後期：2007年2/13（火）～17（土））に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会（前期：6月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：6月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

*注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期 8/7（月）～11（金）、
後期 2007年2/13（火）～17（土）を予定。
事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。
詳細は掲示で発表。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目（4単位）以上を取得済みであること。
- 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
- 3) 全日程に出席できること。

上級英語セミナー 2006 A

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常的授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2006 B

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限(担当教員:難波豊子)、木曜日5限(担当教員:CURRAN, Beverley)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Central Japan

小沢 茂 福本明子 MCGOLDRICK, Gemma 山田久美子

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン 酢
日本経済新聞
中部電力
ブラザー工業
ヒルトンホテル
デンソー
太陽科学株式会社 など。

詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80% (各授業のレポート等)
出席 20%

【テキスト】

プリント

Traditional Arts in Japan

小沢 茂 二村慎一 福本明子 MCGOLDRICK, Gemma 山田久美子

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直接接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊(西川流)

尺八

琴

からくり

華道

歌舞伎

能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート 80% (各授業のレポート等)
出席 20%

【テキスト】

プリント

Multiculturalism in Aichi

ブイチトルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住してきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

- * 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- * 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- * 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- * 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- * 在住外国人支援事業を理解すること

【授業計画】

- 総論：多元文化社会について
 - 各論1：多元文化社会としての日本社会(ブイチトルン)
 - 各論2：多文化共生支援事業について
 - 各論3：在住外国人支援事業について
- 総務省および地域国際化協会の政策、事業について(外部講師・東京から)
 - 愛知県および愛知県国際交流協会の事業について(外部講師・県内)
 - 名古屋市および名古屋国際センターの事業について(外部講師・県内)
 - 豊田市および豊田市国際交流協会の事業について(外部講師・県内)
 - 経済産業省の事業について(外部講師・県内)
- 各論2：外国人コミュニティからの実態について
 - コリアンコミュニティ(外部講師・県内)
 - 中国人コミュニティ(外部講師・県内)
 - フィリピン人コミュニティ(外部講師・県内)
 - ブラジル人コミュニティ(外部講師・県内)
 - アメリカ人コミュニティ(外部講師・県内)
 - 留学生について(外部講師・県内)
 - 外国人研修生の送り出し国からの報告
タイ王国から(外部講師・タイ王国から)・前期
ベトナムから(外部講師・ベトナムから)・後期
- 各論3：在住外国人支援事業について
 - 生活相談事業について(外部講師・県内)
 - 日本語教育支援事業について(外部講師・県内)

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

PowerPoint Presentations

NORRIS Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・口頭発表に必要な論理的展開方法
- ・動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
- ・プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

【評価方法】

- ・出席状況
- ・プレゼンテーション
- ・ディスカッション参加への積極性

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Booklet Publishing

NORRIS Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
- ・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・アイデアの要約
- ・英語での自己表現方法
- ・図や表を使った表現方法
- ・タイトルや見出しの効果
- ・文章の段落構成

【評価方法】

- ・出席状況
- ・ブックレットなどの完成作品

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

中国語読解 1 A

河井昭乃 中塚 亮 楊 衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 陳 惠貞 中塚 亮 楊 衛平

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音（1） |
| 第二課 | 発音（2） |
| 第三課 | 発音（3） |
| 第四課 | 発音（4） |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|-------------|
| 第一課 | 発音（1） |
| 第二課 | 発音（2） |
| 第三課 | 発音（3） |
| 第四課 | 発音（4） |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞（介詞）・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几？ 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 現在幾点？ 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。假定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么？ 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么？ 結果補語“好”
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

河井昭乃 陳惠貞 楊衛平

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現“V+“过””
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現“V+“着””
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の“在+V”、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース A * 聴解中心

中塚 亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳 周素芬 楊衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|-------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コース B * 読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK(漢語水平考試)に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くこととでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

HSK 初等コースA *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 3

曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家庭生活・大学生活などについて語ることができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舎のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返し構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”。
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

中国語会話 4

曹志偉

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
2. 旅行に行こう
3. 体を鍛える
4. ついてない一日
5. ダイエット
6. 友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースA *聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文1

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース1 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2 A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等高級コース1 A * 聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。1課を2回の授業で進めてゆく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門1

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 陳惠貞

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではなく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK 中高等級コース2A *聴解中心

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語中高等級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中高等級コース2B *読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中高等級コース2A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中高等級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中高等級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中高等級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

大森信徳

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中高等級コース2A>か、<HSK中高等級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、1課を2回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

李正子 キム ソヨン 金賢珍 バク ヨンソン

【授業の概要】

ハングル (韓国・朝鮮の文字) の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果 (韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる) をねらい、週2回履修を義務づける。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心とする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それをを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
- 第2回～第5回 ハングルの読み書き1～4、まとめ
 - 1) 基本母音字 (10個)、挨拶1
 - 2) 基本子音字1 (平音9個)、挨拶2
 - 3) 基本子音字2 (激音5個)、名詞1
 - 4) 合成子音字 (濃音5個)、名詞2
- 第6回～第8回 ハングルの読み書き5～7
 - 1) 合成母音字1 (4個)、形容詞1
 - 2) 合成母音字2 (7個)、形容詞2
 - 3) 終声子音字 (7種)、叙述格助詞
- 第9回～第10回 発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ
- 第11回～第12回 尊敬形1、平叙文・疑問文1・2、助詞1・2
- 第13回～第14回 尊敬形2、否定文、助詞3・4、まとめ
- 第15回 中間試験
- 第16回～第17回 上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2
- 第18回～第20回
 - 1) 勧誘および命令文、転成語尾1
 - 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2
 - 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
- 第21回～第23回
 - 1) 略对上称形、転成語尾3
 - 2) 平常形、先語末語尾1
 - 3) 曖昧形、先語末語尾2
- 第24回～第25回
 - 1) 変則活用2、先語末語尾3
 - 2) 固有数詞、表現練習、まとめ
- 第26回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

キム ソヨン 金由那 鄭樹漢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それをを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、こんにちは
- 第2回 韓国は初めてですか
- 第3回 ここが寮です
- 第4回 3月2日からです
- 第5回 どこで売っていますか
- 第6回 MTって何ですか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 スタンドラップを見せてください
- 第9回 一杯飲みましょう
- 第10回 大学生活はどうですか
- 第11回 よく聞けば勉強になります
- 第12回 誕生日パーティをしましょう
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

金由那 鄭樹漢 バク ヨンソン 尹大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それをを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、入門講座の復習
- 第2回 サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
- 第3回 明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
- 第4回 喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
- 第5回 韓国料理屋で。変則2、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
- 第6回 道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
- 第7回 中間試験
- 第8回 地下鉄の駅で。変則4、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第9回 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第10回 郵便局に行く。用言の連体形
- 第11回 約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第12回 天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

キム ソヨン 鄭樹漢 バク ヨンソン 尹大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、前期の復習
 - 完全制覇5級・挨拶言葉1
- 第2回 挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
- 第3回 日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
- 第4回 基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
- 第5回 漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
- 第6回 韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第7回 完全制覇4級・基本語彙と文法1
- 第8回 基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
- 第9回 基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
- 第10回 基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
- 第11回 韓国語の発音、応用問題1
- 第12回 応用問題2
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!! 「ハングル」能力検定試験5級・4級 (小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

キム ソヨン 鄭 樹漢 尹 大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現、
- 第3回 順杯、平行動作と逆接の語尾、変則1、動詞の過去の連体形
- 第4回 会食、補助動詞、引用文縮約形
- 第5回 業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
- 第6回 整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 再会(1)、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
- 第9回 再会(2)、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
- 第10回 日本の取材(1)、変則2、目的の表現、義務・必要性の表現
- 第11回 日本の取材(2)、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文
- 第12回 整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語2(油谷幸利・南相環 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

李 正子 キム ソヨン 尹 大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、3級完全制覇1・基本語彙と文法2
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語文訳
- 第3回 各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感嘆の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
- 第10回 直接語法と間接語法1
- 第11回 直接語法と間接語法2
- 第12回 直接語法と間接語法3、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験3級(小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

鄭 樹漢 尹 大辰

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180~250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう
- 第2回 週末には何をしましたか
- 第3回 またお電話いたします
- 第4回 料理とか旅行です
- 第5回 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6回 韓国料理ができますか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか
- 第9回 どこにいらっしゃいますか
- 第10回 バスか地下鉄に乗っていますか
- 第11回 過ぎた水曜日からです
- 第12回 このバックパックは買った
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

金 賢珍 尹 大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240~300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本語案内放送、変則1、感動・独白・感嘆の表現、
- 第3回 日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
- 第4回 板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
- 第5回 韓国映画、変則2、推量の表現
- 第6回 整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 PCパン、変則3、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
- 第9回 東大門市場、選択の表現
- 第10回 コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
- 第11回 あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則4
- 第12回 整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3(油谷幸利・南相環 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 3

金賢珍 鄭樹漢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆつり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 履修登録と単位数
- 第3回 パイト探し
- 第4回 口座開設と自動振込みの手続き
- 第5回 天気予報そして日本の天候
- 第6回 山つづと韓国の春
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 韓国の食文化および調理法
- 第9回 博物館めぐり
- 第10回 韓国と日本の庭園文化の比較
- 第11回 郵送：飛行便と船便
- 第12回 夏のヘアスタイル
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

バク ヨンソン 尹大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をととして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現 1
- 第5回 各種活用表現 2、注意すべき用言とその用例 1
- 第6回 注意すべき用言とその用例 1、慣用表現、まとめ、中間テスト
- 第7回 模擬試験 1、解答と解説
- 第8回 模擬試験 2、解答と解説
- 第9回 模擬試験 3、解答と解説
- 第10回 聞き取り・書き取り模擬試験 1、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験 2、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験 3、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

情報技術基礎Ⅰ

宇佐美貴史 大野誠寛 小林久恵 定国伸吾 田川元也
諸上茂光 吉川大弘 笠浩一朗 渡辺恵人

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

情報技術基礎Ⅲ

上原 衛 奥村文徳 水谷聡志

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

【授業の目標】

WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。

なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著 近代科学社）

情報技術基礎Ⅱ

奥村和則 奥村文徳 加藤浩樹 小林久恵
藤原孝幸 水谷聡志 水野勝仁 吉川大弘

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅲ」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編 共立出版）

ネットワーク技術入門

加藤浩樹

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9. HTMLとホームページ（4）：サウンドの再生と動画の再生
10. ホームページ課題作成（1）
11. ホームページ課題作成（2）
12. CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシー（三和義秀著 共立出版）

プログラミング入門

吉川和男

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC 言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造
9. 繰り返し構造 (1)
10. 繰り返し構造 (2)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習の際には記憶メディア (FD、USBメモリ等) が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

CG 入門

石丸 緑 藤原孝幸

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うビックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス1：基礎編
6. コンピュータグラフィックス2：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

ビジュアル情報表現：デジタル映像表現・Webデザイン入門 (CG-ARTS 協会)

情報数学入門

田中秀和

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CGやゲームプログラミングで特に重要な代数学の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1. 集合・命題と制御処理
2. 2進数による情報の表現
3. 三角関数
4. ベクトル
5. 図形方程式
6. 行列
7. 図形の変換

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明 笠浩一郎

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 III

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

【授業計画】

- テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
1. Webデザイン概論
 2. テキスト『Webデザイン』検証
 3. HTML
 4. JavaScript
 5. スタイルシート
 6. DreamweaverとFireworks
 7. FlashムービーとActionScript
 8. Javaアプレット、CGI、XML
 9. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 10. 平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 11. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
 12. 平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. 基本Webテクノロジーとその活用
2. 最新のWebテクノロジーの概要
3. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6. 平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
8. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

医療福祉論

高橋俊彦

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

医療、保健、福祉を人権尊重という人間学的立場から統合する医療福祉学の基本的概念と社会的役割、その実践について学ぶ。

【授業の目標】

将来、医療福祉に関する職業に従事する場合もそうでない場合も、この国の医療と福祉がどのようにになっているかに、常に関心をもてるよう基礎的な知識考え方を身につける。

【授業計画】

講義を中心としてときに討論の時間も作る予定

- 第1回 医療福祉の概念
- 第2回 医療福祉の歴史
- 第3回 社会保障制度
- 第4回 医療制度
- 第5回 医療保障制度
- 第6回 医療費、国民の健康、医療行政
- 第7回 介護保険制度
- 第8回 介護保険と医療保険
- 第9回 医療福祉における人権保障
- 第10回 医療福祉の援助対象者
- 第11回 医療福祉援助の方法
- 第12回 医療ソーシャルワーカーの業務
- 第13回 医療福祉の今後の展望と課題
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。場合によってレポートによることもある。

【テキスト】

現代医療福祉概論（児島美都子・成清美治 学文社）

【参考文献・資料】

講義の中で紹介することもある。

医療貢献関係法規

初谷良彦

(福祉貢献学科)	1年 後期 選択 2単位
(言語聴覚学専攻)	3年 後期 必修 2単位
(視覚科学専攻)	1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉事業の概要、法制、サービス体系の理解、種々の福祉関連職種との連携などについて学び、社会福祉の全体像について学ぶ。

【授業の目標】

近年、医療機関に対する各種の規制緩和、患者の権利意識の高まり、さらには医学に関する情報量等が飛躍的に増大してきているなど、医療界を取りまく環境は大きく変化している。医療にかかわる法律知識を身につけることによって医療に対する理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 医療の法律学の概要と医事法における方法論
- 第2回 医師法
- 第3回 医療法
- 第4回 保険医療機関規則
- 第5回 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
- 第6回 臓器移植法
- 第7回 医療訴訟に関する法律（民法・刑法・刑事訴訟法）
- 第8回 生命の始まりと生命の終わりに関する法律（民法・刑法・母体保護法等）
- 第9回 医療事故の解決方法
- 第10回 レセプト・カルテの開示問題
- 第11回 告知と説明義務
- 第12回 先端医療技術の法的規制
- 第13回 尊厳死・安楽死
- 第14回 医療倫理
- 第15回 医療の質

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

コミュニケーション障害論

西村辨作

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚、聴覚、言語、肢体、高次脳機能などに生じる諸障害が、コミュニケーション能力とどのように関連しているかについて、障害発生のメカニズム、障害の特性を中心に理解し、さらにそれらに対する有効なエイドのあり方について学ぶ。

【授業の目標】

1. コミュニケーションの障害について理解を深める。
2. コミュニケーションの障害を持つ人にはどのような援助が必要か考える。

【授業計画】

講義形式による。資料プリントを毎回配布する。ビデオ教材も使用する。

- 第1回 コミュニケーションについて
- 第2回 人間の言語行動の特徴
- 第3回 子どもの発達障害（ビデオ）
- 第4回 認知発達のみちすじ
- 第5回 心理社会的な成長
- 第6回 こころの組み立てと防衛機制
- 第7回 自閉症（ビデオ）
- 第8回 知的障害
- 第9回 軽度発達障害
- 第10回 構音障害
- 第11回 失語症（ビデオ）
- 第12回 聴力障害
- 第13回 障害児を持つ家族
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 まとめ

【評価方法】

レポートにより評価する。（毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合には失格となる。）

【テキスト】

ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

公衆衛生学概論

棚橋昌子

（福祉貢献学科） 2年 後期 選択 2単位
（言語聴覚学専攻） 2年 後期 選択 2単位
（視覚科学専攻） 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

生活環境の変化により、大気・水等の環境汚染や運動不足・飽食による糖尿病等の生活習慣病が問題となっている。医療保健統計から公衆衛生の現状を学び、健康を保持・増進する視点から、疾病予防対策をたてる公衆衛生の理論と実践について学習し、保健医療対策の現状を理解する。

【授業の目標】

医療従事者として必要な予防医学および公衆衛生の基礎を学修する

【授業計画】

- 第1回 健康の定義、健康の理解
- 第2回 公衆衛生の歴史
- 第3回 疾病構造の変化
- 第4回 生活習慣病（1）悪性新生物
- 第5回 生活習慣病（2）循環系疾患
- 第6回 感染症の疫学
- 第7回 健康づくり対策
- 第8回 保健統計（1）人口・出生・死亡
- 第9回 保健統計（2）疾病統計
- 第10回 医療統計
- 第11回 地域保健福祉（1）母子保健
- 第12回 地域保健福祉（2）高齢者保健
- 第13回 文明の発展と健康（1）
- 第14回 文明の発展と健康（2）
- 第15回 まとめ

【評価方法】

受講態度・授業内演習・レポートの総合評価

【テキスト】

毎回プリントを配布する

【参考文献・資料】

公衆衛生学入門（吉永文隆編著 南山堂）
国民衛生の動向（厚生統計協会）
国民の福祉の動向（厚生統計協会）
医学一般 社会福祉士養成講座13（中央法規出版）

保健福祉論

棚橋昌子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

保健・医療・福祉の統合を進める最近の動向を踏まえて、地域や職域等における保健福祉の現状を理解する。特に母子保健・高齢者保健は住民の身近な問題として、地域保健法により地域密着型となり、地域福祉との接点が大きくなった。具体例により保健福祉の課題とあり方を学習する。

【授業の目標】

保健と福祉の接点を理解し、21世紀福祉ビジョンを主体的に考える能力を養う

【授業計画】

- 第1回 保健と福祉の関連
- 第2回 保健と福祉の接点1 保健からみた福祉
- 第3回 保健と福祉の接点2 福祉からみた保健
- 第4回 保健と福祉の接点3 生活の中の保健福祉
- 第5回 地域保健法
- 第6回 21世紀福祉ビジョンー少子高齢社会に向けて
- 第7回 行政の保健福祉対策
- 第8回 高齢者の保健福祉1
- 第9回 高齢者の保健福祉2
- 第10回 生活習慣病予防と介護予防
- 第11回 児童と家庭をとりまく環境1
- 第12回 児童と家庭をとりまく環境2
- 第13回 少子化対策と育児支援
- 第14回 現代の保健福祉の課題
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況及びテストの総合評価とする

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

保健医療福祉の統合（前田信雄著 勁草書房）
これからの地域保健（厚生省健康政策局監修 中央法規出版）
保健福祉学概論（日本保健福祉学会編 川島書店）

医学概論 I

森滋夫

(福祉貢献学科) 1年 前期 必修 2単位
(言語聴覚学専攻) 1年 前期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業の目標】

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成 2) 細胞と組織 3) 皮膚 4) 骨格 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系 7) 感覚器 8) 内分泌腺 9) 血液 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫 12) 呼吸器 13) 消化器 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性 16) 生殖器 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

使用せず

【授業の概要】

心を病むとは、どのようなことなのか。さまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、そして、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。また、神経症、心身症、うつ病（躁うつ病）、パーソナリティ障害、妄想障害、統合失調症、その他精神医学に含まれる広範な領域について学習する。

【授業の目標】

人の健康にとってますます重要な意味をもつようになっている心の問題について、その病を通して理解を深め、他の身体の病気と同様に身近なものであることを修得できるようにすること。

【授業計画】

概論：第1回	精神医学とは（概説、歴史、成因、分類）
第2回	症候論と方法論（症状、面接、検査、診断）
各論：第3回	器質性精神障害と高齢者の病
第4回	薬物依存と物質使用による障害
第5回	統合失調症とその関連障害
第6回	気分（感情）障害（躁うつ病）
第7回	神経症と心身症（身体表現性障害）
第8回	生理的・身体的要因による障害（摂食、睡眠、性）
第9回	発達と人格および行動の障害
第10回	児童・青年期の精神障害
総論：第11回	薬物療法・心理社会的治療・リハビリテーション
第12回	社会精神医学と地域精神保健
第13～14回	リエゾン精神医学とチーム医療
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポートの提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

学生のための精神医学（太田保之・上野武治編集 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

新版 精神医学事典（弘文堂）
精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）

【授業の概要】

心を病むとは、どのようなことなのか。さまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、そして、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。また、神経症、心身症、うつ病（躁うつ病）、パーソナリティ障害、妄想障害、統合失調症、その他精神医学に含まれる広範な領域について学習する。

【授業の目標】

精神障害の一部を学ぶことによって、精神障害についての理解を深め将来、自分、家族、友人、職場の人々等において精神障害が見られた場合、適切に理解し、対応できる姿勢を身につける。また社会の中での精神障害に対する偏見が少なくなるように心がける姿勢も身につける。

【授業計画】

講義方式による。

第1回	精神と身体、精神現象のとらえ方
第2回	正常と異常の考え方、精神障害の原因
第3回	神経症 1) 定義、種類 (1)
第4回	神経症 2) 定義、種類 (2)
第5回	神経症 3) 成因論
第6回	神経症 4) 治療
第7回	心身症
第8回	境界例 1) 概念
第9回	境界例 2) 成因論、治療論、その他のパーソナリティ障害
第10回	気分障害
第11回	妄想性障害
第12回	統合失調症 1) 定義、症状
第13回	統合失調症 2) 治療、処遇
第14回	その他の精神障害
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記試験）による。レポートの場合もある。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版）

【参考文献・資料】

青年期（笠原嘉 中公新書463）

【授業の概要】

科学的方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業の目標】

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

【授業計画】

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1 精神分析
 - 2 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1 発達
 - 2 知能
 - 3 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

【授業の概要】

科学的方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業の目標】

1. 心理学の概要を理解する。
2. 人の発達段階のそれぞれの時期に特有な心理的特徴について理解する。
3. 人間理解とその技法について理解する。

【授業計画】

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 知覚・認知
 - 1 知覚の成立と諸相
 - 2 社会的認知
 - 2) 自己と他者
 - 1 自己の認識・自己を守る
 - 2 対人認知・対人関係の認知
 - 3 対人関係の発展
 - 3) 欲求・動機づけと行動
 - 4) 適応
2. 発達の心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) パーソナリティ理論
 - 1 類型論
 - 2 特性論
 - 3 力動論
 - 2) パーソナリティの査定

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

実験心理学

川嶋英嗣

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

実験心理学の科学的位置づけについて理解し、感覚、知覚、認知・学習、生理、情動、行動などの人間の諸能力を実験的に測定する技法やこれまでの知見について学ぶ。

【授業の目標】

様々な測定技法の理論的背景を理解し、それらの技法を用いた心理実験の実施を可能にする

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 精神物理学的測定法 (1)
- 第3回 精神物理学的測定法 (2)
- 第4回 精神物理学的測定法 (3)
- 第5回 精神物理学的測定法 (4)
- 第6回 精神物理学的測定法 (5)
- 第7回 ウェーパー・フェヒナーの法則
- 第8回 一対比較法 (1)
- 第9回 一対比較法 (2)
- 第10回 マグニチュード推定法
- 第11回 信号検出理論 (1)
- 第12回 信号検出理論 (2)
- 第13回 SD法
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席、レポート、期末試験（筆記）により評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

実験心理学の基礎 (中島義明 1992 誠信書房)
心理測定法への招待—測定からみた心理学入門— (市川伸一編 1991 サイエンス社)

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業の目標】

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

【授業計画】

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

法学レッスン (第3版) (中島編 成文堂)。

【参考文献・資料】

資料は当方で作成し、随時配布する。

社会学

北仲千里

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

【授業計画】

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

社会福祉選書15 社会学（小林修一編著 建帛社）
社会学がわかる事典（森下信也著 日本実業出版社）

保育学

本山ひふみ

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

保育という言葉の意味の理解に基づき、従来の身体発育・精神発達観の検討を通して、保育の基本に対する理解を深める。さらに、家族の多様化や地域社会の変化、幼保一元化の行政上の動向等、子どもをとりまく生活環境の変化の中で、保育の課題について学習する。

【授業の目標】

乳幼児がもっている自分自身で伸びようとする力に気づき、それを支援する大人のかかわりや環境構成の大切さを理解し、次世代育成の意識を身につける。

【授業計画】

- | | |
|-------|----------------------|
| 第1回 | 「保育」とは何か。なぜ「保育」を学ぶのか |
| 第2回 | 母体の健康管理 |
| 第3回 | 新生児期の発達と生活 |
| 第4回 | 乳児期の発達と生活 |
| 第5回 | 幼児期の発達と生活 |
| 第6～7回 | 基本的な生活習慣の形成 |
| 第8～9回 | 子どもの遊びと文化 |
| 第10回 | 子どもの生活と環境 |
| 第11回 | 親の役割と子どもの人格形成 |
| 第12回 | 集団保育の意義と種類 |
| 第13回 | 子育て支援事業 |
| 第14回 | 子どもの病気の予防と事故防止 |
| 第15回 | 期末試験 |

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新保育学（岡野雅子ほか著 南山堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

遺伝学

多田萬里子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの遺伝の基礎をメンデル遺伝から分子遺伝学まで学び、遺伝子・ゲノムから生命の仕組みを理解する。ヒトのメンデル遺伝の特徴、遺伝子の構造とはたらき、情報の伝達と発現、個体発生における遺伝子発現の調節、老化のメカニズム、遺伝子操作などを学び、医療への応用の可能性を社会的視点からも判断できるようにする。

【授業の目標】

遺伝学の基礎から疾病発生のメカニズムまでを理解できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 メンデルの法則 遺伝のルール
- 第2回 染色体 遺伝情報を担う
- 第3回 ゲノム、遺伝子、DNA
- 第4回 遺伝情報の発現 遺伝暗号と形質発現
- 第5回 突然変異 情報はどのように変化するか
- 第6回 体細胞突然変異とがん関連遺伝子
- 第7回 ヒトの生殖 性の決定、発生に関与する遺伝子
- 第8回 ヒトの遺伝性疾患 遺伝のパターン
- 第9回 遺伝性疾患の原因遺伝子の同定と機能
- 第10回 老化と寿命に関する遺伝子
- 第11回 進化 集団と自然選択
- 第12回 免疫遺伝学 抗体の多様性
- 第13回 遺伝子工学 遺伝子を操作する
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず、講義の要旨は適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ヒトの遺伝学 (清水信義監訳 東京化学同人)
- ヒトの遺伝 (中込弥男著 岩波新書)
- 遺伝子とゲノム (松原健一著 岩波新書)
- 遺伝子の生物学 (石川統一著 岩波書店)

生理学

清水 暁

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

医学・生物学の広範な学問領域を包含する人体生理・生化学の概念を体系的に効率よく学ぶことを目的とする。精緻な身体のおしくみとその機能について、重要な基本的概念を理解し不可欠な基礎的知識を習得すべく、体液・呼吸・栄養・代謝・内分泌・感覚等主として人体の植物的機能の生理機序を中心に学習する。

【授業の目標】

ヒトの身体は種々の器官系から成り立っており、これらが調和して機能することにより生命が維持されている。各種器官系の機能とその調節について概説し、生命の仕組みについての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション (概論)
- 第2～7回 人体の機能系
体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、
泌尿器系、生殖系
- 第8～14回 人体機能の調節系
神経系 (中枢神経系、感覚系、運動系、自律神経系)
内分泌系
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

やさしい生理学 (森本武利、彼末一之編、南江堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

【授業の概要】

講義に連携して、人体成分や細胞についての解剖生理、臨床生化学的手技による観察、定性・定量分析等を交え、身体のしくみと機能の更なる理解を深めるべく学習する。演習テーマとして光学顕微鏡による血球や尿沈渣の観察、分光光度計による血液成分や尿成分の分別定量分析、ホメオスタシスに関わる体成分や血圧、体温変化等についての観察・測定実習を実施する。

【授業の目標】

体液成分の分析、エネルギー代謝量の計算、体力テスト、感覚テストなどを通して体験的に生理学の理解をすすめ、身体のしくみの機構と調節についての基礎となる知識の理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2～5回 体液・血液についての講義と実験
血液成分及び酵素の分析
尿成分の分析
- 第6～8回 エネルギー代謝についての講義と実験
栄養所要量の算定
エネルギー摂取量の算定
- 第9～11回 体格、体力、疲労についての講義と実験
身体計測と肥満度
体力テストと全身持久力
- 第12～14回 神経、感覚についての講義と実験
体性感覚
特殊感覚
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

【授業の概要】

人が自らに与えられた環境の中で、心身ともに健全な生活を営むことができるように、健康の維持と増進を目指し、正しい生活習慣を確立するための手段を実践的に学習する。健康の概念、食習慣、運動習慣等を授業テーマとして取り上げ、望ましい生活条件の追求、生活活動条件の整備について医学的見地から学ぶ。

【授業の目標】

1. 人体の仕組みとその働きの概要を理解する。
2. 人の健康を脅かす種々の要因について学ぶ。
3. 健康の維持と増進に関する実践的知識の習得を目指す。

【授業計画】

以下のテーマを中心に学習する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 健康の定義
- 第3回 からだの仕組み
- 第4回 女性とカルシウム
- 第5回 健康科学実験（1）骨密度の測定
- 第6回 血液の仕組みと働き
- 第7回 健康科学実験（2）血液標本の顕微鏡観察
- 第8回 貧血を防ぐために
- 第9回 健康科学実験（3）ヘモグロビンの比色定量
- 第10回 血液型の不思議
- 第11回 健康科学実験（4）血液型の判定
- 第12回 消化と吸収
- 第13回 肥満と生活習慣病
- 第14回 健康科学実験（5）体脂肪率の測定
- 第15回 まとめ

授業の進め方は講義を主体に、テーマによりVTRの視聴や、簡単な計測、課題レポートの作成なども行う予定である。

【評価方法】

メモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時指示する。

基礎生命学

多田萬里子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

遺伝情報、個体の維持、内分泌系、神経系による情報伝達、免疫応答などの多様な生命現象について学ぶ。病気の原因説明や老化の仕組み、遺伝子操作などの最先端の研究成果の紹介を通して、日々進展する生命科学技術が人類の福祉にどのように貢献できるかを学ぶ。

【授業の目標】

人体の構造と機能について学び、健康についての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 人体の成り立ち
- 第2回 栄養素の消化・吸収
- 第3回 血液の働き
- 第4回 生体の恒常性を調節するシステム：内分泌系と神経系
- 第5回 刺激の受容と反応
- 第6回 生命の連続性：遺伝情報の伝達
- 第7回 ヒトの遺伝
- 第8回 ヒトの発生
- 第9回 生体の防御：免疫と疾患
- 第10回 加齢と寿命
- 第11回 病気の成り立ちと予防（1）生活習慣病
- 第12回 （2）感染症
- 第13回 生命科学技術と21世紀の社会
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業時間内小テスト・期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

- 基礎の生化学（鶴飼篤著 東京化学同人）
- ヒトの生物学（太田次郎著 裳華房）
- その他 適宜紹介する

医療福祉統計演習Ⅰ

棚橋昌子 西和久 安田恭子 行松慎二

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

医療保健福祉分野の統計の見方および分析の基本を学ぶ。独自に収集した資料を適切に集計・分析するために統計解析ソフトの利用法を学習し、分布・平均値・相関等の統計解析の基本を習得する。また、解析結果を正しく解釈、推論する技能を習得する。

【授業の目標】

推測統計学の基本的な考え方を理解するとともに、統計解析ソフトSPSSを用いた統計処理の技法を学習する。最終的には実験・調査の計画に即して適切な統計的検定を施し、算出された結果を正確に読み取ることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの入力方法（ExcelおよびSPSS）
- 第3回 統計ソフトSPSSによる基本統計量の算出と区間推定
- 第4回 課題演習（1）
- 第5回 2つの母平均の差の検定（1）；独立したサンプルのt検定
- 第6回 2つの母平均の差の検定（2）；対応のあるサンプルのt検定
- 第7回 ウィルコクソンの順位和検定と符号付順位検定
- 第8回 課題演習（2）
- 第9回 一元配置の被験者間分散分析
- 第10回 二元配置の被験者間分散分析
- 第11回 課題演習（3）
- 第12回 反復測定分散分析
- 第13回 母比率の差の検定（1）； 2×2 のカイ二乗検定
- 第14回 母比率の差の検定（2）； $L \times M$ のカイ二乗検定と残差分析
- 第15回 課題演習（4）

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度；40点）および授業内課題（4回実施；60点）により評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第4版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

- 医療・看護のためのやさしい統計学；基礎編（山田覚著 東京図書）
- 実践心理データ解析（田中敏著 新曜社）
- よく分かる医療・看護のための統計入門（石村貞夫・萬里小路直樹著 東京図書）

医療福祉統計演習Ⅱ

小村賢二 安田恭子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

表計算ソフトおよび統計解析ソフトを利用して、大量データや多変量データを集約、解析、推論する方法を学ぶ。その中に含まれる複雑な情報を解析する方法、特に多変量解析の基礎を実践的に学ぶ。

【授業の目標】

EXCELとSPSSを使いデータの分析ができ、コンピュータの結果が理解できるようにすること。

【授業計画】

- 第1回～4回 資料分析（データ解析）についてEXCELとSPSSを使い基本統計量から散布図、相関係数を復習する。
正規分布、標準正規分布、T分布、 χ^2 乗分布、F分布を復習し、独立性の検定と分散分析まで復習。
- 第5回～6回 多変数の関係を学び、データに最小2乗法を適用した単回帰から重回帰分析によるデータ解析を学ぶ。
(EXCEL,SPSS)
変数増減法、ステップワイズ法等による変数の選択とR2乗。
- 第7回～8回 カテゴリーデータの解析について臨床アンケート調査の分析を表やクロス表分析、クラスター分析から学ぶ。
(SPSSによるシンタックスの実行や解析の結果のグラフ表現)
- 第9回～10回 カテゴリーデータについて分割表の分析からロジスティック回帰分析による因果性の解析まで学ぶ。
(これはある人が動脈血圧に罹る確率を年齢、最大血圧、最小血圧、コレステロール、体重等のデータから予測したり、介護認定モデルで介護が必要であるか必要でないかモデルから解析するのに役立ちます。)
- 第11回～12回 カテゴリーデータの多変量解析。(SPSS)
- 第13回～14回 因子分析の方法とSPSSによる事例分析(Y-G性格テスト(矢田部-ギルフォード))
- 第15回 医療データの解析とレポートの作成。

注；SPSSの臨床データはコピー配布しますのでUSBまたは3.5インチのフロッピーディスク（2HD 1.3MB）を2枚持参のこと。

【評価方法】

出席状況と実習課題の提出とレポートの提出によって評価する。
毎回講義と実習をしますので欠席しないこと。

【テキスト】

多変量解析について；クラスター分析、主成分分析、因子分析
指定せず（資料を配布）

【参考文献・資料】

医学・家政・看学のための統計データ解析（小村賢二 杉山書店）

心理アセスメント演習

永田忠夫

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の能力やパーソナリティなど直接観察測定できない人の心の状態を科学的方法を用いて査定する（心理アセスメント）方法を学ぶ。心理査定の理論、技法、応用などについて学び、医療現場で活用されている諸心理検査の特性や仕組みについて理解し、それを用いて適正な心理アセスメントする技法を習得する。

【授業の目標】

1. 心理アセスメントの理論・方法を学び、具体的例についての適用の仕方を体験する。
2. 心理的アセスメントの技法を修得する。

【授業計画】

1. 心理アセスメント法について
 - 1) 心理査定の理論
 - 2) 心理査定の方法
 - 3) 心理査定法具体例
2. 心理アセスメント技法と評価
 - 1) 知能検査
 - 2) 性格検査（質問紙法）
 - 3) 性格検査（作業検査法）
 - 4) 性格検査（投影法）

【評価方法】

受講態度・出席回数・レポート・筆記試験等を総合して評価する。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

救急救命医学

担当者未定

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

救急医療と救急医学、救急処置、ショックと生体反応、重症救急患者の管理、救急医療と脳死等のトピックスの学習を通して、医療の原点ともいえる救急救命医学の基礎について学ぶ。

福祉貢献論

伊藤春樹 高橋俊彦 谷口明広 初谷良彦

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

(高橋俊彦教授) 精神保健福祉に関する基礎的な課題について概観し、精神科医療・メンタルヘルス領域において精神保健福祉士の役割が重要であることを理解させる。また、学生の日常生活や現代社会の中で問題化しているメンタルヘルスについて具体例に基づき考察し、精神保健福祉を学ぶことの意義を理解させるとともにそれを学ぶ意欲を醸成する。

(伊藤春樹教授・谷口明広教授) 各領域における社会福祉に関する基礎的な課題について概観し、社会福祉士や社会福祉について学んだ者がその専門性を活かしていかかに社会に貢献しているかを個別的具体な事例によって示し、社会福祉を学ぶ意義を理解させるとともにそれを学ぶ意欲を醸成する。

(初谷良彦教授) 普遍的な人間の尊厳についてどうあらねばならないかを講義し、それを基本とする社会のあり方や制度の問題を取り上げ、福祉マインドの基本的な態度を養う。

【授業の目標】

福祉に貢献する人材となるための基礎的な素養を身につけ、福祉を学ぶ意欲や将来のスペシャリストとしての意識を喚起することを目的とする。

【授業計画】

(初谷良彦教授)

第1回 社会福祉は価値観をもった学問。熱い胸をもって学ぶ

第2回 「福祉は人である」という視点

第3回 福祉の心・共感と連帯、ひとりひとりの個人の尊重

(谷口明広教授)

第4～5回 高齢者福祉分野における貢献例

高齢者福祉の現状と課題を紹介し、特別養護老人ホームを始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、公的介護保険の充実により、在宅生活を可能にできたケアマネジャーの業務を紹介し、在宅生活を支える人材として貢献している事例を見ていきたいと考えている。内容としては、高齢者が抱えている福祉的課題だけではなく、その家族が問題と感じているものにも焦点を当てていきたい。

第6～7回 障害者福祉分野における貢献例

障害者福祉の現状と課題を紹介し、身体障害者療護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、支援費制度がスタートし、重い障害をもつ人たちであつても地域社会で自立した生活が営めるようになった現状において、相談支援事業等で働いている相談員の業務を見ていくことにより、障害者福祉に貢献している人たちを見ていきたい。内容としては、重度障害をもつ人たちの自立生活問題が中心となるが、教育や就労の問題も取り上げていきたい。

(伊藤春樹教授)

第8～9回 児童福祉分野における貢献例

児童福祉の現状と課題を紹介し、乳児院や養護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、児童福祉の問題は「家族」というものと深い関係性があるので、家族を対象とする業務も紹介していきたい。少子化や離婚の問題が社会問題として取り上げられる現状において、児童福祉の分野で活躍している事例を見ていきたいと考えている。内容としては、児童虐待や放課後の問題を中心に取り上げたい。

第10～11回 住みよい「まちづくり」における貢献例

ハートビル法や交通バリアフリー法の制定により、誰もが住みやすい街を築いていこうとする働きかけが顕著になってきている。このような分野における福祉従事者の現状と課題を紹介したいと考えている。「まちづくり」は、建物や乗り物というハード面ばかりではなく、市民の関心や理解というソフト面に対する貢献も、事例をあげて見ていきたい。

(高橋俊彦教授)

第12～14回 精神保健福祉法

第15回 期末試験

【評価方法】

各担当教員による評価(レポート・テスト・出席状況等)を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じて参考文献を紹介したり、資料やレジュメを配付したりする。

【参考文献・資料】

必要に応じて参考文献を紹介したり、資料やレジュメを配付する。

福祉貢献基礎演習

杉浦信彦 棚橋昌子 西和久

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

大学での授業に主体的に関わる姿勢を確立することを目的に、ゼミ形式の少人数授業を行う。福祉貢献学科の基礎となる文献検索法および文献読み取り、レポート作成の基本、意見の表明と集約技術の基本等を学習する。

【授業の目標】

- 1、授業に主体的に参加する姿勢を養う
- 2、文献検索・レポート作成等の基本を学修する

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2～5回

講義活用法、文献検索法、文献講読の基本、発表の基本、レポート作成の基本 等

第6～7回

福祉入門講座(2回)

第8～14回

テーマ研究演習(7回)

各自が設定したテーマに関するレポートを作成し、発表する。

第15回 予備(学術講演等)

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

フィールドスタディ入門

諏訪真美 瀧 誠 棚橋昌子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉貢献学科では、福祉施設のみでなく、広く地域の人と関わることにより、そこに発生する課題を発見し、問題解決に取り組む能力が重視される。施設・地域等のフィールドを準備し、体験レポートを作成し、現場の課題等に取り組む能力を養う。

【授業の目標】

地域または福祉施設などのフィールド体験から、課題を設定し、レポートを作成する。

【授業計画】

- 第1～6回 問題と課題の提示
担当教員からの講義とフィールド紹介
- 第7回 フィールドの選択
提示されたフィールドから各自選択する
- 第8～10回 フィールド体験
- 第11～14回 フィールド体験発表・意見交換
体験から課題を設定し、レポートを作成する
- 第15回 まとめ

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

社会福祉原論 I

見平 隆

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業の目標】

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害者に対する専門援助技術を含む）。

【授業計画】

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1) 医学モデル
 - 2) 生活モデル
 - 3) 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4) 援助計画の作成
 - 5) 援助活動の実施
 - 6) 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1) 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2) 面接の意義と方法
 - 3) 記録の意義と方法
 - 4) 評価の意義と方法
 - 5) スーパービジョンの意義と方法
 - 6) 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7) ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論的動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉援助技術論（深澤里子・春見静子編著 光生館）

【参考文献・資料】

社会福祉実践の共通基盤（パートレット ミネルヴァ 1978）
 エコロジカルソーシャルワーク（ジャーメイン、C 学苑社 1982）

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1) 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2) 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1) 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2) 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3) 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4) 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5) その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

【授業の概要】

障害者福祉一般に通じる理念（基本的価値、障害の概念）、施策、実践課題の基本的理解とそれを土台にした精神障害者の諸課題を学ぶ。とりわけ、偏見・差別といった社会的障壁の下に置かれてきた精神障害者の人権擁護の視点を掘り下げるとともに、社会福祉基礎構造改革、市町村を基盤にした障害者福祉の一元的推進施策下での新しい援助のあり方について理解を深める。併せて、諸課題に対する当事者、地域社会の取り組みの歴史を学ぶことで今日的課題の意義を理解する。

【授業の目標】

1. 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。
2. 精神障害者の人権について理解する。

【授業計画】

1. 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - 1 障害者福祉の発達
 - 2 ノーマライゼーション
 - 3 リハビリテーション
 - 4 生活の質（QOL）
 - 5 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - 1 障害の概念
 - 2 障害分類（国際障害分類を含む）
 - 3 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - 1 障害者基本法
 - 2 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - 1 精神障害者の概念
 - 2 精神障害者と家族
 - 3 精神障害者と地域社会
 - 4 精神障害者のノーマライゼーション
2. 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

法改正のため、講義開始後に指示する。
初期はプリントを配布。
社会福祉小六法は持参すること。（特に指定はしないが、毎年改訂された後に購入すること）

【参考文献・資料】

講義開始後に指示する。

【授業の概要】

高齢者の精神的・身体的諸特徴や高齢者福祉の理念について理解し、高齢者に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深めるとともに、高齢者のニーズの把握方法、サービス供給組織と専門職のあり方を学習する。同時に、近年の政策動向を踏まえ、高齢者福祉の課題、今後のあり方を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解するとともに、老人福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解する。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解する。

【授業計画】

- 1 高齢化社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎（E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房）

障害者福祉論 I

谷口明広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会における障害者がおかれている立場と障害者福祉の目標、理念を理解する。特に、リハビリテーション、ノーマライゼーションといった障害者福祉の理念の発達とその意義について講義する。また、障害者の福祉ニーズの把握方法について講義し、近年の政策動向を踏まえながら障害者福祉の達成と今後の課題を学ぶ

【授業の目標】

1. 障害の概念を理解して、障害者問題の本質を探る
2. ノーマライゼーションやバリアフリーという考えから新しい障害者福祉を知る
3. 米国における自立生活運動を紹介し、日本における障害をもつ人たちの自立生活を考える
4. 障害をもつ人たちの自立生活概念に関する知識を習得する
5. 障害をもつ人たちのエンパワメントを考え、自立していく力を捉えていく
6. 「障害者自立支援法」における施設体系と地域生活支援を考える

【授業計画】

1. 障害概念と新しい障害像
 - (1) 「国際生活機能分類 (ICF)」を基本にした障害概念
 - (2) 「ノーマライゼーション思想」と「ソーシャル・インクルージョン」を考える
 - (3) 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」を考える
2. 障害をもつ人たちの人権と差別の歴史
 - (1) 障害者差別の原理とメカニズム
 - (2) 古代における障害をもつ人たちの生活
 - (3) 中世における障害をもつ人たちの生活
 - (4) 近代における障害をもつ人たちの生活
 - (5) 現在における障害をもつ人たちの生活
3. 米国における障害をもつ人たちの自立生活運動
 - (1) 米国の自立生活運動史
 - (2) エド・ロバーツとメインストリーミング思想
 - (3) 「障害をもつアメリカ人法 (ADA)」の意味と意義
4. わが国における自立生活概念の振興
 - (1) 「施設から地域へ」は現実的なのか
 - (2) 日本的自立生活概念に関して
 - (3) 自己決定を援助することとニーズの把握
5. 障害をもつ人たちを取り巻く様々な問題
 - (1) 障害をもつ人たちの教育問題
 - (2) 障害をもつ人たちの就労問題
 - (3) 障害をもつ人たちの性と結婚の問題
 - (4) 障害をもつ人たちへの介護問題
6. 「障害者自立支援法」による障害者福祉改革
 - (1) 支援費制度から「障害者自立支援法」への転換
 - (2) 新法における障害者支援施設の役割と機能
 - (3) 新法における在宅福祉サービスの特徴と意味

【評価方法】

出席状況と課題提出を基本に、筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント (ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

障害者福祉論 (社会福祉士養成テキストブック) (ミネルヴァ書房)

児童福祉論 I

谷口純世

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の中での子どもの成長及び発達について、また、子どもの養護の方法・体系と、現代社会の中で子ども及びその家庭をとりまく環境についての理解を深める。また、この上で児童福祉の理念と意義、さらに子どもとその家庭のニーズの把握とニーズに対して実施されるサービスの体系及び関係する法体系について学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、児童福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 児童福祉に関する法とそのサービスの体系について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と児童
 - 1) 人間の成長・発達と児童
 - 2) 家族と児童
 - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
 - 1) 児童福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
 - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービス体系とその具体的内容
 - 1) 児童福祉法
 - 2) 母子及び寡婦福祉法
 - 3) 母子保健法
 - 4) その他関連法規

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に指示する

地域福祉論

永田 祐

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えてあえて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業の目標】

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

社会福祉法制論

初谷良彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉は、憲法25条の生存権保障による狭義の社会保障＝所得保障機能と深くかかわっているが、しかし社会福祉法制は、金銭給付のみでは充足できない生活要求にこたえるものとしての、いわゆる社会福祉サービスをその内容として持つ。福祉サービスの質の高さの保障のために、権利擁護、苦情解決、契約手続等利用者の手続的権利ないし自己貫徹的権利の制定等人間の尊厳を基底とした社会福祉法制の改革等について学ぶ。

【授業の目標】

社会福祉の原理を究明し、複雑な社会福祉の諸制度の現状と問題点を明らかにし、その課題と方向を探る。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉法制の概念と対象
- 第2回 社会福祉法制の歴史
- 第3回 社会福祉行政機関
- 第4回 社会福祉基礎構造改革の背景と経過
- 第5回 老人福祉法
- 第6回 身体障害者福祉法
- 第7回 知的障害者福祉法
- 第8回 児童福祉法
- 第9回 母子及び寡婦福祉法
- 第10回 社会福祉法
- 第11回 老人保健法
- 第12回 社会福祉・医療事業団法
- 第13回 介護保険制度の改革
- 第14回 障害者自立支援法
- 第15回 国会審議会、政令・省令・告示等

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業の際指示する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

はじめての社会保障 第2版（椋野美智子他著 有斐閣アルマ）

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業の目標】

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

介護概論

永田量子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

施設中心の介護から在宅介護まで含めて、よりよい介護とは何かを考える。高齢者・障害者等の自立的生活を援助する視点から、介護の目的と原則、健康維持のメカニズムの基本を学習し、看護・介護・家事援助の関連性を理解する。

【授業の目標】

- 1 介護の役割と範囲を理解するとともに、看護・医療及びに家政との関係について理解する。
- 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解する。
- 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
- 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それに対する予防措置を講ずることができるようにする。

【授業計画】

- 1 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
 - 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
 - 4) 健康維持のメカニズム
 - 5) 終末期の介護
 - 6) 介護過程の展開
- 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
 - 1) 住生活環境の安全管理（感染防止）
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 衣服の着脱
 - 5) 入浴・身体の清潔と感染防止
 - 6) 移動空間の確保
 - 7) 健康習慣の獲得
 - 8) 体力の維持（運動と機能維持）
 - 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
 - 10) 療養時の対応
 - 11) 緊急・事故時の対応
 - 12) 介護家族への生活維持援助
 - 13) 福祉用具の活用
- 3 介護関係維持のための技法
 - 1) 健康や生活の観察技法
 - 2) コミュニケーションの技法
 - 3) 記録と情報の共有化の技法
 - 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護師・保健師等医療専門職との連携のあり方
 - 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
- 4 介護活動の場に特有な問題と技法
 - 1) 家庭
 - 2) 施設

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

適時、紹介する

生活衛生学

杉浦信彦

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ヒトの生命や健康を脅かす目にみえない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力の涵養を目指す。授業においては生活（くらし）の安全を確保することを主眼に、食生活の生物的安全性、化学的安全性、飲料水を含めて安全な生活用水のあり方および疾病予防等について学習する。

【授業の目標】

1. 食生活の安全を脅かす生物、化学的要因について理解する。
2. 安全で健康的なくらしを守るための実践的手段の習得を目指す。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 食生活の安全（1）食品表示・食品添加物・農業のメリット・デメリットを中心に食生活の生物・化学的安全性について学ぶ。
3. 食生活の安全（2）飲料水の汚染の現状と安全対策について学ぶ。
授業は講義を中心にVTR・演習を交えて進める。

【評価方法】

課題レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布する。

対人社会心理学

西 和久

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

他者や集団との社会的相互作用のなかで生じる様々な行動を社会心理学的に解釈することを学ぶとともに、社会心理学の知見および視点が日常生活や医療福祉の現場にどのように応用可能かについて理解を深める。具体的には、援助行動、攻撃行動、親和行動、模倣行動、競争行動と協同行動、説得的コミュニケーション、リーダーシップと同調行動、ソーシャル・サポート、ソーシャル・ネットワーク、社会的態度、集団の構造と機能等のトピックに関する代表的な研究例を紹介する。

【授業の目標】

興味深い実証研究のレビューを通じて社会心理学の理論やエビデンスを学ぶと同時に、現実社会における人間の社会的行動や人間と社会との関係性を読み解くための「社会心理学的パースペクティブ」を獲得することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自分を知るココロ；自己と自己概念
- 第3回 他人を知るココロ；対人認知と印象形成
- 第4回 社会を知るココロ；社会的認知
- 第5回 人を好きになるココロ；対人魅力
- 第6回 人を傷つけるココロ；攻撃行動
- 第7回 人と争うココロ；対人葛藤
- 第8回 人を助けるココロ；援助行動
- 第9回 人と支えあうココロ；ソーシャル・サポート
- 第10回 人に影響されるココロ；社会的影響過程
- 第11回 人を動かすココロ；説得と態度変容
- 第12回 人とつながるココロ；ソーシャル・ネットワーク
- 第13回 個人と社会の板挟みになるココロ；社会的ジレンマ
- 第14回 社会問題を解決するココロ；応用社会心理学的研究
- 第15回 学期末試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）、リアクション・ペーパー、学期末試験の成績を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

講義の理解を深める上での参考文献。
ザ・ソーシャル・アニマル—人間行動の社会心理学的研究（E・アロンソン著、岡隆・亀田達也訳 サイエンス社）
心理系公務員受験の試験対策のための書籍。
試験にできる心理学 社会心理学編（高橋美保著 北大路書房）

対人コミュニケーション論

永田忠夫

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間相互のコミュニケーション過程を把握する理論や実証された事実を学ぶと共に、相互の人格をより豊かなものにする対人コミュニケーション過程を分析する技能を学ぶ。互いがより豊かな交流関係を持てるようにすることが前提となる対人援助専門職を目指す学生にとって有用な能力を養う授業となる。

【授業の目標】

1. 対人コミュニケーションの基本的概念を学び、日常生活における対人コミュニケーションのスキルについて学ぶ。
2. 自己の対人コミュニケーションのスキルについて査定し、検討する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの基本概念
2. 対人コミュニケーションの構成要素とモデル
3. 言語的コミュニケーション
4. 非言語的コミュニケーション
5. 自己を他者に伝えるコミュニケーション
 - (1) 自己開示
 - (2) 自己呈示
6. 他者に働きかけるコミュニケーション
 - (1) 説得的コミュニケーション
 - (2) 勢力関係とコミュニケーション
7. 対人関係とコミュニケーション
 - ・自己の対人コミュニケーションスキルの査定と検討

【評価方法】

受講態度、出席回数、レポート、筆記試験等を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業時間の中でプリントを配布したり、文献を紹介したりする。

社会保障論 I

見平 隆

4 年 前期 選択 2 単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

社会保障論 II

見平 隆

4 年 後期 選択 2 単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実情などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

社会福祉原論Ⅱ

見平 隆

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解する。
- 2 社会福祉関係職種の内容について理解する。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 4 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解する。

【授業計画】

- 1 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 2 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 3 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
 社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
 社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

高齢者福祉論Ⅱ

橋本 泰子

2年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者福祉の中で福祉専門職（ソーシャルワーカー）が保健・医療・福祉の他職種との連携の中で果たす役割について学習し、高齢者に対する相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。また、高齢者の生活を支える上で欠かせない住環境、福祉用具について学習する。加えて、近年増大している民間シルバーサービス事業者のサービスについてその特徴や現状についても学ぶ。

【授業の目標】

- 1 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解する。
- 2 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解する。
- 4 老人に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

- 1 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 2 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
 - 2) 福祉用具
- 4 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

適時、指示する。

障害者福祉論Ⅱ

春見静子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害者福祉論Ⅰを踏まえ、障害者（障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者）に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深める。その上でソーシャルワーカーとしての具体的な援助方法、援助組織、関連他職種との連携のあり方について学ぶ。また、こうした相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業の目標】

1. 障害者福祉に関する法とサービスの体系について理解する。
2. 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解する。
3. 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
4. 障害者に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

1. 障害者福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
 - 1) 障害者基本法のリハビリテーション体系
 - 2) 障害別福祉サービスの体系と内容
 - 1 障害児
 - 2 身体障害者
 - 3 知的障害者
 - 4 精神障害者
 - 3) 関連法による施策
 - 1 保健・医療
 - 2 教育
 - 3 雇用・就労
 - 4 年金、手当及び経済的負担の軽減
 - 5 住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）
2. 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
 - 1) 民間活動
 - 2) 民間サービス
3. 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
4. 障害者に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動を進めるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版障害者福祉論（介護福祉士選書3）（牧野田恵美子・春見静子編著 建帛社 2005）

【参考文献・資料】

発達障害白書 2004（日本文化科学社）
福祉小六法 2005（中央法規）

児童福祉論Ⅱ

谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

児童福祉論Ⅰの基礎的学習をもとに、公民の児童福祉サービスの現状と意味について、またこれらのサービスを担う子ども家庭福祉援助専門職のあり方と、同専門職間・異専門職間での連携のあり方、地域における援助の展開方法や適切な福祉用具の活用について学ぶ。児童福祉における、相談援助・生活援助などさまざまな援助活動のあり方について、事例の活用も含め理解を深める。

【授業の目標】

- 1 民間サービスの社会的意味とその現状について理解する。
- 2 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解する。
- 4 児童に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

- 1 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 2 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 3 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域及び住環境の整備
 - 2) 福祉用具
- 4 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 5 児童に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に指示する

社会福祉援助技術各論Ⅰ

春見静子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅰにおいては、ケースワーク、グループワークを中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（ケースワーク、グループワーク）。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容

1) 直接援助技術

(ア) 個別援助技術（ケースワーク）

- 1 個別援助技術における過程の意味
- 2 援助の開始期
- 3 援助の展開期
- 4 援助の終結期

(イ) 集団援助技術（グループワーク）

- 1 援助の準備期
- 2 援助の開始期
- 3 援助の作業期
- 4 援助の終結期

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ケースワーク・グループワーク（武井麻子・春見静子・深澤里子共著 光生館）

【参考文献・資料】

ケースワーク研究（岡本民夫 ミネルヴァ書房 1973）
グループワークの歴史（K.Eリード 勁草書房 1992）
ケースワークとは何か（M.リッチモンド 誠信書房 1963）

社会福祉援助技術各論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅱにおいては、コミュニティワーク、社会福祉調査法、社会福祉の運営と計画を中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

対人援助技術の中でも間接援助技術であるコミュニティワーク、社会福祉調査法、ソーシャルアクション、ソーシャルウェルフェア・プランニングの体系や技術を学び、社会福祉の問題を多面的に捉え、複合的な方法論を用いることができるよう、各援助論の理解を深める。

【授業計画】

1. 間接援助技術とは何か
2. コミュニティワークとネットワークング
 - (1) コミュニティワークの基礎理論
 - (2) コミュニティワークの援助過程
 - (3) コミュニティワークの課題
 - (4) ネットワークングの基礎理論と技術過程、課題
3. 社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）
 - (1) 社会福祉調査法の基礎理論
 - (2) 社会福祉調査法の技術過程
 - (3) 社会福祉調査法
4. 社会活動法（ソーシャルアクション）
 - (1) ソーシャルアクションの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルアクションの展開事例
 - (3) ソーシャルアクションの課題
5. 社会福祉計画法（ソーシャルウェルフェア・プランニング）
 - (1) ソーシャルウェルフェア・プランニングの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルウェルフェア・プランニングの実施事例
 - (3) ソーシャルウェルフェア・プランニングの課題

【評価方法】

出席状況と課題提出を基本に、筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新・社会福祉方法原論（改訂版）（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

社会福祉援助技術各論（社会福祉士養成テキストブック）（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術演習Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 春見静子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習（演習課題）
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 春見静子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術演習Ⅰをさらに発展させ、より困難な事例、さまざまな価値や、倫理が錯綜し、判断が難しい事例などを取り上げ、学生同士の討議を積極的に取り入れながら、援助技術に関わる知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 演習実施のための枠組み（事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例
 - 1) ソーシャルワークの実践事例の検討
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講和等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
- (注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
- (注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実習中の指導については、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰの内容を継続して指導する。実習後については、実習記録に基づく実習の振り返りを通じて実習経験を自分のものとするとともに、総括のための報告会を開き、現場指導者、教員とともに評価を行う。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
- (注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
- (注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐
(金田千賀子 田引俊和 平出 明)

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場における実習経験を通して、社会福祉士としての専門知識、技能、関連知識をさらに深めるとともに、それを実際に応用し、活用する能力を高める。また、専門職としての倫理を実習を通じて自らのものとし、体現できるようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要な資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とにならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐
(金田千賀子 田引俊和 平出 明)

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術現場実習Ⅰにおける学習をさらに深めるとともに、実習担当者、受け入れ側実習担当者との緊密な連携の下、利用者と関係を作る力、多面的、重層的に問題を捉える力を養い、経験を単なる経験としてではなく専門職種として応用する力が身につくようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要な資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とにならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

精神医学Ⅰ

高橋俊彦

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

精神を患うとはどういうことなのか。最近の精神医学で明らかになった脳および神経の生理を学び、精神障害・精神医学の概念を理解する。同時に精神医療の歴史を学び、精神障害の程度の診断技術の発達および現代の精神医学の課題を理解する。

【授業の目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解する。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。
- 3 精神医学の概念について理解する。
- 4 精神医学診断の基本的な方法について理解する。
- 5 代表的な精神障害について理解する。

【授業計画】

- 1 精神医学、精神医療の歴史
 - 1) 西洋の歴史
 - 2) 日本の歴史
- 2 脳および神経の生理・解剖
 - 1) 神経系の発生と構成
 - 2) 中枢神経系
 - 3) 末梢神経系
- 3 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
- 4 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
- 5 代表的な精神障害（その1）
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、分裂病型人格障害および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

精神医学Ⅱ

高橋俊彦

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

代表的な精神障害として、老年性認知症、てんかん、睡眠障害、アルコール関連精神障害、薬物依存その他の身体因性障害、神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、気分障害、妄想障害、さらに統合失調症等、医療現場、福祉現場と関連があると予想される精神障害について理解する。また、病院精神医療と地域精神医療との関連等を学習する。

【授業の目標】

- 1 代表的な精神障害について理解する。
- 2 治療の概要について理解する。
- 3 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

【授業計画】

- 1 代表的な精神障害（その2）
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達の障害
 - 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
- 2 治療法
 - 1) 身体的療法
 - 1 薬物療法とその副作用
 - 2 電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 3 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に随時指示する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

精神保健学Ⅰ

諏訪真美

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は精神保健における基本的知識について理解する事が目的である。人間のライフサイクル（乳児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の各段階で発達課題を知り、それぞれの精神保健を理解する。また、個人のライフサイクルとともに家庭におけるサイクルを理解し、家族関係の成長・発達を知る。さらに家庭・学校・地域・職場での精神保健活動について理解する。また、地域精神保健に関する関係法規についても学習する。

【授業の目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解する。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解する。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性認知症疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座（2）精神保健学（中央法規）
我が国の精神保健福祉 16年度版（精神保健福祉研究会）
精神病（岩波新書）

精神保健学Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神保健における基本的知識のもとに、さらに個別の理解を深める事を目的とする。精神障害者対策、老人性認知症疾患、薬物問題対策、思春期精神保健等の個別課題について学習する。また、社会の変化に基づく精神保健の新しい課題についても学習する。そして地域精神保健活動についてその実際の状況を学習し、関係期間の取り組みを参考にして個別課題の問題解決について考える。

【授業の目標】

- 1 地域精神保健と地域保健について理解する。
- 2 諸外国における精神保健の概要について理解する。
- 3 関連法規および施設について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 2 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 3 諸外国における精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座（2）精神保健学（中央法規）
我が国の精神保健福祉 16年度版（精神保健福祉研究会）
心の病と社会復帰（岩波新書）

精神科リハビリテーション学Ⅰ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションの概念および構成を理解することを目的とする。まず精神科リハビリテーションの歴史について学習し、我が国の精神科リハビリテーションの現状について理解する。そして、病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーションの実際について学習する。さらにそのなかで精神保健福祉士の役割を考え検討する。

【授業の目標】

1. 精神科リハビリテーションの概念について理解する。
2. 精神科リハビリテーションの構成について理解する。
3. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解する。

【授業計画】

1. 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2. 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - 1) 病院リハビリテーション施設等
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - 3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - 4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
3. 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - 1) 病院におけるリハビリテーション
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - 3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）
べてるの家の「非」援助論（医学書院）

精神科リハビリテーション学Ⅱ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションについてその技法を具体的に学習し、精神保健福祉士の実践課題を明らかにし、他専門職との連携をはかる能力を養う。作業療法・集団精神療法について学習し、家庭教育プログラムやデイケア・ナイトケアが実際どのように実施されているかの状況やその効果について理解する。そして、精神科リハビリテーションの役割と今後の課題について考える。

【授業の目標】

1. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける連携について理解する。

【授業計画】

1. 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家庭教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
2. 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - 1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - 2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - 3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - 4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - 1) 日常生活への適応のための訓練
 - 2) 社会復帰のための相談・助言・指導
3. 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - 1) 地域ネットワーク
 - 2) ケアマネジメント
 - 3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - 4) 家族会および自助グループ
 - 5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）
ともに生きる歩み（やどかり出版）

精神保健福祉論Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士の意義、役割について理解する。とりわけ、精神保健福祉の歴史上の諸問題とそこでの精神科ソーシャルワーカーの厳しい自己点検の経過を学ぶことで精神保健福祉士の意義を理解する。また、精神障害者の生活状況の把握を出発点にして精神保健福祉士に要求される専門性、倫理について学ぶとともに、精神障害者の社会的障壁からの解放、主体性の尊重といった基本的価値に基づいた各現場での相談援助の実際について学ぶ。

【授業の目標】

1. 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。
2. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
2. 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者をとりまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - 1 医療施設における相談援助活動
 - 2 社会復帰施設等における相談援助活動
 - 3 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

精神保健福祉論Ⅲ

伊藤勝也

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神障害者の医療、保健、福祉に渡る精神保健福祉法、精神保健福祉法の歴史的意義と関連法を含めた法体系の具体的理解を目指す。また、法に基づいた精神保健福祉諸施策の概要と、立ち遅れが指摘されている医療、福祉サービスの到達点の評価と諸課題を学ぶ。併せて、精神障害者の自立の土台となる雇用・就労、所得保障等関連施策の概要を学ぶとともに関連領域との連携のあり方についての理解を深める。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉法、精神保健福祉法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。
- 2 精神保健福祉施策の概要について理解する。
- 3 精神保健福祉の関連施策について理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
2. 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度（工費負担医療費）
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - 1 精神障害者福祉対策
 - 2 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - 1 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - 2 社会資源
 3. 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就労（障害者雇用促進法等の概要を含む）
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

参考文献は、その都度紹介。
プリント配布。

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

瀧 誠

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、これまで学習してきた精神障害者の疾病および障害についての理解に基づいて、個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）について理解することを目的とする。具体的事例について、個別援助（ケースワーク）の計画・実施について考える。さらに集団援助（グループワーク）についても、具体的事例に基づいて、その計画・実施を考え、関係者それぞれの役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - 1 ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - 2 社会資源の活用と開発
 - 3 地域社会における連携と調整機能
 - 4 家族会、自助グループの支援
 - 5 ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - 6 地域援助
 - 3) 具体的事例検討

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉学双書2006
社会福祉援助技術論（全国社会福祉協議会）
その他は講義開始後に指示する。

【参考文献・資料】

高齢者援助における相談面接の理論と実際（渡辺律子著 医歯薬出版株式会社）
未知との遭遇・癒しとしての面接（奥川幸子著）
グループワークの専門技術（黒木保博他著 中央法規） 他

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

龍 誠

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神障害者のケアマネジメント・地域援助技術（コミュニティワーク）について理解することを目的とする。ケアマネジメントの技法について学習し、それを活用した地域援助について理解する。また、具体的事例について、ケアマネジメントの技法を用いて、その援助計画について検討する。これらによって、地域での精神障害者援助の実際について、関係機関の連携・チームアプローチのありかたについて考える。

【授業の目標】

- 1 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - 1 ケアマネジメント
 - 2 適応と対象
 - 3 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 1 ケアマネジメントの意義と留意点
 - 2 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - 1 受理面接（インテーク）
 - 2 ニーズの把握とその評価
 - 3 目標設定と計画的実施
 - 4 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
- 2 精神障害者援助と関連専門職との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義開始後指示する。

精神保健福祉援助演習Ⅰ

伊藤勝也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士としての専門的援助技術および精神リハビリテーション技法について、臨床場面を想定して、ロールプレイや事例検討を行い、対人援助者としての心構えや視点を養う。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 精神保健福祉の援助技術
 - 1) 演習課題と到達目標
 - 2) 演習課題と展開方法
- 2 個別援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるケースワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるケースワーク
- 3 集団援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるグループワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるグループワーク
 - 3) セルフヘルプ・グループとグループワーク
- 4 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 5 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 6 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

その都度紹介、配布する。

精神保健福祉援助演習Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習を行うにあたって、精神病院等の医療施設および社会復帰施設におけるモデル的な事例を学習し、現場実習での留意事項を学ぶ。また、現場実習終了後に実習記録をもとに問題点の整理をする。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 地域援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療等におけるコミュニティワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるコミュニティワーク
 - 3) 地域組織化とコミュニティワーク
- 2 地域ケア活動の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) チームアプローチによる援助
 - 2) ケアマネジメントによる援助
 - 3) ソーシャルサポート・ネットワーク援助
- 3 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

随時紹介。
プリント資料。

精神保健福祉援助実習Ⅰ

伊藤勝也 諏訪真美 瀧 誠

3年 前期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じ行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

プリント資料。

精神保健福祉援助実習Ⅱ

伊藤勝也 諏訪真美 瀧 誠

3年 後期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じ行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

プリント資料。

ノーマライゼーション論

初谷良彦

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

ノーマライゼーションの原理は、知的障害児・者を「ノーマルな人にする」ことを目的としているのではなく、その障害を共に受容することであり、彼らにノーマルな生活条件を提供することである。この原理は1960年代、北欧で着想され、アメリカで操作的・科学的に深化されたものである。この理念が「国際障害者年」（1981年）の「完全参加と平等」に結実した。近年、高齢者等の領域でも用いられるようになり、社会福祉の基本理念となっている。このようなあたりまえの思想が我々の社会に本当に根づいていくためにはどうしたらよいか考えていきたい。

【授業の目標】

ノーマライゼーション原理は、差別や権利が侵害されているあらゆる領域に普遍的に適用されなければならない原理であることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ノーマライゼーション原理の理論と展開
- 第2回 バンクーミッケルセンの理論と思想
- 第3回 ニリエの理論と思想
- 第4回 北欧における法的発展
- 第5回 ヴォルフエンズベルガーの理論と思想
- 第6回 オプライエンの理論
- 第7回 脱施設化の実践
- 第8回 北欧型脱施設
- 第9回 アメリカ型脱施設
- 第10回 日本の「脱施設」のもつ問題点
- 第11回 セルフ・アドボカシー運動
- 第12回 自己決定の権利
- 第13回 ノーマライゼーションの原理の誤解へのヴォルフエンズベルガーの反論
- 第14回 バンクーミッケルセンの反論
- 第15回 ニリエの反論

【評価方法】

主として平常点とレポートによって評価する

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

ノーマライゼーション原理の研究（中園康夫 海声社）

共生社会論

初谷良彦

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「共生」という語は大乗仏教の根本思想「縁起」の世界観に思想的根拠を置いている。欧米の共生論は生物学におけるシンビオシス（symbiosis、共棲）に由来している。わが国では「人間社会における共生」が中心である（例えば、自然環境と人間、障害児・者と健常児・者等々）。日本の共生論は、西欧中心主義であった20世紀を克服する21世紀の世界に発信しうる新しい秩序のキーワードである。共生とは「内輪で仲良く共存共栄することではなく、異質なものに開かれた社会的結合様式を意味する」「他なるもの、異なるものとの共生」の思想である。議論を深めたい。

【授業の目標】

共生以外に人間が生き延びる方法はない、と黒川紀章は述べている。共生に関するさまざまな思想を学ぶことによって人類の未来を考える。

【授業計画】

- 第1回 共生とは何か
- 第2回 二分法的認識に基づく共生の思想
- 第3回 正義論と共生の課題
- 第4回 共生社会と文化変容
- 第5回 差別と共生
- 第6回 個人主義と自由競争
- 第7回 クオリティ・オブ・ライフの論理
- 第8回 マルティン・ブーバーの哲学
- 第9回 アジアの共生
- 第10回 アイヌにおける差別と共生
- 第11回 共生社会の構成
- 第12回 正義と善
- 第13回 エゴイズム
- 第14回 共生社会に向けて
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主として期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ノーマライゼーションからQOL、共生までの展開と現状に関する研究（三谷嘉明・古屋健・初谷良彦 平成12年度～平成13年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書）
その他、講義の際、随時紹介する

【授業の概要】

国際社会福祉の理論と実際を理解することを目的とする。概論部分にあたる国際社会福祉の定義やその歴史的展開過程に関する考察と、原理論にあたる国際社会福祉の存立根拠を理解し、各論として国際社会福祉の実践課題（貧困、南北問題、難民問題など）、およびアジアを中心とした発展途上国の社会福祉を概説する。

【授業の目標】

1. 「健康」「福祉」の概念及びその変遷を、国際的な動向の中で理解する。
2. 途上国での開発活動の諸事例から、保健、福祉の領域における様々な課題及びアプローチについて理解を深める。
3. 1. 2. を通して、日常生活における身近な福祉課題に対して、洞察を深める。

【授業計画】

基本的に、演習形式、小グループによる討議をもとにして進める。

1. 「健康」「福祉」の概念及びその変遷
 - 1) 国際機関が提唱した考え方とアプローチ、及びその背景
 - 2) 実践に基づく理念とアプローチの変容
2. 関連領域における途上国での課題と取り組み
 - 1) 福祉課題と開発
 - 2) 諸機関による課題への対応と地域社会
 - 3) 開発が意味するもの

【評価方法】

出席状況、受講態度及びレポートを総合的に評価する

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

【授業の概要】

様々な福祉モデルを代表するような国々の福祉システムをとりあげ、それぞれの国の福祉をリードしている考え方を理解するとともに、そのような基本理念がどのような形で具体化しているかを学ぶ。講義では、比較の手法なども盛り込みつつ、福祉という概念を少し広く捉えて考える。福祉についての各国のありようを理解することを基礎として、福祉モデルの普遍性と多様性を理解し、自国のモデルを相対化することを目的とする。

【授業の目標】

1. 福祉を国際比較するための手法を理解する。
2. 他国の福祉システムを理解する。
3. 1. と 2. を通じて、日本の制度を見直す。

【授業計画】

1. 福祉の国際比較入門
 - 1) 国際比較の歴史
 - 2) 国際比較の手法
2. 各国の社会福祉
 - 1) 先進国の社会福祉①イギリス
 - 2) 先進国の社会福祉②スウェーデン
 - 3) 先進国の社会福祉③その他の国々
 - 4) 発展途上国の社会福祉
3. 福祉の国際比較
 - 1) 児童福祉
 - 2) 高齢者福祉
 - 3) その他の分野

【評価方法】

出席、レポート、グループワークへの参加、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

【授業の概要】

社会福祉の領域で法や制度にとらわれない新しい領域を創造する活動に焦点を当てる。既存の法制や制度の枠組みの中では「社会福祉」とは認められていない、あるいは認められてこなかった活動は多くの場合、先駆的な個人や組織によって「開発」されてきた。社会福祉と他領域との連携や、多様なニーズに対応するための福祉供給体制のあり方が求められる現代社会においては、こうした視点が不可欠であろう。講義では福祉開発が必要とされる背景、そのための手法、具体的な個人、NPO、ボランティアなど市民の主体的活動による具体例、こうしたイニシアティブを支援する枠組みなどを国内外の事例から取り上げ、福祉開発の理論と実際を理解する。

【授業の目標】

1. 社会福祉制度を理解したうえで、制度のみでは対応できない社会福祉のニーズについて理解を深める。
2. こうしたニーズに対応するための方法を理解する。
3. 制度を前提とし、活用するだけの専門職ではなく、ニーズに応じて新しい福祉環境を創造することの重要性を理解する。

【授業計画】

1. 現代の社会福祉と福祉開発
 - 1) 現代の社会福祉
 - 2) 社会福祉のニーズと制度
 - 3) ソーシャルワークにおける福祉開発という視点
2. 「開発」のとりえ方
 - 1) 開発とは何か
 - 2) 福祉開発の歴史
3. 福祉開発の主体
 - 1) 専門職と福祉開発
 - 2) ボランティア・NPO・社会運動・当事者組織と福祉開発
4. 福祉開発の方法
 - 1) 福祉開発の方法論
 - 2) 住民・市民、当事者の参加による福祉開発
5. 福祉開発の具体例
 - 1) 事例に学ぶ福祉開発（1）
 - 2) 事例に学ぶ福祉開発（2）
6. 福祉環境を創造する専門職を目指して

【評価方法】

出席、レポート、試験などにより総合的に評価する

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

【授業の概要】

現在我が国の社会福祉は積極的な「福祉改革」が進められている。このなかで高齢者、児童、障害者については「福祉3プラン」が策定され計画的な推進が図られている。さらに「社会福祉基礎構造改革」に関して社会福祉法が制定され地域福祉計画が法制化された。これらを背景として福祉計画の重要性について理解を深める。

【授業の目標】

1. 社会福祉の史的変遷に伴う計画化の意義を体系的に理解する
2. 計画立案の視点・方法を理解する
3. 計画策定プロセスにおける住民参加の意義を理解する

【授業計画】

1. 社会福祉の変遷と計画化の理念
2. 社会福祉の変遷と計画化の展開
3. 社会福祉計画の概要（1）老人保健福祉計画
4. 社会福祉計画の概要（2）介護保険計画
5. 社会福祉計画の概要（3）障害者プラン
6. 社会福祉計画の概要（4）エンゼルプラン
7. 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画（1）
8. 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画（2）
9. 地域福祉計画の策定の実際（1）
10. 地域福祉計画の策定の実際（2）
11. 地域福祉活動計画の理論と方法
12. 地域福祉活動計画の策定の実際（1）
13. 地域福祉活動計画の策定の実際（2）
14. 計画策定における住民参加の理念と方法
15. まとめ

【評価方法】

出席状況及びリアクションペーパー	50%
レポート	50%

【テキスト】

特に指定しないが、随時プリントを配布

【参考文献・資料】

- 地域福祉計画を創る（地域福祉研究会編 中央法規出版社 2002）
 社会福祉計画（定藤丈弘・坂田周一・小林良二編 有斐閣 2000）
 社会福祉供給システムのパラダイム転換（古川考順編 誠信書房 1992）
 地域福祉計画と地域福祉実践（大橋謙策・原田正樹編 万葉舎 2001）
 コミュニティとソーシャルワーク 社会福祉基礎シリーズ⑨（平野隆之・宮城孝・山口稔編 有斐閣 2002）
 ソーシャルワーク演習（下）社会福祉基礎シリーズ⑤（黒木保博・小林良二・坂田周一他編 有斐閣 2003）
 地域福祉論（岡村重夫著 光生館 1974）他

【授業の概要】

非営利組織自体は最近になって出現した組織形態ではない。しかし、近年の「福祉国家の危機」という現象、また個人のライフスタイルやニーズの多様化という現象のもとで、非営利組織は福祉の供給主体としても、個人の自己実現の場としても、そしてまた市民社会を健全なものとするという視点からも、注目されている。講義ではこうした背景を理解し、NPOの社会福祉における役割、こうした組織の抱える諸問題（組織の運営上の問題など組織固有の問題と制度上の問題）、こうした組織を支援するための社会的枠組み、行政機関や企業などとの関係を理解するとともに、今後の福祉社会でNPOが果たす役割について学ぶ。

【授業の目標】

1. NPOとはどのような組織であるか、またそうした組織の役割が重視される背景を理解する。
2. 社会福祉の領域におけるNPOの役割を理解する。
3. NPOが活動を展開するために必要な制度を理解するとともに、その運営の特徴を理解する。

【授業計画】

1. NPOとは何か
2. 福祉国家とNPO
3. 社会福祉とNPO
 - 1) 日本の社会福祉とNPO
 - 2) 福祉サービスにおけるNPO
 - 3) 社会福祉におけるNPOの展開
4. NPOの運営
 - 1) NPOの運営の特徴
 - 2) NPOの資金調達
5. NPOを支える制度
 - 1) 特定非営利活動促進法（NPO法）
 - 2) 税制
6. 福祉NPOの展開
 - 1) NPOと行政のパートナーシップ
 - 2) NPOと地域福祉・社会福祉協議会
7. NPOの可能性

【評価方法】

出席及びレポートによって評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

【授業の概要】

社会福祉におけるボランティア活動の意義は従来から強調されてきたが、「自己犠牲的な奉仕」という古くからのボランティア活動のイメージは崩れつつある。また、阪神淡路大震災においてボランティア活動の意義が再確認され、関心が高まった。講義ではボランティア活動を広く捉え、寄付行為のような「金銭の」ボランティアも対象に含みつつ、福祉領域におけるボランティア活動の概念、歴史、現状、実際の活動例、こうした組織を支援するための社会的枠組み、行政機関や企業などとの関係について理解し、福祉領域におけるボランティア活動が今後の福祉社会において果たす役割について学習する。

【授業の目標】

1. ボランティア活動の歴史やそれを支える思想を理解する。
2. 福祉におけるボランティア活動を対象者との関係性の中から定義することの重要性を理解する。
3. 専門職がボランティア活動を支援したり、機能させるための方法論を理解する。
4. 社会福祉においてボランティアの役割やその可能性を理解する。

【授業計画】

1. ボランティアと福祉国家・福祉社会
2. ボランティアの歴史と思想
 - 1) ボランティア活動の歴史
 - 2) ボランティア活動を支える思想
3. 福祉サービスとボランティア
 - 1) 関係性の問題
 - 2) 関係性に基づいたボランティア
4. ボランティア活動の動機
5. ボランティア推進機関
 - 1) ボランティアコーディネートの理論と方法
 - 2) 社会福祉協議会ボランティアセンターの役割
 - 3) 福祉教育とボランティア
 - 4) ボランティアマネジメント
6. ボランティア活動の成果
 - 1) ボランティアによる成長
 - 2) ボランティアからNPOへ 社会へのインパクト
7. ボランティアの可能性

【評価方法】

出席、レポート、試験、授業への参加を総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

【授業の概要】

高齢者や児童および障害者を擁護し育成する目的をもつ福祉施設の役割や制度、さらに具体的運営に関わるシステムやマネジメントの課題を学習する。多様なサービスを求める社会的ニーズに対応する施設運営のあり方を模索する。

【授業の目標】

1. 社会福祉施設の種類と、その役割を理解する。
2. これからの社会福祉施設の果たすべき役割を理解する。
3. 契約制度におけるサービス利用者と提供者の関係を理解する。
4. これからの社会福祉施設運営には、社会福祉援助の方法と、経営管理の方法とが必要なことを理解する。

【授業計画】

1. 社会福祉施設運営管理の基礎
 - 1) 社会福祉施設の社会的役割
 - 2) 社会福祉施設の種類
 - 3) 社会福祉施設の推移と動向
 - 4) これからの社会福祉施設と経営（運営）管理
2. 社会福祉施設における施設経営・運営の視点
 - 1) 労務管理
 - 2) 人事管理
 - 3) 財務管理
3. 社会福祉施設の福祉サービス管理
 - 1) 社会福祉施設におけるサービス
 - 2) 福祉サービスの評価
 - 3) リスクマネジメント
 - 4) 契約によるサービス利用と権利擁護

【評価方法】

出席状況、レポートまたは筆記試験の成績を総合し評価する。

【テキスト】

必要に応じプリント配付する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

【授業の概要】

在宅福祉・在宅医療を展開する上で不可欠な援助方法であるケアマネジメントの理論と方法を学習する。ケアマネジメントは介護保険法の施行により、介護保険利用者と医療福祉援助者とを結びつける要となる位置にあり、具体例を通して福祉援助専門職の役割を学ぶ。

【授業の目標】

ケアマネジメントは様々な福祉、保健分野で活用されている。各分野により位置づけや活用方法が異なる。本講義では特定の理論に固執するのではなく、共通項としてのケアマネジメントの考え方を理解すること、混在しているソーシャルワークとケアマネジメントの関係についても理解することにより、ケアマネジメントを活用する、従事するという認識を形成することを目標とする

【授業計画】

- 1 福祉・保健実践におけるケアマネジメント
- 2 ケアマネジメントの背景
- 3 ケアマネジメントの目的
- 4 ケアマネジメントの構造
- 5 ケアマネジメントのプロセス
- 6 ケアマネジメントと関連技術
- 7 ケアマネジメントの諸理論

【評価方法】

テスト及び授業時に行う課題への取り組みから評価を行う

【テキスト】

後期授業開始前に掲示連絡する

【参考文献・資料】

参考文献等は授業時紹介する。

モデル学習をする際、教材費として実費（数百円）を徴収する場合がある。

【授業の概要】

経済・情報のグローバル化や冷戦終結後の政治情勢の変化といった状況の下に、国境を越えた地球規模での人間の移動によって、国籍や人種、民族を異にする人びとからなるクロスボーダー社会が出現する一方、一国内部においても、学校や職場、地域などで文化や価値観、生活様式を異にする人びとからなる多様な生活空間が形成されている。こうした現状認識の下に、社会福祉援助技術を用いてこうした多文化共生社会を実現するために何が出来るのかについて具体例をまじえて学ぶ。

【授業の目標】

多文化共生について学びながら、日本の現状や問題点に対して自分の考えをもち、これからの社会と福祉を作り上げる観点や方法を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 福祉と多文化共生のテーマ紹介
- 第2回 多文化共生を考える
- 第3回 多文化共生と移住労働者
- 第4回 日本社会と外国人
- 第5回 いわゆる「外国人労働者」問題について
- 第6回 ボランティアの役割
- 第7回 多文化共生と教育
- 第8回 多文化共生と保健医療
- 第9回 多文化共生と結婚、離婚
- 第10回 NGOと多文化共生
- 第11回 異なった視点からみる多文化共生
- 第12回 若者と高齢者と多文化共生
- 第13回 障害者と多文化共生
- 第14回 多文化共生社会作りとは
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席と期末試験（筆記）により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

在日外国人の教育保障 愛知のブラジル人を中心に 新版（新海英行、加藤良治ほか 大学教育出版 2002）

【授業の概要】

「マイノリティに対する偏見と差別」および「マイノリティによる積極的な社会参画」といった現代的問題について理解を深める。「偏見・差別」については、エイズ患者、HIV感染者、障害者等の社会的弱者における事例を取り上げ、偏見・差別の特質と問題点を、心理学的・社会学的視点から理解する。「積極的な社会参画」については、心理学における「少数派影響」の知見に基づき、マイノリティがいかにして積極的に社会に関わる事が可能なのか、その今日的意義とは何かについて、具体的事例とともに理解を深める。

【授業の目標】

マイノリティに関わる諸問題およびその心理・社会的背景を社会心理学的パースペクティブを通じて理解する。同時にマイノリティの問題を具体的に解決していくためにはどのような社会的取り組みが必要なのかについて考察を行う。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション；マイノリティとは何か？
- 第2回 ステレオタイプ・偏見・差別の心理学的関連性
- 第3回 マイノリティに対する偏見形成のメカニズム（1）
- 第4回 マイノリティに対する偏見形成のメカニズム（2）
- 第5回 偏見の変遷；現代的偏見の心理学的特質
- 第6回 偏見/差別の解消に向けた社会心理学的方略
- 第7回 HIV感染者/エイズ患者に対する差別の実態
- 第8回 HIV感染者/エイズ患者に対する偏見の心理学的特質
- 第9回 同性愛者/両性愛者に対する偏見の心理学的特質
- 第10回 同性愛者/両性愛者のメンタルヘルスの実態
- 第11回 マジョリティによる社会的圧力と同調のメカニズム
- 第12回 マイノリティ・インフルエンス（少数派影響）
- 第13回 アクティブ・マイノリティによる社会的変化の実態
- 第14回 総合討論
- 第15回 学期末試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）、授業内小レポート、および学期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

講義中、適宜紹介する。

住環境コーディネイト論

渥美正子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者や障害者のQOLを高める視点から生活環境を見直すバリアフリーの段階から、すべての人間が快適に生活するためのユニバーサルデザインへと広がった歴史と意義を理解する。具体的に生活環境の中でユニバーサルデザインを創出する基礎を学習する。

【授業の目標】

高齢者や障害者の自立支援における住環境整備の重要性を理解すること。

【授業計画】

1. 住まいは生活の「器」
2. 住生活の変遷
3. 高齢者の自立支援と住環境整備
4. 高齢者の居住状況
5. 住宅政策における高齢者向け施策
6. 高齢者の住宅内事故
7. 高齢者の住宅改善支援の視点
8. 事例にみる高齢者の住宅改修
9. 介護保険と住宅改修
10. 生活の場としての施設居住
11. 高齢者の新しい居住スタイル
12. 高齢者の住環境整備のめざす方向

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

授業にて指示する。

家族関係論

永田忠夫

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代家族の多様性と急速に変化する社会情勢・価値観のなかで、最も基本的ではあるが最も危機をはらんだ家族関係を考察し、理解する。家庭内で交わされる家族成員間の関係を把握・分析する方法を学ぶ。また、家族全体の安定を生み出す要因と不安定さを改善する方法を模索する。

【授業の目標】

1. 社会の流動性の中で変容する「家族観」を理解し、認識する。
2. 家族内の人間関係を把握・分析できる力をつける。
3. 家族内で生じている危機の状況を分析し、家族の今後の展望を考察できる。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。

進度は、学生の問題意識・理解度・意欲などを考慮しつつ進めるので、テーマによって講義時間の長短が出てくる。

1. 家族の定義
2. 家族をめぐる社会的状況の変化
3. 「家族観」の変化とその適応について
4. 家族の人間関係をとらえる視点
5. 家族ダイナミックス
6. 家族査定（家族マップ）
7. 家族内コミュニケーションの査定
8. 家族の危機とコミュニケーション

【評価方法】

出席状況、レポート、テスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

【授業の概要】

住民参加を進める視点から「住民参加型社会の現状」を理解し、課題を明らかにするとともに、福祉を進める視点からも地域環境を見直していく。具体的には、地域内における住民と社会全体との相互関係を社会心理学的に理解した上で、「環境問題」「医療・健康問題」「福祉問題」等の事例を取り上げ、地域内における住民個人、ボランティア・グループ、行政といった多様な人材が、独自にあるいは相互に連携して、地域環境の問題解決にいかんして関与していけばよいのかについて応用心理学的観点から理解を深める。

【授業の目標】

アクション・リサーチの具体的な事例を通じてコミュニティの問題解決のための様々なアプローチ方法を学ぶとともに、よりよい地域環境を創造するためにはどのような視点が重要であるかについて理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 コミュニティとコミュニティ心理学
- 第3回 コミュニティ心理学のアプローチ
- 第4回 コミュニティ心理学の歴史的背景
- 第5回 コミュニティ心理学と社会制度
- 第6回 関連する学問領域・理論・モデル
- 第7回 コミュニティ心理学的介入・援助とその評価
- 第8回 社会的支援とその組織づくり
- 第9回 コミュニティ心理学的アプローチの実践的展開
- 第10回 環境問題に対する実践例の検討
- 第11回 医療・健康問題に対する実践例の検討
- 第12回 福祉問題に対する実践例の検討（1）
- 第13回 福祉問題に対する実践例の検討（2）
- 第14回 総合討論：Change Agentとしての人間
- 第15回 学期末試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）、小レポート、学期末試験の成績を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

- コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実践（山本和郎著 東京大学出版会）
臨床・コミュニティ心理学：臨床心理学的地域援助の基礎知識（山本和郎ら編著 ミネルヴァ書房）

【授業の概要】

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、自閉症、情緒障害、言語障害、学習障害など、障害をもつ子どもに対する特別支援教育について、その歴史や方法論、教育制度などを学び、障害をもつ人々を支援する方法や態度を身につける。

【授業の目標】

障害をもつ人々を支援する方法や態度を身につける。

【授業計画】

1. 特殊教育から特別支援教育へ
2. 聴覚障害児の教育
3. 視覚障害児の教育
4. 知的障害児の教育
5. 肢体不自由児の教育
6. 病弱児の教育
7. 自閉児、言語障害児、学習障害児等の教育

【評価方法】

出席状況、レポート、テスト等を勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

盲学校、聾学校及び養護学校教育要領・学習指導要領（文部科学省）

公衆衛生論

棚橋昌子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

健康を社会医学の視点から考察する。文明が発展する過程のなかで、国民の健康への影響が明らかになり、半健康状態が一般化している。長寿社会では半健康状態のなかでも快適に生きることは必須の課題である。生活環境と疲労、ストレス対策、生活習慣病を予防するための生活改善等、具体的な事例を通して、公衆衛生の課題を学習する。

【授業の目標】

社会福祉士または精神保健福祉士として必要な予防医学および公衆衛生の基礎を学修する

【授業計画】

- 1、健康の定義・健康の理解
- 2、公衆衛生の歴史
- 3、疾病構造の変化
- 4、生活習慣病 1 悪性新生物
- 5、生活習慣病 2 循環系疾患
- 6、感染症の動向
- 7、健康づくり対策と介護予防
- 8、保健統計
- 9、医療統計
- 10、福祉統計
- 11、保健と福祉の統合
- 12、母子保健と児童福祉
- 13、老人保健と高齢者福祉
- 14、文明の発展と健康
- 15、まとめ

【評価方法】

受講態度と授業内演習・レポートの総合評価

【テキスト】

毎回プリントを配布する

【参考文献・資料】

国民衛生の動向（厚生統計協会）
国民の福祉の動向（厚生統計協会）
医学一般 社会福祉士養成講座13（中央法規出版）

健康管理論

杉浦信彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢化社会を生きる人々がQOLを維持しつつ生涯にわたって健康で豊かなくらしを営むことができるように、人間の生命を支えるからだの仕組みとその働きを中心に、正しい健康管理のあり方について栄養科学の視点から学ぶ。授業においては食物と栄養素、消化吸収、栄養素の代謝、食習慣病の予防等について栄養生理学的講義を行う。

【授業の目標】

1. 健康の概念を理解する。
2. からだの仕組みとその働きを学ぶ。
3. 栄養科学的側面から正しい健康管理のあり方を考察する。

【授業計画】

1. 健康の定義と指標
2. 生命を支える栄養素とその働き
3. 日本人の栄養摂取の現状と問題点
4. 生命と健康を脅かす要因と対策
 - ・生物学的汚染（感染症を中心に）
 - ・化学的汚染（環境汚染を中心に）
5. 加齢と健康管理

【評価方法】

課題レポート等の提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布する。

介護技術演習

榊原美佐子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

介護の対象者とのコミュニケーション技術を学習し、日常生活で必要とされる介護の基本的技術を習得する。この科目は、介護を必要とする対象者の日常生活における身体的援助を中心に基本的介護の理論と技術を習得する。

個々人の持てる力を十分に発揮し、可能な限り自立した生活ができるように援助を行うためにはどうしたらよいか。介護が全人的なケアサービスであることをふまえて、常に主体的に考え、工夫し、対象者および対象者の周囲の環境に働きかけていく姿勢を習得することを目的とする。

【授業の目標】

疾病や傷害、加齢により要介護状態にある人々に対して その人がその人らしく自立した日常生活をいきいきと送れるよう、科学的根拠に基づいた介護のあり方を学び、デモンストレーション及び演習を通して具体的な援助技術を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義内容、演習方法、履修上の注意事項、評価方法提示）社会福祉士と介護技術
- 第2回 特定疾患、障害のある方への介護（脳血管疾患、パーキンソン病、認知症、視覚障害、聴覚障害など）
- 第3回 介護に生かすフィジカルアセスメント、バイタルサイン 演習
- 第4回 寝たきりにならないための移動の技術（1）閉じこもりと廃用性症候群、寝返り、演習
- 第5回 寝たきりにならないための移動の技術（2）起きあがり、立ち上がり、演習
- 第6回 寝たきりにならないための移動の技術（3）車椅子への移乗、走行介助、演習
- 第7回 食事のケア
- 第8回 食事のケア 演習
- 第9回 口腔ケア 演習
- 第10回 排泄のケア
- 第11回 排泄のケア 演習
- 第12回 衣服着脱のケア 演習
- 第13回 入浴のケア
- 第14回 入浴のケア 演習
- 第15回 遊びリテーション、まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、演習時の実施状況と提出物（9回）、レポート（1、2）の成績を総合して評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 介護概論（新版社会福祉士養成講座 14 中央法規）
- 介護技術 1, 2（新版社会福祉士養成講座 12, 13 中央法規）
- 介護技術（津久井十 介護福祉士選書 15 建帛社）
- 介護基礎学（竹内孝仁著 医師薬出版株式会社）
- 完全図解 新しい介護（大田仁史、三好春樹著 講談社）

コミュニケーション技能Ⅰ

堀正和

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚障害者について、その障害の種別や程度に応じたコミュニケーション方法を理解するとともに、点字使用者とのコミュニケーション方法の一部である点字について、その基礎的な読み書きの技能を身につける。また、盲聾者における指点字についても理解する。

【授業の目標】

点字を知り、視覚障害者とのコミュニケーションに資する。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 点字、点訳の概要
3. 点訳演習
4. 盲聾者のコミュニケーション方法

【評価方法】

点字の読み及び点訳テストにより行う。

【テキスト】

点訳の手引き 第3版（全国視覚障害者情報提供施設協会）

コミュニケーション技能Ⅱ

堀 正和

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

聴覚障害者について、その障害の程度や失聴の時期に応じたコミュニケーション方法を理解するとともに、読唇、指文字、日本語対应手話、ネイティブサイナーの手話（日本手話）などについて、それらの基礎的な技能を身につける。

【授業の目標】

手話を知り、聴覚障害者とのコミュニケーションに資する。

【授業計画】

1. 聴覚障害の概要
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
3. 手話演習

【評価方法】

手話の読み取り及び表現のテストにより行う。

【テキスト】

おぼえようみんなの手話（飯塚千代子著 国際放映）

レクリエーション療法Ⅰ

鶴原香代子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身体を動かすことはストレス発散となり、集団で運動（体操・ゲーム等）することにより、新たなコミュニケーションが生まれる。また、中国伝統技術（ヨガ・マッサージ等）を媒介としたレクリエーション技能を習得することは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業の目標】

レクリエーション種目の実践を通して、運動の楽しさや必要性を理解し、あわせて安全に運動することを学ぶ。また、性、年齢、体力、技術、障害といった身体的条件が異なる人々の身体活動の方法を考える。

【授業計画】

第1回目は教室にてガイダンスを実施。第2回目からは体育館で実施。

第1回 ガイダンス

- ・授業の進め方と諸注意
- ・施設・用具、服装についての理解

第2回～ からだにやさしいストレッチやゲーム

- ・健康状態を考る
- ・状況に応じた体ほぐし
- ・じゃんけん遊び、体の一部や全身を使つてのゲーム

第5回～ 身近にある物を使つて

- ・イスや箱、カゴ、ペットボトルなどを利用して
- ・ボール、フープ、チューブ、ロープなどを利用して

第8回～ レクリエーション種目や軽スポーツの実践

- ・サッカー型、野球型、バレーボール型、バスケット型、ドッジボール型、ラケット型、フライングディスク型、チーム対抗リレー型などから

第11回～最終授業まで

- グループで創作、実践、まとめ
- ・年齢や身体条件、活動の場を考慮して

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（50%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

レクリエーション療法Ⅰ

楊 衛平

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身体を動かすことはストレス発散となり、集団で運動（体操・ゲーム等）することにより、新たなコミュニケーションが生まれる。また、中国伝統技術（ヨガ・マッサージ等）を媒介としたレクリエーション技能を習得することは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業の目標】

中国伝統医学に基づく理学療法の知識を学び、基礎・実技演習を通して、対人援助の伝統技能を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 未病と健康増進
- 第2回 養生と運動療法
- 第3回 人体経絡の構造
- 第4回 気の構成と生理
- 第5回 気の病態と気功
- 第6回 調心調息調身法
- 第7回 ツボの分類記憶
- 第8回 基本手技演習Ⅰ
- 第9回 基本手技演習Ⅱ
- 第10回 ツボ療法の活用
- 第11回 はりと刺絡療法
- 第12回 お灸と温熱療法
- 第13回 症状別の指圧法
- 第14回 健康器具の活用
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、実技の能力、レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

中国医学・伝統的な運動法・理学療法等の参考資料を配布する。

レクリエーション療法Ⅱ

加藤國男

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動をすることに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業の目標】

作業療法を目的とした、基礎的かつ応用のできる染織技法の習得。

【授業計画】

現場ですぐに対応できるように、身近にあるものを利用して作業を進めていける内容である。3・4週で一つずつ達成できるが、技術習得の為の実技が伴い、毎回積み上げてゆく構成である。また持参物など、その都度指示してゆくので欠席する事なく取り組む姿勢が大切である。

- 第1～3回 全体のプログラムの説明及び指を使つての紐編み
- 第4～7回 織棒制作及び織棒を使った織物
- 第8～10回 ステンシルによる型染
- 第11～12回 フェルトメーキング
- 第13～15回 カードウィービング

【評価方法】

各課題の理解度、受講態度、出席状況等を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配付する。

【参考文献・資料】

- 作業療法技術ガイド（石川・古川編 分光堂）
- 作業——その治療的応用（日本作業療法士協会編 協同医書出版社）
- はじめての織物（荒木峰子著 美術出版）
- 紐を織る（山梨幹子著 美術出版社）
- フェルトメーキング（ジョリー ジョンソン著 青幻社）

レクリエーション療法Ⅱ

林美枝子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動をすることに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業の目標】

音楽療法の歴史的背景、定義、また各領域における音楽療法の実際を理解した上で、福祉の現場における音楽活動のプログラムを組み立て、対象者の立場にたった実践を可能にする。

【授業計画】

楽器（トーンチャイム、音積み木、ツリーチャイム、他打楽器）などを使用して実習をし、福祉現場の音楽療法・音楽活動について、より理解を深める。

- 第1回 音楽療法の定義
- 第2回 音楽療法の歴史的背景（1）
- 第3回 音楽療法の歴史的背景（2）
- 第4回 音楽療法治療の特性に関する理解
- 第5回 高齢領域における音楽療法
- 第6回 児童領域における音楽療法
- 第7回 成人領域における音楽療法
- 第8回 アセスメントと評価
- 第9回 福祉レクリエーションにおける音楽活動（音楽療法）と楽器活動の実習（1）
- 第10回 福祉レクリエーションにおける音楽活動（音楽療法）と楽器活動の実習（2）
- 第11～12回 音楽療法（音楽活動）案の作成
- 第13～14回 音楽療法（音楽活動）のグループ別発表
- 第15回 総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業への参加態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

音楽療法の基礎（村井靖児著 音楽之友社）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

レクリエーション療法Ⅱ

藤井健仁

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動をすることに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業の目標】

1. 造形芸術におけるコミュニケーションの位相を理解する
2. 造形芸術の技法について理解を深める
3. シュルレアリスム、アウトサイダーアート等を通じて日常と芸術の接点について考える

【授業計画】

- 第1回 造形芸術について
- 第2～5回 立体のためのデッサン基礎（鉛筆、木炭等を画材として使用）
- 第6～11回 立体制作（モデリング、ポリパテを使用）
- 第12回 作品講評
- 第13～15回 造形芸術と心理（シュルレアリスム等の実験）

【評価方法】

出席を重視。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

教材費として2500円必要です。

資料収集法

棚橋昌子 永田忠夫 西和久

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉現場において、研究資料を収集する技法の基礎を学習する。さらに収集した資料を解析する技法を習得する。資料収集の方法として質問紙調査、面接調査、仮想ゲームを用いる。研究対象から研究目的を科学的に検証し、値するデータ収集と統計的処理をする能力を養う。

【授業の目標】

質問紙調査、面接調査、仮想ゲームによるデータ収集技法を習得し、そのデータを分析する能力を養う。

【授業計画】

学生は各クラスごとに各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1教員は各クラスについて、それぞれの演習を4回担当する。

第1回 オリエンテーション（全学生）

第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

1. 質問紙調査法
 - 1) 質問紙調査法の解説・グループごとにテーマを決める
 - 2) 調査票の作成およびプレ調査
 - 3) 調査票の整理および分析
 - 4) 調査結果のまとめ
2. 面接法
 - 1) 面接法の解説・グループごとにテーマを決める。
 - 2) 面接内容の細部検討・面接記録用紙を作成する。
 - 3) 面接記録の整理と分析
 - 4) 面接記録のまとめ
3. 仮想ゲーム
 - 1) 研究デザイン、実験手続きおよび測定方法を理解する。
 - 2) ゲームあるいは実験を実施し、データを収集する。
 - 3) 収集されたデータを集計し、統計解析を施し、仮説の検証を行う。
 - 4) 研究結果をレポートにまとめる。
最終的にはグループごとに研究結果をパワーポイントを用いて発表する。

第14回・第15回（全体演習）

まとめ

【評価方法】

各資料収集法担当ごとに、出席、授業態度、レポート等によって総合的に評価する。その上で、3つの資料収集法の平均をこの授業科目の評価とする。

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

文献講読演習

伊藤勝也 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦
瀧誠 永田祐 西和久

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミで、独自のテーマに関する関連分野の参考図書や参考文献の検索方法を学び、基本文献を講読し、福祉貢献研究および卒業論文へと展開する準備を行う。

【授業の目標】

医療福祉研究を行う上での文献の収集、精読、整理の一連の作業が行えるようにする。加えて単に文献から情報を得るのみならず、批判的に論文を吟味し、内容を精査する能力を養う。

【授業計画】

1. 文献講読の基礎
2. 学術論文の検索と収集
3. 文献の精読と内容精査
4. 文献整理の方法
5. レビュー論文の執筆方法（複数の文献を統合する）
6. 個人発表（あるトピックに添った文献を系統的にレビューし、その内容を口頭発表する）

【評価方法】

出席状況、受講態度、学期末レポートの成績を総合的に判断して評価する。本演習ではグループ・ディスカッションを重視する。したがって文献の内容を理解するとともに、積極的にディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト】

各担当教員が指定する。

担当教員が教科書を指定した場合、必ず購入すること。

【参考文献・資料】

授業の際、別途指示する。

福祉と人権

初谷良彦

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉の制度や諸サービス自体の実体的内容と、その運営の実際の過程に人権の観念がどれだけ生かされているか。人権保障を打ち出すことにはあまりにも消極的であるといわれる。本当の意味で人権としての社会福祉が実現するにはどのようにしたらよいかについて考える。さらに、自己決定権の法理と適正な手続き的処遇を受ける権利の現状についての分析もする。自己決定権、個人の尊厳、プライバシー等の権利の実効性を確保し、質の高いサービスを保障するためにはどのような仕組みが必要であるかについても学ぶ。

福祉とジェンダー

杉本貴代栄

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

男女共同参画社会の形成に向け、福祉についてジェンダーの視点からとらえる。福祉の中にあるジェンダーバイアスを制度の中から具体的に取り上げながら、ジェンダーからみた福祉改革の方向とそのあり方を考える。

福祉とセクソロジー

担当者未定

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、福祉の専門職として必要とされる性的自立と性的共生能力についての基本を理解することを目的とする。また、セクシュアル・マイノリティの人権の現実を学ぶことで、性に関する正しい人権意識をもち、偏見のない援助行動が取れる基盤を作る。

福祉と自助活動

担当者未定

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

セルフヘルプグループとは、慢性性病や不治の病あるいは障害などをもった人々が社会で自立＝自律してゆくための、病者/障害者を主体として、場合によってはそれ以外の家族やボランティアなどで構成される自助組織である。こうした組織の福祉領域における役割や意義、専門職との連携や援助方法などについて理解する。

コミュニティビジネス論

岡田敏克

4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

自己雇用によって生きがいや働きがいを産み出す効果とスモールビジネスを通して地域コミュニティに貢献できるコミュニティ・ビジネスについて理解し、市民起業、まちづくり活動による新しい生き方、働き方を特に福祉の領域に焦点を当てて学ぶ。

東洋的健康論

楊 衛平

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

西洋医学を基礎として構築されている現代の健康観に対して、東洋医学を基礎とした東洋的健康観の特徴を学ぶ。薬膳料理や漢方薬の成り立ち、気孔や経絡に基づく鍼灸の原理等を具体的に学び、健康維持における有用性を理解する。

医療ソーシャルワーク論

山口みほ

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

医療ソーシャルワークの歴史と現代の制度を学習する。その上で、事例を通じて制度の利用の仕方および利用者と家族の持つ問題点を理解し、専門職としての援助のあり方を学ぶ。

高齢者医療論

担当者未定

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活習慣病を多く体現すると予想される高齢者の健康状態に配慮し、高齢者の病気との付き合い方はいかにあるべきか、を考える。一方、体力づくりに励む元気な高齢者も増加しており、個人差を念頭において、各自のQOLを高める医療のあり方を学ぶ。

母子医療論

渡邊一功

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

少子化が進行するなかで、妊娠出産に関する生殖医療から小児医療まで、医療の現実とあり方を学習する。

福祉貢献研究Ⅰ

伊藤勝也 伊藤春樹 神波幸子 佐々木政人 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦
瀧誠 棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 永田祐 西和久 春見静子

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

主に専任教員による少人数ゼミナルである。習得した知識・技術・技能・実習体験を活用して、幅広い視点から福祉貢献の課題を発見し、問題意識を形成する。

福祉貢献研究Ⅱ

伊藤勝也 伊藤春樹 神波幸子 佐々木政人 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦
瀧誠 棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 永田祐 西和久 春見静子

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「福祉貢献研究Ⅰ」の成果を踏まえて、主体的に具体的な調査または実験等を計画し、専門の研究を深める。ゼミナル指導教員の特徴を生かした授業計画により進行し、学術研究を展開する。

卒業論文

伊藤勝也 神波幸子 杉浦信彦 諏訪真美
高橋俊彦 棚橋昌子 永田忠夫

4年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

福祉貢献に関する研究を発展させて卒業論文を作成する。

社会福祉原論Ⅰ

見平 隆

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

社会福祉原論Ⅱ

見平 隆

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解する。
- 2 社会福祉関係職種の内容について理解する。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 4 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解する。

【授業計画】

- 1 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 2 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 3 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

高齢者福祉論Ⅰ

神波幸子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者の精神的・身体的諸特徴や高齢者福祉の理念について理解し、高齢者に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深めるとともに、高齢者のニーズの把握方法、サービス供給組織と専門職のあり方を学習する。同時に、近年の政策動向を踏まえ、高齢者福祉の課題、今後のあり方を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解するとともに、老人福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解する。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解する。

【授業計画】

- 1 高齢化社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎（E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房）

高齢者福祉論Ⅱ

橋本泰子

2年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者福祉の中で福祉専門職（ソーシャルワーカー）が保健・医療・福祉の他職種との連携の中で果たす役割について学習し、高齢者に対する相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。また、高齢者の生活を支える上で欠かせない住環境、福祉用具について学習する。加えて、近年増大している民間シルバーサービス事業者のサービスについてその特徴や現状についても学ぶ。

【授業の目標】

- 1 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解する。
- 2 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解する。
- 4 老人に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

- 1 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 2 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
 - 2) 福祉用具
- 4 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

適時、指示する。

障害者福祉論 I

谷口明広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会における障害者がおかれている立場と障害者福祉の目標、理念を理解する。特に、リハビリテーション、ノーマライゼーションといった障害者福祉の理念の発達とその意義について講義する。また、障害者の福祉ニーズの把握方法について講義し、近年の政策動向を踏まえながら障害者福祉の達成と今後の課題を学ぶ

【授業の目標】

1. 障害の概念を理解して、障害者問題の本質を探る
2. ノーマライゼーションやバリアフリーという考え方から新しい障害者福祉を知る
3. 米国における自立生活運動を紹介し、日本における障害をもつ人たちの自立生活を考える
4. 障害をもつ人たちの自立生活概念に関する知識を習得する
5. 障害をもつ人たちのエンパワメントを考え、自立していく力を捉えていく
6. 「障害者自立支援法」における施設体系と地域生活支援を考える

【授業計画】

1. 障害概念と新しい障害像
 - (1) 「国際生活機能分類 (ICF)」を基本にした障害概念
 - (2) 「ノーマライゼーション思想」と「ソーシャル・インクルージョン」を考える
 - (3) 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」を考える
2. 障害をもつ人たちの人権と差別の歴史
 - (1) 障害者差別の原理とメカニズム
 - (2) 古代における障害をもつ人たちの生活
 - (3) 中世における障害をもつ人たちの生活
 - (4) 近代における障害をもつ人たちの生活
 - (5) 現在における障害をもつ人たちの生活
3. 米国における障害をもつ人たちの自立生活運動
 - (1) 米国の自立生活運動史
 - (2) エド・ロバーツとメインストリーミング思想
 - (3) 「障害をもつアメリカ人法 (ADA)」の意味と意義
4. わが国における自立生活概念の振興
 - (1) 「施設から地域へ」は現実的なのか
 - (2) 日本の自立生活概念に関して
 - (3) 自己決定を援助することとニーズの把握
5. 障害をもつ人たちを取り巻く様々な問題
 - (1) 障害をもつ人たちの教育問題
 - (2) 障害をもつ人たちの就労問題
 - (3) 障害をもつ人たちの性と結婚の問題
 - (4) 障害をもつ人たちへの介護問題
6. 「障害者自立支援法」による障害者福祉改革
 - (1) 支援費制度から「障害者自立支援法」への転換
 - (2) 新法における障害者支援施設の役割と機能
 - (3) 新法における在宅福祉サービスの特徴と意味

【評価方法】

出席状況と課題提出を基本に、筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント (ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

障害者福祉論 (社会福祉士養成テキストブック) (ミネルヴァ書房)

障害者福祉論 II

春見静子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害者福祉論 I を踏まえ、障害者 (障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者) に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深める。その上でソーシャルワーカーとしての具体的な援助方法、援助組織、関連他職種との連携のあり方について学ぶ。また、こうした相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業の目標】

1. 障害者福祉に関する法とサービスの体系について理解する。
2. 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解する。
3. 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
4. 障害者に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

1. 障害者福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的な内容
 - 1) 障害者基本法のリハビリテーション体系
 - 2) 障害別福祉サービスの体系と内容
 - 1 障害児
 - 2 身体障害者
 - 3 知的障害者
 - 4 精神障害者
 - 3) 関連法による施策
 - 1 保健・医療
 - 2 教育
 - 3 雇用・就労
 - 4 年金、手当及び経済的負担の軽減
 - 5 住宅・生活環境 (バリアフリーへの対応)
2. 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
 - 1) 民間活動
 - 2) 民間サービス
3. 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
4. 障害者に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動を進めるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版障害者福祉論 (介護福祉士選書3) (牧野田恵美子・春見静子編著 建帛社 2005)

【参考文献・資料】

発達障害白書 2004 (日本文化科学社)
福祉小六法 2005 (中央法規)

児童福祉論 I

谷口純世

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の中での子どもの成長及び発達について、また、子どもの養護の方法・体系と、現代社会の中で子ども及びその家庭をとりまく環境についての理解を深める。また、この上で児童福祉の理念と意義、さらに子どもとその家庭のニーズの把握とニーズに対して実施されるサービスの体系及び関係する法体系について学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、児童福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 児童福祉に関する法とそのサービスの体系について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と児童
 - 1) 人間の成長・発達と児童
 - 2) 家族と児童
 - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
 - 1) 児童福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
 - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービス体系とその具体的内容
 - 1) 児童福祉法
 - 2) 母子及び寡婦福祉法
 - 3) 母子保健法
 - 4) その他関連法規

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に指示する

児童福祉論 II

谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

児童福祉論 I の基礎的学習をもとに、公民の児童福祉サービスの現状と意味について、またこれらのサービスを担う子ども家庭福祉援助専門職のあり方と、同専門職間・異専門職間での連携のあり方、地域における援助の展開方法や適切な福祉用具の活用について学ぶ。児童福祉における、相談援助・生活援助などさまざまな援助活動のあり方について、事例の活用も含め理解を深める。

【授業の目標】

- 1 民間サービスの社会的意味とその現状について理解する。
- 2 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解する。
- 4 児童に対する相談援助活動について理解する。

【授業計画】

- 1 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 2 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 3 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域及び住環境の整備
 - 2) 福祉用具
- 4 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 5 児童に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に指示する

社会保障論Ⅰ

見平 隆

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解する。
- 2 社会保障制度の体系について理解する。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険（雇用保険）
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会保障論Ⅱ

見平 隆

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実情などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

【授業の目標】

- 1 我が国の年金保険について熟知する。
- 2 我が国の医療保険について熟知する。
- 3 我が国の介護保険について熟知する。
- 4 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解する。
- 5 社会保障の実施体制及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 我が国の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
 - 4) 障害基礎年金
- 2 我が国の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 3 我が国の介護保険とその具体的内容
- 4 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 5 社会保障の実施体制及び専門職

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

はじめの社会保障 第2版（椋野美智子他著 有斐閣アルマ）

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えてあえて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業の目標】

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業の目標】

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害に対する専門援助技術を含む）。

【授業計画】

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1 医学モデル
 - 2 生活モデル
 - 3 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4 援助計画の作成
 - 5 援助活動の実施
 - 6 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2 面接の意義と方法
 - 3 記録の意義と方法
 - 4 評価の意義と方法
 - 5 スーパービジョンの意義と方法
 - 6 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7 ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論の動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉援助技術論（深澤里子・春見静子編著 光生館）

【参考文献・資料】

社会福祉実践の共通基盤（パートレット ミネルヴァ 1978）
エコロジカルソーシャルワーク（ジャーメイン、C 学苑社 1982）

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5 その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワーメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

社会福祉援助技術各論Ⅰ

春見静子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅰにおいては、ケースワーク、グループワークを中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（ケースワーク、グループワーク）。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容

- 1) 直接援助技術

- (ア) 個別援助技術（ケースワーク）
 - 1 個別援助技術における過程の意味
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の展開期
 - 4 援助の終結期
- (イ) 集団援助技術（グループワーク）
 - 1 援助の準備期
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の作業期
 - 4 援助の終結期

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ケースワーク・グループワーク（武井麻子・春見静子・深澤里子共著 光生館）

【参考文献・資料】

ケースワーク研究（岡本民夫 ミネルヴァ書房 1973）
グループワークの歴史（K.Eリード 勁草書房 1992）
ケースワークとは何か（M.リッチモンド 誠信書房 1963）

社会福祉援助技術各論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅱにおいては、コミュニティワーク、社会福祉調査法、社会福祉の運営と計画を中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

対人援助技術の中でも間接援助技術であるコミュニティワーク、社会福祉調査法、ソーシャルアクション、ソーシャルウェルフェア・プランニングの体系や技術を学び、社会福祉の問題を多面的に捉え、複合的な方法論を用いることができるよう、各援助論の理解を深める。

【授業計画】

1. 間接援助技術とは何か
2. コミュニティワークとネットワークング
 - (1) コミュニティワークの基礎理論
 - (2) コミュニティワークの援助過程
 - (3) コミュニティワークの課題
 - (4) ネットワークングの基礎理論と技術過程、課題
3. 社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）
 - (1) 社会福祉調査法の基礎理論
 - (2) 社会福祉調査法の技術過程
 - (3) 社会福祉調査法
4. 社会活動法（ソーシャルアクション）
 - (1) ソーシャルアクションの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルアクションの展開事例
 - (3) ソーシャルアクションの課題
5. 社会福祉計画法（ソーシャルウェルフェア・プランニング）
 - (1) ソーシャルウェルフェア・プランニングの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルウェルフェア・プランニングの実施事例
 - (3) ソーシャルウェルフェア・プランニングの課題

【評価方法】

出席状況と課題提出を基本に、筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新・社会福祉方法原論（改訂版）（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

社会福祉援助技術各論（社会福祉士養成テキストブック）（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術演習Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 春見静子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習（演習課題）
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 春見静子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術演習Ⅰをさらに発展させ、より困難な事例、さまざまな価値や、倫理が錯綜し、判断が難しい事例などを取り上げ、学生同士の討議を積極的に取り入れながら、援助技術に関わる知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 演習実施のための枠組み（事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例
 - 1) ソーシャルワークの実践事例の検討
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐
(金田千賀子 田引俊和 平出 明)

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場における実習経験を通して、社会福祉士としての専門知識、技能、関連知識をさらに深めるとともに、それを実際に応用し、活用する能力を高める。また、専門職としての倫理を実習を通じて自らのものとし、体現できるようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要となる資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とまらない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐
(金田千賀子 田引俊和 平出 明)

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術現場実習Ⅰにおける学習をさらに深めるとともに、実習担当者、受け入れ側実習担当者との緊密な連携の下、利用者と関係を作る力、多面的、重層的に問題を捉える力を養い、経験を単なる経験としてではなく専門職種として応用する力が身につくようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要となる資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とまらない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講和等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

神波幸子 佐々木政人 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実習中の指導については、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰの内容を継続して指導する。実習後については、実習記録に基づく実習の振り返りを通じて実習経験を自分のものとするとともに、総括のための報告会を開き、現場指導者、教員とともに評価を行う。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業の目標】

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

【授業計画】

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1 精神分析
 - 2 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1 発達
 - 2 知能
 - 3 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

【授業計画】

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

社会福祉選書15 社会学（小林修一編著 建帛社）
社会学がわかる事典（森下信也著 日本実業出版社）

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業の目標】

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

【授業計画】

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

法学レッスン（第3版）（中島編 成文堂）。

【参考文献・資料】

資料は当方で作成し、随時配布する。

医学概論Ⅰ

森 滋夫

(福祉貢献学科) 1年 前期 必修 2単位
(言語聴覚学専攻) 1年 前期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業の目標】

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成 2) 細胞と組織 3) 皮膚 4) 骨格 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系 7) 感覚器 8) 内分泌腺 9) 血液 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫 12) 呼吸器 13) 消化器 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性 16) 生殖器 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

使用せず

医学概論Ⅱ

太田由枝

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業の目標】

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

介護概論

永田量子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

施設中心の介護から在宅介護まで含めて、よりよい介護とは何かを考える。高齢者・障害者等の自立的生活を援助する視点から、介護の目的と原則、健康維持のメカニズムの基本を学習し、看護・介護・家事援助の関連性を理解する。

【授業の目標】

- 1 介護の役割と範囲を理解するとともに、看護・医療及びに家政との関係について理解する。
- 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解する。
- 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
- 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それに対する予防措置を講ずることができるようにする。

【授業計画】

- 1 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
 - 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
 - 4) 健康維持のメカニズム
 - 5) 終末期の介護
 - 6) 介護過程の展開
- 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
 - 1) 住生活環境の安全管理（感染防止）
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 衣服の着脱
 - 5) 入浴・身体の清潔と感染防止
 - 6) 移動空間の確保
 - 7) 健康習慣の獲得
 - 8) 体力の維持（運動と機能維持）
 - 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
 - 10) 療養時の対応
 - 11) 緊急・事故時の対応
 - 12) 介護家族への生活維持援助
 - 13) 福祉用具の活用
- 3 介護関係維持のための技法
 - 1) 健康や生活の観察技法
 - 2) コミュニケーションの技法
 - 3) 記録と情報の共有化の技法
 - 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護師・保健師等医療専門職との連携のあり方
 - 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
- 4 介護活動の場に特有な問題と技法
 - 1) 家庭
 - 2) 施設

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

適時、紹介する

精神医学 I

高橋俊彦

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

精神を思うとはどういうことなのか。最近の精神医学で明らかになった脳および神経の生理を学び、精神障害・精神医学の概念を理解する。同時に精神医療の歴史を学び、精神障害の程度の診断技術の発達および現代の精神医学の課題を理解する。

【授業の目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解する。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。
- 3 精神医学の概念について理解する。
- 4 精神医学診断の基本的な方法について理解する。
- 5 代表的な精神障害について理解する。

【授業計画】

- 1 精神医学、精神医療の歴史
 - 1) 西洋の歴史
 - 2) 日本の歴史
- 2 脳および神経の生理・解剖
 - 1) 神経系の発生と構成
 - 2) 中枢神経系
 - 3) 末梢神経系
- 3 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
- 4 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
- 5 代表的な精神障害（その1）
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、分裂病型人格障害および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

精神医学 II

高橋俊彦

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

代表的な精神障害として、老年性認知症、てんかん、睡眠障害、アルコール関連精神障害、薬物依存その他の身体因性障害、神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、気分障害、妄想障害、さらに統合失調症等、医療現場、福祉現場と関連があると予想される精神障害について理解する。また、病院精神医療と地域精神医療との関連等を学習する。

【授業の目標】

- 1 代表的な精神障害について理解する。
- 2 治療の概要について理解する。
- 3 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

【授業計画】

- 1 代表的な精神障害（その2）
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達の障害
 - 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
- 2 治療法
 - 1) 身体的療法
 - 1) 薬物療法とその副作用
 - 2) 電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 3 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に随時指示する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

精神保健学Ⅰ

諏訪真美

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は精神保健における基本的知識について理解する事が目的である。人間のライフサイクル（乳児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の各段階で発達課題を知り、それぞれの精神保健を理解する。また、個人のライフサイクルとともに家庭におけるサイクルを理解し、家族関係の成長・発達を知る。さらに家庭・学校・地域・職場での精神保健活動について理解する。また、地域精神保健に関する関係法規についても学習する。

【授業の目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解する。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解する。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性認知症疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）
我が国の精神保健福祉 16年度版（精神保健福祉研究会）
精神病（岩波新書）

精神保健学Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神保健における基本的知識のもとに、さらに個別の理解を深める事を目的とする。精神障害者対策、老人性認知症疾患、薬物問題対策、思春期精神保健等の個別課題について学習する。また、社会の変化に基づく精神保健の新しい課題についても学習する。そして地域精神保健活動についてその実際の状況を学習し、関係期間の取り組みを参考にして個別課題の問題解決について考える。

【授業の目標】

- 1 地域精神保健と地域保健について理解する。
- 2 諸外国における精神保健の概要について理解する。
- 3 関連法規および施設について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 2 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 3 諸外国における精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）
我が国の精神保健福祉 16年度版（精神保健福祉研究会）
心の病と社会復帰（岩波新書）

精神科リハビリテーション学Ⅰ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションの概念および構成を理解することを目的とする。まず精神科リハビリテーションの歴史について学習し、我が国の精神科リハビリテーションの現状について理解する。そして、病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーションの実際について学習する。さらにそのなかで精神保健福祉士の役割を考え検討する。

【授業の目標】

1. 精神科リハビリテーションの概念について理解する。
2. 精神科リハビリテーションの構成について理解する。
3. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解する。

【授業計画】

1. 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2. 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - 1) 病院リハビリテーション施設等
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - 3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - 4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
3. 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - 1) 病院におけるリハビリテーション
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - 3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）
べてるの家の「非」援助論（医学書院）

精神科リハビリテーション学Ⅱ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションについてその技法を具体的に学習し、精神保健福祉士の実践課題を明らかにし、他専門職との連携をはかる能力を養う。作業療法・集団精神療法について学習し、家庭教育プログラムやデイケア・ナイトケアが実際どのように実施されているかの状況やその効果について理解する。そして、精神科リハビリテーションの役割と今後の課題について考える。

【授業の目標】

1. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける連携について理解する。

【授業計画】

1. 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家庭教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
2. 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - 1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - 2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - 3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - 4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - 1) 日常生活への適応のための訓練
 - 2) 社会復帰のための相談・助言・指導
3. 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - 1) 地域ネットワーク
 - 2) ケアマネジメント
 - 3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - 4) 家族会および自助グループ
 - 5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）
ともに生きる歩み（やどかり出版）

【授業の概要】

障害者福祉一般に通じる理念（基本的価値、障害の概念）、施策、実践課題の基本的理解とそれを土台にした精神障害者の諸課題を学ぶ。とりわけ、偏見・差別といった社会的障壁の下に置かれてきた精神障害者の人権擁護の視点を掘り下げるとともに、社会福祉基礎構造改革、市町村を基盤にした障害者福祉の一元的推進施策下での新しい援助のあり方について理解を深める。併せて、諸課題に対する当事者、地域社会の取り組みの歴史を学ぶことで今日的課題の意義を理解する。

【授業の目標】

1. 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。
2. 精神障害者の人権について理解する。

【授業計画】

1. 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - 1 障害者福祉の発達
 - 2 ノーマライゼーション
 - 3 リハビリテーション
 - 4 生活の質（QOL）
 - 5 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - 1 障害の概念
 - 2 障害分類（国際障害分類を含む）
 - 3 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - 1 障害者基本法
 - 2 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - 1 精神障害者の概念
 - 2 精神障害者と家族
 - 3 精神障害者と地域社会
 - 4 精神障害者のノーマライゼーション
2. 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

法改正のため、講義開始後に指示する。
初期はプリントを配布。
社会福祉小六法は持参すること。（特に指定はしないが、毎年改訂された後に購入すること）

【参考文献・資料】

講義開始後に指示する。

【授業の概要】

精神保健福祉士の意義、役割について理解する。とりわけ、精神保健福祉の歴史上の諸問題とそこでの精神科ソーシャルワーカーの厳しい自己点検の経過を学ぶことで精神保健福祉士の意義を理解する。また、精神障害者の生活状況の把握を出発点にして精神保健福祉士に要求される専門性、倫理について学ぶとともに、精神障害者の社会的障壁からの解放、主体性の尊重といった基本的価値に基づいた各現場での相談援助の実際について学ぶ。

【授業の目標】

1. 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。
2. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
2. 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者をとりまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - 1 医療施設における相談援助活動
 - 2 社会復帰施設等における相談援助活動
 - 3 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

【授業の概要】

精神障害者の医療、保健、福祉に渡る精神保健福祉法、精神保健福祉法の歴史的意義と関連法を含めた法体系の具体的理解を目指す。また、法に基づいた精神保健福祉諸施策の概要と、立ち遅れが指摘されている医療、福祉サービスの到達点の評価と諸課題を学ぶ。併せて、精神障害者の自立の土台となる雇用・就労、所得保障等関連施策の概要を学ぶとともに関連領域との連携のあり方についての理解を深める。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉法、精神保健福祉法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。
- 2 精神保健福祉施策の概要について理解する。
- 3 精神保健福祉の関連施策について理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
2. 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度（工費負担医療費）
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - 1) 精神障害者福祉対策
 - 2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - 1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - 2) 社会資源
3. 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

参考文献は、その都度紹介。
プリント配布。

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解する。
- 2 社会福祉関係職種の内容について理解する。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 4 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解する。

【授業計画】

- 1 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 2 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 3 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

- 社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）
 社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
 社会福祉のキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

- 公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）
 社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

はじめての社会保障 第2版（椋野美智子他著 有斐閣アルマ）

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えてあえて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業の目標】

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業の目標】

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的な事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害者に対する専門援助技術を含む）。

【授業計画】

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1) 医学モデル
 - 2) 生活モデル
 - 3) 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4) 援助計画の作成
 - 5) 援助活動の実施
 - 6) 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1) 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2) 面接の意義と方法
 - 3) 記録の意義と方法
 - 4) 評価の意義と方法
 - 5) スーパービジョンの意義と方法
 - 6) 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7) ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論的動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉援助技術論（深澤里子・春見静子編著 光生館）

【参考文献・資料】

社会福祉実践の共通基盤（パートレット ミネルヴァ 1978）
エコロジカルソーシャルワーク（ジャーメイン、C 学苑社 1982）

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5 その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワーメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

【授業の概要】

この科目では、これまで学習してきた精神障害者の疾病および障害についての理解に基づいて、個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）について理解する事を目的とする。具体的事例について、個別援助（ケースワーク）の計画・実施について考える。さらに集団援助（グループワーク）についても、具体的事例に基づいて、その計画・実施を考え、関係者それぞれの役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適応分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - 1 ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - 2 社会資源の活用と開発
 - 3 地域社会における連携と調整機能
 - 4 家族会、自助グループの支援
 - 5 ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - 6 地域援助
 - 3) 具体的事例検討

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉学双書2006
社会福祉援助技術論（全国社会福祉協議会）
その他は講義開始後に指示する。

【参考文献・資料】

高齢者援助における相談面接の理論と実際（渡辺律子著 医歯薬出版株式会社）
未知との遭遇・癒しとしての面接（奥川幸子著）
グループワークの専門技術（黒木保博他著 中央法規） 他

【授業の概要】

この科目では、精神障害者のケアマネジメント・地域援助技術（コミュニティワーク）について理解することを目的とする。ケアマネジメントの技法について学習し、それを活用した地域援助について理解する。また、具体的事例について、ケアマネジメントの技法を用いて、その援助計画について検討する。これらによって、地域での精神障害者援助の実際について、関係機関の連携・チームアプローチのありかたについて考える。

【授業の目標】

- 1 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - 1 ケアマネジメント
 - 2 適応と対象
 - 3 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 1 ケアマネジメントの意義と留意点
 - 2 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - 1 受理面接（インテーク）
 - 2 ニーズの把握とその評価
 - 3 目標設定と計画的実施
 - 4 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
- 2 精神障害者援助と関連専門職との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義開始後指示する。

【授業の概要】

精神保健福祉士としての専門的援助技術および精神リハビリテーション技法について、臨床場面を想定して、ロールプレイや事例検討を行い、対人援助者としての心構えや視点を養う。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 精神保健福祉の援助技術
 - 1) 演習課題と到達目標
 - 2) 演習課題と展開方法
- 2 個別援助技術の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) 保健医療施設等におけるケースワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるケースワーク
- 3 集団援助技術の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) 保健医療施設等におけるグループワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるグループワーク
 - 3) セルフヘルプ・グループとグループワーク
- 4 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 5 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 6 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

その都度紹介、配布する。

精神保健福祉援助演習Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習を行うにあたって、精神病院等の医療施設および社会復帰施設におけるモデル的な事例を学習し、現場実習での留意事項を学ぶ。また、現場実習終了後に実習記録をもとに問題点の整理をする。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 地域援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療等におけるコミュニティワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるコミュニティワーク
 - 3) 地域組織化とコミュニティワーク
- 2 地域ケア活動の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) チームアプローチによる援助
 - 2) ケアマネジメントによる援助
 - 3) ソーシャルサポート・ネットワーク援助
- 3 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

随時紹介。
プリント資料。

精神保健福祉援助実習Ⅰ

伊藤勝也 諏訪真美 瀧 誠

3年 前期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じて行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

プリント資料。

精神保健福祉援助実習Ⅱ

伊藤勝也 諏訪真美 瀧 誠

3年 後期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身に付け、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じて行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

プリント資料。

医学概論Ⅰ

森 滋夫

(福祉貢献学科) 1年 前期 必修 2単位
(言語聴覚学専攻) 1年 前期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業の目標】

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成 2) 細胞と組織 3) 皮膚 4) 骨格 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系 7) 感覚器 8) 内分泌腺 9) 血液 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫 12) 呼吸器 13) 消化器 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性 16) 生殖器 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

使用せず

医学概論Ⅱ

太田由枝

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業の目標】

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

心理学

永田忠夫

（福祉貢献学科）

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業の目標】

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

【授業計画】

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1 精神分析
 - 2 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1 発達
 - 2 知能
 - 3 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

社会学

北仲千里

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

【授業計画】

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。講義時にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

社会福祉選書15 社会学（小林修一編著 建帛社）
社会学がわかる事典（森下信也著 日本実業出版社）

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業の目標】

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

【授業計画】

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

法学レッスン（第3版）（中島編 成文堂）。

【参考文献・資料】

資料は当方で作成し、随時配布する。

医療貢献基礎演習

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作
丹羽英人 宮田 Susanne 吉田 敬

(言語聴覚学専攻)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚障害学、言語聴覚学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業の目標】

言語聴覚学、言語聴覚障害学の基礎的概念について学習するとともに、言語聴覚士の役割について理解する。さらに文献検索、コンピュータを活用した調査、レポート作成の方法について学ぶ。

【授業計画】

講義と演習形式を併用して行う。

- 第1回 言語聴覚士を目指して（役割、国家試験、履修科目、臨床実習など）
- 第2回 大学での学び方（講義と演習の違い、ノートのとり方など）
- 第3回 レポートの書き方（観察、資料の集め方、レポートの作成など）
- 第4回 文献検索法1（Webを利用した資料検索法）
- 第5回 文献検索法2（附属図書館での検索実習）
- 第6回 医療福祉領域で働く専門職の人的資質について
- 第7回 EBMとNBM（Evidence Based MedicineとNarrative Based Medicine）
- 第8回 言語聴覚士法と倫理規定
- 第9回 テーマ研究演習1
- 第10回 テーマ研究演習2
- 第11回 テーマ研究演習3
- 第12回 テーマ研究演習4
- 第13回 テーマ研究演習5
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み、文献研究レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

医療福祉学基礎演習テキスト

【参考文献・資料】

言語聴覚士国家試験出題基準（医療研修推進財団 医歯薬出版）

医療貢献基礎演習

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

(視覚科学専攻)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視能障害学、視覚科学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業の目標】

1. 文献の検索方法を習得する
2. 視能訓練士が扱う検査機器について理解を深める
3. 初歩的な実験計画法に基づく実験の実施と統計分析法について理解を深める

【授業計画】

講義と演習形式を併用して行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索法1（附属図書館での検索実習）
- 第3回 文献検索法2（Webを利用した資料検索法）
- 第4回 視覚科学専攻関連施設の見学（1）
- 第5回 視覚科学専攻関連施設の見学（2）
- 第6回 視覚科学専攻関連施設の見学（3）
- 第7回 実験と統計処理の基礎（1）：サイコロ実験
- 第8回 実験と統計処理の基礎（2）：統計の基礎
- 第9回 実験と統計処理の基礎（3）：実験レポート講評
- 第10回 実験と統計処理の基礎（4）：錯視実験
- 第11回 実験と統計処理の基礎（5）：オリジナル実験
- 第12回 Web検索文献発表会
- 第13回 オリジナル実験発表会
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

医療福祉学部基礎演習テキスト

心理・教育のための統計法 第2版（山内光哉著 サイエンス社）

【参考文献・資料】

バイオサイエンスの統計学（市原清志著 南江堂）

リハビリテーション概論

原田良實

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

1年 後期 選択 2単位
3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

リハビリテーションとは何か、その言葉の由来、定義、沿革、病気と障害の相連・関係、障害の統計、障害の階層的分類、対策、ノーマライゼーション、インフォームドコンセント、障害者の自己決定権、障害の告知等の学習を通して、リハビリテーションが障害者の全人格的復権を目的とする行為であることを理解する。

【授業の目標】

障害者全般について概観するなかで、リハビリテーションについて、その位置と重要性を理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜にプリントを配布する。

- 第1回 「リハビリテーション」とは何か。言葉と定義
- 第2回 「障害者」とは何か。言葉と定義
- 第3回 障害者の歴史と障害者観
- 第4回 調査にみる障害者の実態
- 第5回 障害の告知・受容・リハビリテーション
- 第6回 視覚に障害を持つ人のリハビリテーション
- 第7回 言語障害を伴う人のリハビリテーション
- 第8回 視覚に障害を持つ人の福祉
- 第9回 言語障害を伴う人の福祉
- 第10回 支援費制度と障害者の生活支援
- 第11回 相談援助
- 第12回 リハビリテーションの事例から考える (1)
- 第13回 リハビリテーションの事例から考える (2)
- 第14回 期末試験
- 第15回 「リハビリテーション」とは、まとめ

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視覚障害リハビリテーション概論(坂本洋一 中央法規出版)
社会生活力プログラム・マニュアル(赤塚光子 中央法規出版)

実験計測演習

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 棚橋昌子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理物理学研究における刺激や関連の物理量の正確な計測に必要な基礎的事項について理解し、物理計測器や光計測器を、その機能、特性の理解に基づいて正しく活用する技能を学習する。

(川嶋英嗣助教授) 照度の測定
(高橋啓介教授) 色の測定
(高橋伸子教授) 輝度の測定
(棚橋昌子教授) 音の測定

【授業の目標】

基本的な計測機器の取り扱いとデータの処理法について、測定を通して習得する。

【授業計画】

受講生を4つのグループに分け、それぞれについて以下のスケジュールで演習を行う。

- 第1回 オリエンテーション(全グループ合同)
- 第2回～第4回
 - Aグループ: 輝度の測定・Bグループ: 照度の測定
 - Cグループ: 色の測定・Dグループ: 音の測定
- 第5回～第7回
 - Aグループ: 音の測定・Bグループ: 輝度の測定
 - Cグループ: 照度の測定・Dグループ: 色の測定
- 第8回～第10回
 - Aグループ: 色の測定・Bグループ: 音の測定
 - Cグループ: 輝度の測定・Dグループ: 照度の測定
- 第11回～第13回
 - Aグループ: 照度の測定・Bグループ: 色の測定
 - Cグループ: 音の測定・Dグループ: 輝度の測定
- 第14回～第15回 まとめ

【評価方法】

出席(15点)、演習態度(25点)、レポート(15点×4回)の合計100点満点で、60点以上を合格とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

心理実験法演習Ⅰ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 宮田 Susanne

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

人間の感覚・知覚について、特に視覚、聴覚、触覚の各モダリティに重点を置き、精神物理学的測定法の諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することによって、コミュニケーション障害に関する研究技能の基礎を習得する。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

第1回 オリエンテーション（全学生）

第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

- ・ ミューラー・リヤー錯視：調整法
- ・ 明るさの測定：マグニチュード推定法
- ・ 聴覚閾：信号検出理論
- ・ レミニセンス効果の測定：実験スケジュールの調整
- ・ 対連合学習と系列暗記学習：経験破壊法
- ・ 鏡像描写：知覚・運動協応と両側性転移
- ・ 伝言ゲーム：コミュニケーションによる情報の変容
- ・ 触二点閾：極限法
- ・ 自然会話の観察と記録：行動観察法

第14回～第15回（グループ別演習）

まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（13点満点）、各課題のレポート（8点×9＝72点満点）とし、60点以上取得で合格とする。

ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル観察法（中沢潤（編）北大路書房 1997年）

心理実験法演習Ⅱ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

（言語聴覚学専攻）
（視覚科学専攻）

3年 後期 選択 2単位
2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の視覚、聴覚、触覚の各モダリティの認知的特性や機能について、実験的に測定、追究する諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法技能の定着を目指すとともに、尺度構成法に習熟することで、コミュニケーション障害の諸研究を行う高度な技能の習得をめざす。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

第1回 オリエンテーション（全学生）

第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

- ・ 実体鏡視：マグニチュード推定法
- ・ 味覚の測定：マグニチュード推定法
- ・ 大きさの恒常性：極限法
- ・ 色視野の測定：調整法
- ・ ストループ効果：信号検出理論
- ・ 色の弁別閾の測定：恒常法
- ・ リッカート法：尺度構成法
- ・ SD法：尺度構成法

第14回～第15回（グループ別演習）

まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（15点満点）、各課題のレポート（10点×7＝70点満点）とし、60点以上取得で合格とする。

ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

認知心理学

行松慎二

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報処理モデルの出現と認知心理学成立の経緯について学び、次に情報処理的アプローチによる人間の視覚認知や聴覚認知、注意、記憶、知識と表象、言語の研究からいくつかの基本的な事項や代表的なモデルを取り上げて学習する。

【授業の目標】

1. 人間の情報処理装置としての特性を理解するための基礎的な知識を習得する。
2. 心理学的実験研究の事例をととして人間の認知に関する科学的研究方法の概要を理解する。

【授業計画】

1. 認知心理学の概念（歴史、研究対象、情報処理）
2. 視覚と聴覚の基礎知識
3. 情報の受容
4. パタン認識
5. 記憶（短期記憶）
6. 記憶（記銘）
7. 記憶（検索と忘却）
8. 注意
9. 範疇
10. 知識
11. イメージ
12. 思考

【評価方法】

おもに試験の成績による。
レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

参考図書、推薦図書などは授業中に随時紹介する。

色彩心理学

坂田勝亮

1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

色彩という心理現象に関する諸現象についてその光学的、及び生理学的背景をもとに理解を深め、色知覚の心理メカニズムについて学ぶ。

【授業の目標】

心理現象としての色彩について理解するとともに、その物理学的、生理学的基礎についても理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 色彩とは
- 第2回 色彩の光学的基礎
- 第3回 スペクトルの観察
- 第4回 照明光源
- 第5回 混色とメタメリズム
- 第6回 色彩の生理学的基礎1：眼球
- 第7回 色彩の生理学的基礎2：網膜から中枢神経系へ
- 第8回 色覚モデル
- 第9回 均等色空間
- 第10回 色彩の心理的現象1：錯視
- 第11回 色彩の心理的現象2：同化と対比
- 第12回 色彩の心理的現象3：主観色
- 第13回 色彩の心理的現象4：順応と恒常性
- 第14回 色彩の心理的現象5：連想とイメージ
- 第15回 期末試験

なるべく多くの実体験を供するよう、実習を交えながら講義形式で行う。

【評価方法】

授業中における提出課題、および期末試験を実施する予定

【テキスト】

カラーコーディネーターのための色彩心理入門（近江源太郎著 日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

必要に応じ、講義中に指示する。

発達心理学

森 和彦

2年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

受精、誕生、成熟、老化、死のすべての過程において人の心身がいかに変化していくかについて理解する。胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな発達理論について学習する。

【授業の目標】

1. 言語聴覚士国家試験、視能訓練士国家試験における発達心理学分野の概略的知識内容（発達理論と発達段階およびその心理的特徴）が理解できる。
2. 特に視覚認知機能やコミュニケーション機能の発達について、より専門的に理解できる。

【授業計画】

1. 生涯発達とは何か
2. 視聴覚の解剖学的基礎
3. 発達初期の感覚と行動
4. 発達初期の視覚世界
5. 児童期の視覚と認識およびその表現
6. 生まれながらの行動傾向（コミュニケーションを含む）
7. 愛着の認識および関連した発達現象
8. 「心の理論」と視点
9. 言語的コミュニケーションの発達
10. 発話中の身振りとその視覚認識の発達
11. 描画表現の発達・描画認知の発達
12. 児童期から青年期への認識の発達
13. 青年期の特徴と発達課題
14. 視覚と加齢効果
15. 加齢と成熟（特に人間関係の発達）

【評価方法】

この授業に適したテキストノートを作成し、提出（返却はありませんので、必ずコピーは取って保存してください。）していただきます。A4横書き縦置き左右開きの綴じ。手書き、ワープロ、カラー、白黒どちらも可、図表や参考書などの引用は必ず引用文献、出典を明記すること。付録（CDなど）・イラストをつけても可。評価基準は以上の条件を遵守した上で、以下の通り。

D（不可）：一部テキストとして使えない。仮想される本講義のテストに持ち込んでも役に立たない。

C（合格）：授業でどのようなことが教授されたかがわかり、少なくとも重要な項目はすべて明記されている。

B（良）：Cの評価基準に加えて、授業内容を理解するのに役立つ解説や説明、ポイントの指摘、補足項目もある。

A（優）：Bの評価基準に加えて、図解や表が多く、きれいで見やすいばかりか、参考関連の内容について授業以上の内容（関連する内容で受講者の関心事）がこのテキストで自主的に学べる。高齢の学習者にも配慮された印字。

【テキスト】

自分で作成していただきます。

【参考文献・資料】

現在未定ですが、随時紹介します。

臨床心理学

小池理穂

（言語聴覚学専攻）
（視覚科学専攻）

1年 後期 必修 2単位
3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人格理論、発達各期における心理臨床的問題や意識障害、適応障害などについて学び、さらにそれらに対する心理療法やカウンセリングの構造や特性について学ぶ。

【授業の目標】

1. 臨床心理学について学び、現代社会に生じる心理臨床的問題、意識障害、適応障害について、そのメカニズムを含め考察する。
2. 人格理論にもとづいた実践である心理療法を学び心理的援助の理解を深める。

【授業計画】

1. 「臨床心理士」について（自己紹介）
2. 心理臨床的問題について
 - ・発達段階において考える
乳幼児期、児童期・思春期、青年期、中年期、老年期
 - ・精神障害
3. 人格理論と心理療法
 - ・クライアント中心療法
 - ・精神分析療法
 - ・行動療法
4. アセスメント
5. 他職種との連携

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

学習心理学

河野和明

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの環境適応を支える基礎的過程である「学習」の特性、メカニズム、機能について学ぶ。

【授業の目標】

ヒトの適応能力としての学習とその基本的な原理を理解し、学習に関して、基礎理論から応用的側面まで包括的に把握する。

【授業計画】

- 第1回 学習の生物学的基盤
- 第2回 動物の行動獲得に関する基礎的知見(1)
- 第3回 動物の行動獲得に関する基礎的知見(2)
- 第4回 バグロフ型条件づけとその形成
- 第5回 バグロフ型条件づけにおける般化・分化と消去
- 第6回 試行錯誤学習とオペラント条件づけ
- 第7回 オペラント条件づけの種類と強化スケジュール
- 第8回 観察学習とモデリング
- 第9回 学習理論の応用(1)
- 第10回 学習理論の応用(2)
- 第11回 技能学習
- 第12回 概念学習
- 第13回 記憶と忘却
- 第14回 まとめ
- 第15回 予備日・試験日

【評価方法】

開講期間中数回の小テストを実施し評価する。進度等によって期末試験を課す。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

【参考文献・資料】

- Learning and behavior 4th ed.* (Chance, P. Brooks/Cole Publishing Company 1999)
- 現代学習心理学 (岩本隆茂・高橋憲男 川島書店 1983)
- 実験心理学 (大山正 (編) 東京大学出版会 1984)
- Psychology of learning and behavior 4th ed.* (Schwartz, B. & Robbins, S. J. W.W.Norton & Company 1995)
- グラフィック学習心理学 (山内光哉・春木豊 (編著) サイエンス社 2001)

発達障害学

渡邊一功

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

1年 後期 選択 2単位
3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害等の発達障害について学習し、それらの障害の発生原因、機序、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業の目標】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害等の発達障害の障害の発生原因、病態、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業計画】

- 第1回 発達障害とは
概念 原因
- 第2回 精神発達障害(1)
知的障害
- 第3回 精神発達障害(2)
コミュニケーション障害 学習障害
- 第4回 精神発達障害(3)
注意欠陥障害
- 第5回 精神発達障害(4)
広汎性発達障害
- 第6回 運動発達障害(1)
脳性麻痺
- 第7回 運動発達障害(2)
神経筋疾患
- 第8回 重症心身障害児
- 第9回 発達障害児の医療的ケア(1)
てんかん
- 第10回 発達障害児の医療的ケア(2)
呼吸障害 摂食障害
- 第11回 発達障害児の医療的ケア(3)
栄養障害 消化器疾患 睡眠障害
- 第12回 発達障害児の療育
- 第13回 発達障害児の教育
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

発達障害児の医療・療育・教育 (松本昭子・土橋圭子編 金芳堂 ISBN
コード: 4-7653-1063-9)

【参考文献・資料】

- 発達障害の基礎 (熊谷公明 栗田広編 日本文化科学社 1999)
- 発達障害の臨床 (熊谷公明 栗田広編 日本文化科学社 2000)

言語学

大澤聡子

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

1年 前期 必修 2単位
1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

言語を生物としてのヒトとの関係でとらえ、言語の単位と構造について理解する。語彙、形態論、統語論、意味論、音韻論、語用論について、基礎的理解を形成し、個別言語として日本語の構造と特徴について学ぶ。さらに、言語と社会、文化との関係についても学習する。

【授業の目標】

- 1 言語学の概要を理解する。
- 2 音韻論の基礎を理解し、日本語の音の構造を学習する。
- 3 形態論の基礎を理解し、日本語の語形成について学習し、さらに日本語の動詞の構造について学ぶ。
- 4 統語論の基礎を理解し、日本語の文の構造を学習する。また、日本語の統語的特徴を英語と比較しながら学ぶ。
- 5 意味論の基礎を理解し、日本語の語、句、文の意味について学習する。
- 6 語用論の基礎を理解する。

【授業計画】

- 1 言語と言語学
- 2 音韻論
 - 1) 音素
 - 2) 異音とそのメカニズム
 - 3) 日本語の音韻的特徴
- 3 形態論
 - 1) 形態素
 - 2) 異形態
 - 3) 語形成
 - 4) 日本語の動詞の活用について
- 4 統語論
 - 1) 句構造
 - 2) 句構造規則
 - 3) 日本語の統語的特徴
- 5 意味論
 - 1) 成分分析
 - 2) 意味関係
 - 3) 類義語、多義語、同音異義語
 - 4) 句の意味、文の意味
- 6 語用論

【評価方法】

出席状況、課題、期末試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】

よくわかる言語学入門 (町田健、初山洋介 著 バベル・プレス)

言語発達学

宮田 Susanne

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

言語発達を各発達段階における知能、認知、社会性、情緒、運動の各能力との関係においてとらえ、各発達段階における言語発達の内容を、音韻、構文、意味、語用などの言語学的視点から理解する。

【授業の目標】

健常児の言語発達の主な流れを学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。授業中、資料をプリントとして配り、理解を深めるための課題を与える。

- | | |
|----------|----------------------------|
| 第1回 | 初期の親子関係；子どもはなぜしゃべり出すか |
| 第2回 | 言語の特殊性：チンパンジーはなぜしゃべり出さないのか |
| 第3回 | 言語獲得の流れ：初めての発声から言語的音声へ |
| 第4回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期語彙 |
| 第5回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期文法 |
| 第6回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期会話 |
| 第7回 | マザリーズ：幼児に対する大人の言語行動 |
| 第8回-9回 | 主な言語獲得モデルの紹介 |
| 第10回 | 言語獲得データベースの紹介 |
| 第11回-12回 | 日本語の言語発達に関する最新研究の紹介 |
| 第13回 | 日本語獲得をどのように測定するか。主な測定法の紹介 |
| 第14回-15回 | まとめ |

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

子どもたちの言語獲得 (小林晴美・佐々木正人編 大修館書店)
よくわかる言語発達 (岩立志津夫・小椋たみ子編 ミネルヴァ書房)

音響学

城 哲哉

(言語聴覚学専攻) 2年 後期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超分節的要素の音響的特徴について学習する。

【授業の目標】

- 1 音声を音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
- 2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつか、具体的な音声分析を通して理解する。
- 3 学習した音響理論の知見が人間のコミュニケーションの再現性にどう応用されるか、音声合成や音声認識などの方法論を通して理解を深める。

【授業計画】

- 1 音声音響学の研究
 - 1) 音の物理的特性
 - 2) 音声生成の音響理論
 - 3) 信号処理と音響分析 (特にサウンドスペクトログラムを中心として)
- 2 音声の音響特性
 - 1) 現代日本語の母音・子音の音響特性
 - 2) リズム、イントネーションなどのプロソディの音響特性
 - 3) 音響構造変動の諸要因 (方言、年齢、男女差、個人差、文脈など)
- 3 音響学の応用的側面
 - 1) 音声合成の方法
 - 2) 音声認識の方法

【評価方法】

出席状況、レポート、筆記試験の成績を統合して評価する。

【テキスト】

テキストは特別に指定しません。こちらで準備した資料を配布します。

【参考文献・資料】

音入門—聴覚・音声科学のための音響学 (チャールズ・E. スピークス (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳))
音声の音響分析 (レイ・D. ケント、チャールズ リード (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳))
音声知覚の基礎 (ジャック ライアルズ (著)、今富 祺子、菅原 勉、荒井 隆行 (監訳))
音声・聴覚のための信号とシステム (スチュアート ローゼン、ピーターハウエル (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳))
言語聴覚士の音響学入門 (吉田友敬 (著))

以上の5冊すべて出版社は、海文堂です。

生理光学

平野耕治 鬢櫛一夫

オムニバス 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

レンズ、プリズムの特性の理解および眼球光学系の理解を通して、物理現象としての光学について学習する。

(平野耕治兼任講師) 屈折検査として、検影法の原理、オートレフラクトメータ、ケラトメータや角膜形状解析装置の機序を学び、眼鏡、コンタクトレンズ、眼内レンズの役割について学習する。

(鬢櫛一夫兼任講師) レンズ、プリズムの理解を深め、眼球光学系の特徴、生理機能、屈折異常等について理解し、調節、輻輳の機能について学ぶ。

【授業の目標】

1. 視覚にかかわる組織の基礎をふまえて、視力、視野、色覚など視機能の成り立ちを理解する。
2. 視機能を障害する疾患を理解する。
3. 視機能とQuality of Life (QOL)の関わりを理解する。
4. 患者の立場に立った医療の基本を理解する。

【授業計画】

講義方式による。適宜プリントを配布する。また、デジタルプレゼンテーションにより視覚的に内容が理解できるよう努める。

(鬢櫛一夫)

- 第1回 生理光学の歴史的展望
- 第2回 角膜およびレンズの役割と調節力
- 第3回 光学収差とプリズム視の視覚順応
- 第4回 網膜像の成立と両眼対応点の幾何学
- 第5回 両眼立体視と視野闘争

(平野耕治)

- 第6回 眼球の構造と屈折に関わる組織
- 第7回 近視・遠視・乱視・老視
- 第8回 屈折検査の原理と実際
- 第9回 角膜形状解析
- 第10回 屈折矯正方法 (眼鏡、コンタクトレンズ)
- 第11回 白内障手術と屈折矯正
- 第12回 角膜屈折矯正手術
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義への出席状況およびレポート、期末試験にて総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介する。

生理光学演習

川瀬芳克 田邊宗子 鬘柳一夫

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近な現象の中の光学に関するものについて、その意味を理解し、光の様々な性質を演習を通して理解する。また組み合わせレンズを用いて、眼光学系のシミュレーションを行い、網膜像や調節機能について学習するとともに、屈折異常およびその矯正レンズの役割について理解を深める。さらに、眼鏡レンズやプリズムレンズの種類と適応、日常時の調節と負荷調節の相違、加齢による調節の変化と適切な眼鏡の条件、ハードコンタクトレンズ、ソフトコンタクトレンズ、眼内レンズについて演習によって学習する。

【授業の目標】

1. 眼科検査に必要な幾何光学および眼光学を理解し、実際の屈折検査に応用する。
2. コンタクトレンズの取り扱い方法を理解し、手技を習得する。
3. 両眼視の理論的背景を理解するとともにその見え方を体験する。

【授業計画】

- 第1回 光の性質、屈折・反射の法則
- 第2回 レンズの種類と結像、自動屈折計による屈折測定の実習
- 第3回 自動屈折計による屈折矯正の実習
- 第4回 レンズ交換法の原理と実習
- 第5回 検影法による屈折値表示と矯正レンズおよびレンズメーターの実際
- 第6回 コンタクトレンズ1 コンタクトレンズの歴史 オフサルモメーターの実習
- 第7回 コンタクトレンズ2 ハードコンタクトレンズのフィッティング
- 第8回 コンタクトレンズ3 ハードコンタクトレンズのフィッティングと矯正
- 第9回 調節検査 近点計検査 石原式近点計を用いて
- 第10回 視野の検査
- 第11回 眼球運動の検査
- 第12回 両眼立体視の検査
- 第13回 日常両眼視の検査
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。ただし、演習を伴うので出欠席も重視する。期間中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 視能矯正学（丸尾敏夫・粟屋忍）
眼科検査メモ（澤田惇・千原悦夫・吉田晃敏）

視覚生理学

大庭紀雄 川瀬芳克

オムニバス 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視機能が成立する生理学的メカニズムについて学習する。
（大庭紀雄教授）視機能が成立するためにどのようなメカニズムが働いているのか、視覚入力統合において視器の各部分の活動で、光学的画像が神経信号に変換されて認識されてゆく機構を学ぶ。また、眼球はどのようにして動くのか、どのようにコントロールされて両眼が共同してスムーズに動くのか、眼球運動のメカニズムについても学習する。

（川瀬芳克教授）自覚的視機能検査である、光覚、色覚、形態覚、視野について、その検査法の適用と限界について学び、他覚的視機能検査である電気生理検査、視覚誘発電位（VEP、VECP）、網膜電図（ERG）、眼球電位図（EOG）、視運動性眼振（OKN）、Sclera Search Coil、光電素子法（p-EOG）、筋電図（EMG）について学ぶ。

【授業の目標】

1. 正常な視覚および視機能の基本を理解する。
2. 各種視力と視角の関係を理解し、視力値の数的処理を可能にする。

【授業計画】

（大庭紀雄教授）
講義方式による。プリントの配布、模型や機器の供覧、理解度把握のためのミニテストを行う。

- 第1回 視覚系総論：視覚系の構造機能特性、視覚刺激（インプット）と視覚応答（アウトプット）
- 第2回 眼光学：結像光学特性、屈折・調節・瞳孔
- 第3回 生理光学：視力（空間周波数・時間周波数特性）・光覚・暗順応・色覚・視野
- 第4回 網膜・視路：構造と神経生理機構
- 第5回 眼球運動、両眼視：眼球運動の成立・制御、眼位・両眼視機能の成立・制御
- 第6回 眼の植物生理：視覚維持に必要な透明性維持・循環・代謝・眼圧、自律神経

（川瀬芳克教授）

- 第7回 調節と屈折：屈折の基本とその矯正
- 第8回 視力の概念：視角との関係をもとにした各種の視力値の特性
- 第9回 対数視力とその意義：対数視力の概念と計算およびグラフ表示の実際
- 第10回 logMAR視力とその意義：logMAR視力の概念と計算およびグラフ表示の実際
- 第11回 視野の概念と検査法：量的視野の概念および動的視野検査法および静的視野検査法
- 第12回 光覚とその検査法：正常な暗順応過程および検査法
- 第13回 電気生理検査法：ERG、VEP、EOGの概念
- 第14回 色覚の学説と色覚異常：三原色説と反対色説。先天性色覚異常の分類と特性
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 授業の最初にプレテストを行って、学生がどの程度の知識をもっているかを測定する。
2. 授業の中間にミニテストを適宜おこなって、学生の理解度を測定する。
以上は形成的な評価として教員と学生との相互利便をはかる目的で行うもので評価の参考資料とする。単位認定に際しては、おもに期末試験（筆記試験）により評価する。レポートを提出させた場合はこれも評価に反映させる。

【テキスト】

視能矯正学（丸尾敏夫他編 金原出版）

【参考文献・資料】

- 視覚の心理学（鳥居修晃著 サイエンス社）
脳と視覚グレイゴリーの視覚心理学（リチャード・レ・グレイゴリー著 プレーン出版）
動物は世界をどう見るか（鈴木光太郎著 新曜社）

視覚生理学演習

古賀一男 高橋伸子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視機能が成立するためにはどのようなメカニズムが働いているのか、視覚器官の各部位の活動で、光学的画像が視覚として認識されてゆく機構を演習形式で学習する。また、診療に使用される機器を実際に使用して、操作に習熟する。さらに、両眼の運動がコントロールされて共同してスムーズに動くメカニズムについても、演習を通してさらに理解を深める。また、「視覚生理学」で学んだ事項を学生同士で、検査者、被検査者となり、それぞれの検査法の実際について、実践的に学習し、理解を深める。

【授業の目標】

この授業では眼球運動に関する生理学的・行動科学の基礎を学び、それがどのように現場で応用されるかということについて例示をおこなうことで、視覚生理学の基礎について学習することを目標とする。

【授業計画】

1. 眼球運動に関する生理学的基礎
2. 網膜感度分布の視野計による測定
3. 眼球運動の生理
4. 眼球運動の記録と測定
5. 校正 (calibration) と計測データの処理
6. 視機能検査の実際

【評価方法】

出席、期末試験

【テキスト】

眼球運動実験ミニハンドブック (古賀一男著 労働科学研究所出版部 1900円)

【参考文献・資料】

眼の事典 (岩田誠他編 朝倉書店 20000円)
視覚情報処理ハンドブック (日本視覚学会編 朝倉書店 28000円)
眼球運動の実験心理学 (宇坂良二他編 名古屋大学出版会 6500円)
知覚の可塑性と行動適応 (牧野達郎編 プレーン出版 6800円)
新編・感覚・知覚ハンドブック (大山正編 誠心書房)

病理学

今井昌雄

(言語聴覚学専攻)

1年 後期 必修 2単位

(視覚科学専攻)

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

病気の基本パターンを学び、病気の成り立ちと変化の一般的な特徴を理解する。

【授業の目標】

病理学総論では、炎症、腫瘍、循環障害といった病気の基本概念を正しく理解し、病理学各論では、各臓器や器官系ごとの病態について理解し、臨床医学との関連についても理解を深める。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 病理総論-1: 病理学とは、細胞・組織障害、再生と修復
- 第2回 病理総論-2: 循環障害、炎症
- 第3回 病理総論-3: 免疫とアレルギー、代謝異常
- 第4回 病理総論-4: 老化と老人病、新生児の病理、先天異常
- 第5回 病理総論-5: 腫瘍
- 第6回 病理各論-1: 循環器系、呼吸器系
- 第7回 病理各論-2: 歯・口腔系、消化器系
- 第8回 病理各論-3: 内分泌器系、造血器系
- 第9回 病理各論-4: 腎・尿路系、生殖器系
- 第10回 病理各論-5: 脳神経系
- 第11回 病理各論-6: 運動器系
- 第12回 病理各論-7: 感覚器系
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験および期間中のレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

カラーで学べる病理学 (渡辺照男編集、NOUVELLE HIROKAWA)

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜配布、指導する。

解剖学

今井昌雄

(言語聴覚学専攻) 1年 前期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

系統解剖学的に体壁系と内臓系の2大系統について、それぞれの構成する器官系、器官、組織の形態・構造の特徴、局所的・機能的関連について発生の学的視点を加えつつ理解するとともに、生体の正常な機能を理解するために、神経や筋の働きを理解し、末梢・中枢シナプスにおける情報伝達、中枢神経系の反射および総合機能について学ぶ。

【授業の目標】

人体のかたち、構造を正しく理解する。又、人体の構造の基本を理解することにより、人体の機能や病態を正しく理解するための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 生命とは
- 第2回 生体の防御機構
- 第3回 循環器系
- 第4回 神経系
- 第5回 内分泌系
- 第6回 運動器系
- 第7回 呼吸器系
- 第8回 消化器系
- 第9回 腎・尿路系
- 第10回 生殖器系
- 第11回 予備
- 第12回 予備
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験および期間中のレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

コアテキスト1. 人体の構造と機能 (下正宗他編集、医学書院)

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜配布、指導する。

脳波学・画像診断学

時々輪浩穂

(言語聴覚学専攻) 3年 後期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

脳波の生理学的基礎を理解し、さらに広く大脳皮質における高次機能の局在について学ぶ。また、疾病の診断として、MRI、CT、超音波などの画像診断検査とその適用について学ぶ。

【授業の目標】

各種疾病がどのようにして診断されるかを理解する。

- 1 診断を確定するために必要な検査方法の種類を知る。
- 2 それぞれの疾病に最適な検査法やそれらの実施順序を理解する。
- 3 各種検査方法の評価や考慮すべき問題点を理解する。

【授業計画】

- 1 脳波検査の実際を知る。
- 2 脳波の発生機構について理解する。
- 3 脳波の動態を生理学的な視点から把握する。
- 4 各疾病にそれぞれ特有な脳波所見とその発生機構を知る。
- 5 最近のエレクトロニクスの進展を活用した高度な診断法を概観する。
- 6 超音波検査、CT、MRI、PET、SPECT、シンチスキャンなどコンピュータを駆使した画像診断の原理と活用方法を理解する。

【評価方法】

期末試験(筆記)により評価する。(出欠席を調査する。欠席が多い場合は受験資格を失う。)

【テキスト】

脳波の旅への誘い(市川忠彦著 星和書店)

画像診断全科100疾患(大井静雄編 エキスパートナーズ MOOK 35 照林社)

【参考文献・資料】

授業時に紹介する

先天障害学

多田萬里子 野上 宏 山中 島

オムニバス 1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

人類遺伝学の基礎を学び、染色体異常、突然変異遺伝子によって発症する遺伝性疾患を理解する。

(多田萬里子教授) ヒトの遺伝性疾患について遺伝のパターン、疾患の原因となっている遺伝子の同定と変異、遺伝子診断などについて学び、ヒトゲノム解読の医療への貢献について考察する。

(山中島兼任講師) 染色体異常、遺伝子の異常によって起きる先天性代謝異常や奇形について理解し、主に頭部顔面の病変について学ぶ。また、遺伝性疾患のスクリーニングとカウンセリングについての理解を高める。

【授業の目標】

遺伝学の基礎を学び、いろいろな遺伝性の疾患についての理解を高める。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 遺伝学研究の流れ、メンデルからゲノム医学へ
- 第2回 分子遺伝学 ゲノム・遺伝子・DNA
- 第3回 遺伝子の研究法、遺伝子診断
- 第4回 遺伝性疾患、遺伝のパターン、疾患の原因遺伝子
- 第5回 多因子病、生活習慣病と遺伝子
- 第6回 ヒトゲノム計画とその成果
- 第7回 奇形学の基本的な理解
- 第8回 染色体異常
- 第9回 胎生環境と形態異常
- 第10回 骨格の先天異常(骨系統疾患)
- 第11回 奇形症候群について
- 第12回 奇形と遺伝カウンセリング
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 まとめ3

【評価方法】

おもに筆記試験により評価する。(毎回出席調査をし、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期間中にレポート提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

授業時 資料を配布する

【参考文献・資料】

ヒトの遺伝学 (エドリン著 清水信義監訳 東京化学同人)
新先天奇形症候群アトラス (梶井正他編集 南江堂)

内科学

大野竜三

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

内科学の位置づけ、内科疾患の原因論とその学問的発展について理解し、臨床上重要な症候群について学ぶ。さらに各論として主要疾患を取り上げ、それらの病態、症状、治療および予後について学習する。

【授業の目標】

体のしくみと機能、また病気の原因となる遺伝子異常を理解する基礎として遺伝子やDNAについて学ぶ。医療福祉関係者として知っておくべき、よくみられる病気や、もっと詳しく知りたい病気やトピックスについても学生の希望に応じて取り上げる。講義ではイラストや写真などを用いて、誰もが理解しやすいようわかりやすく解説する。また、学生が主体的に学習できるよう、自主的に学習し発表する形式も採る。

【授業計画】

- 第1回 マクロな体のしくみ(臓器の種類と機能など)
- 第2回 ミクロな体のしくみ(細胞、遺伝子、DNAなど)
- 第3回 生きてゆくための体の機能(血液、血圧、ホルモン、免疫など)
- 第4回 よくみられる心臓の病気(高血圧、動脈硬化、狭心症、心筋梗塞など)
- 第5回 よくみられる呼吸器の病気(風邪、インフルエンザ、花粉症、喘息、肺炎など)
- 第6回 よくみられる胃腸の病気(胃痛、下痢、胃潰瘍、大腸炎、がんなど)
- 第7回 よく見られる肝臓の病気(黄疸、A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、肝臓がんなど)
- 第8回 よくみられる血液の病気(貧血、白血病、悪性リンパ腫など)
- 第9回 糖尿病(症状、診断、治療など)
- 第10回 がん(発生のメカニズム、診断、治療など)
- 第11回 感染症(細菌、真菌、ウイルス、MRSA、SARS、エイズなど)
- 第12回 生活習慣病(種類、予防法など)
- 第13回 もっと詳しく知りたい病気I(学生からのリクエストにより選び、学生が発表する)
- 第14回 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業への参画姿勢、多肢選択筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

初回にプリントを配布する。

小児科学

渡邊一功

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

3年 前期 選択 2単位
2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。小児の視聴器の形態的および機能的発達について理解し、眼科疾患・言語聴覚疾患の特徴、治療法の簡単なアウトラインを学び、小児眼科検査法についても理解を深める。さらに、重度視力障害児、重度聴覚障害児のリハビリテーションについても学ぶ。

【授業の目標】

小児の成長発達、保健、小児疾患の原因、病態、治療について理解する。

【授業計画】

- 第1回 小児の成長と発達
- 第2回 小児の栄養
- 第3回 小児の生活と保健
- 第4回 出生前小児科学
- 第5回 新生児疾患
- 第6回 代謝・内分泌・栄養性疾患
- 第7回 消火器・循環器疾患
- 第8回 感染症・呼吸器疾患
- 第9回 血液疾患・腫瘍
- 第10回 アレルギー疾患・膠原病
- 第11回 神経疾患・筋疾患・心身症
- 第12回 泌尿器疾患・寄生虫疾患・事故
- 第13回 看護と救急処置
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

最新育児小児病学、改訂第4版、南江堂 (ISBN 4-524-21682-0)

【参考文献・資料】

- 小児科学 改訂第9版 (五十嵐隆編集 文光堂 2004)
小児科学 第2版 (白木和夫 前川喜平監修/伊藤克己[ほか]編集 医学書院 2002)

形成外科学

大久保文雄

2年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

創傷治癒と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

- 1 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 2 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 3 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患 (頭頸部腫瘍を中心に) を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

- 1 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 3) 創傷治癒と組織移植
- 2 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
- 3 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定無し

臨床神経学

岡田 久

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚・聴覚、言語の了解や発語、身体運動・感覚などの脳・神経機能の基礎を学び、脳・神経系の主要症候、疾患について、病状、発現機序、病因、検査法および治療について学ぶ。

【授業の目標】

- 1 臨床神経学の概要を理解する。
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の解剖・機能および、検査・評価法について理解する。
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候を理解する。
- 4 言語および視覚機能に関連した脳・神経系の主要疾患および医療現場で知っておくべき脳・神経系疾患の病状、発現機序、病因、Evidence Based Medicine(EBM)に基づく治療について理解する。

【授業計画】

- 1 言語および視覚機能を中心とした脳・神経機能の基礎
 - 1) 脳・神経系の解剖
 - 2) 脳・神経系の機能
 - 3) 脳・神経系の検査・評価法
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候
 - 1) 意識障害・精神症状・知能障害・睡眠障害
 - 2) 失語・失音症
 - 3) 失行・失認
 - 4) 構音障害・嚥下障害
 - 5) 眼球運動障害・眼振・瞳孔異常・視野障害・眼瞼異常
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要疾患－病状・発現機序・病因・治療－
 - 1) 脳血管障害
 - 2) 認知症・変性疾患
 - 3) 感染症・中毒・腫瘍
 - 4) 発作性疾患
 - 5) 脊髄・末梢神経・筋疾患
 - 6) 炎症性疾患・脱髄疾患
 - 7) 遺伝性疾患・代謝性疾患・内科疾患などに伴う神経疾患

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。
(出席評価は講義中の携帯メール送信または講義終了時の出席調査票提出のどちらか)

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。講義で使用したスライド・資料などは、適宜インターネット上で閲覧可能とする。

リハビリテーション医学

大庭紀雄 川瀬芳克 澤田泰洋 鈴木朋子

千鳥司浩 丹羽英人 橋詰玉枝子

(言語聴覚学専攻)

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

(視覚科学専攻)

オムニバス 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視聴覚系の諸障害に対するリハビリテーションの医学的位置づけや具体的な訓練方法、その効果について学習する。

(大庭紀雄教授) 視覚系の代表的な疾患や外傷について、その障害に関する生理学的機序、運動学的機序、高次脳機能学的機序などについて学習する。

(川瀬芳克教授) 視能訓練士のリハビリテーション医学における位置づけを理解するとともに、他職種とのチームアプローチについて理解を深める。

(鈴木朋子助教授) 言語聴覚士のリハビリテーション医学における位置づけを理解するとともに、他職種とのチームアプローチ、障害学、診断学、治療学について理解を深める。

(丹羽英人教授) 聴覚系、発語系の代表的な疾患や外傷について、その障害に関する生理学的機序、運動学的機序、高次脳機能学的機序などについて学習する。

【授業の目標】

視覚障害、聴覚障害、音声・言語障害、他の身体的障害の成因やメカニズムについて医学の見地から理解し、それらの治療及びリハビリテーションの方法を学習する。

【授業計画】

1. 視覚系のリハビリテーション
2. リハビリテーション医学と視能訓練士
3. 聴覚系と発語系のリハビリテーション
4. リハビリテーション医学と言語聴覚士
5. リハビリテーション医学とリハビリテーション科医
6. リハビリテーション医学と理学療法士
7. リハビリテーション医学と作業療法士

【評価方法】

視聴覚系の諸障害に対するリハビリテーションの医学的位置づけや具体的な訓練方法、期待される効果について十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

臨床歯科医学・口腔外科学

古川博雄

(言語聴覚学専攻) 1年 後期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

歯、歯周組織の発生、構造、機能、疾患と、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能と疾患について学ぶ。また、言語障害と関係のある、種々の口腔機能障害についても学習する。

【授業の目標】

1. 歯・口腔・顎・顔面部に発症する疾患の病状、治療の概要を理解する。
2. それらによって引き起こされる構音を中心とした口腔機能障害についても理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- 第1回 歯科医学の歴史と重要性
- 第2回 歯・歯周組織
- 第3回 口腔ケア
- 第4回 口腔外科学の歴史と重要性
- 第5回 口腔・顎・顔面
- 第6回 顎関節
- 第7回 唾液腺
- 第8回 言語障害と関係ある疾患
- 第9回 言語、咀嚼、摂食障害に対しての歯科医学的治療法
- 第10回 歯・口腔・顎・顔面の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損
- 第11回 中枢性疾患による口腔機能障害
- 第12回 加齢による口腔機能障害
- 第13回 歯科臨床各科の諸業務
- 第14回 言語聴覚士と歯科医師のチームアプローチの重要性
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学（医学書院）

【参考文献・資料】

標準口腔外科学 第3版（野間弘康・瀬戸院一 医学書院）
看護のための最新医学講座 第23巻 歯科口腔系疾患（山本悦秀 中山書店）

耳鼻咽喉科学

丹羽英人

(言語聴覚学専攻) 1年 前期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、咽頭科学、気管・食道科学について、構造、機能、疾患などについて学ぶ。

【授業の目標】

耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域の疾患の病態を理解し診断方法や治療方法を知る。

【授業計画】

- 第1回 耳科領域の解剖、生理（1）
- 第2回 耳科領域の解剖、生理（2）
- 第3回 鼻科領域の解剖、生理
- 第4回 咽頭、喉頭科領域の解剖、生理
- 第5回 頭頸部領域の解剖、生理
- 第6回 耳科領域の症候学
- 第7回 鼻科領域の症候学
- 第8回 咽頭喉頭の症候学
- 第9回 耳科領域の疾患の診断学
- 第10回 鼻科領域の疾患の診断学
- 第11回 咽頭喉頭領域の疾患の診断学
- 第12回 頭頸部外科の診断学
- 第13回 耳科領域の疾患の治療
- 第14回 鼻科領域の疾患の治療
- 第15回 咽頭喉頭領域の疾患の治療

【評価方法】

期末試験の成績

【テキスト】

授業の始めに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

音声言語医学

丹羽英人

(言語聴覚学専攻) 1年 後期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

呼吸・発声・発声器官の各々について、その構造、機能、病態を学び、発声障害、構音障害および摂食・嚥下障害との関連について学ぶ。

【授業の目標】

発声・発語に関与する器官の解剖、生理を理解する。それに基付いて発声障害や発語障害のメカニズムを考え、臨床応用ができる様にする。

【授業計画】

- 第1回 発声器官—喉頭の解剖
- 第2回 発声器官—喉頭の生理
- 第3回 発声器官—発声機構
- 第4回 音声言語器官の局所解剖 (1)
- 第5回 音声言語器官の局所解剖 (2)
- 第6回 音声言語器官の生理学 (1)
- 第7回 音声言語器官の生理学 (2)
- 第8回 音声言語中枢の解剖
- 第9回 音声言語中枢の生理学的機構
- 第10回 構音機構と言語
- 第11回 食道の解剖
- 第12回 食道の生理学 (1)
- 第13回 食道の生理学 (2)
- 第14回 発声障害と嚥下障害の概論
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義の後に筆記試験

【テキスト】

授業時にプリントを配布

【参考文献・資料】

講義の中で推薦

聴覚医学

丹羽英人

(言語聴覚学専攻) 1年 前期 必修 2単位
(視覚科学専攻) 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

聴覚系の構造、機能、検査、病態について、聴覚医学的視点から理解を深める。

【授業の目標】

聴覚の生理学を理解し、それに基付いて各種の検査方法を理解し、実際の操作を行うことができるようになる。

【授業計画】

- 第1回 聴覚系の局所解剖
- 第2回 聴覚系の生理学
- 第3回 聴覚障害—伝音系
- 第4回 聴覚障害—感音系
- 第5回 聴覚障害—後迷路系
- 第6回 音響心理学
- 第7回 オーディオメーター
- 第8回 純音聴力検査、マスキング
- 第9回 語音聴力検査
- 第10回 インピーダンスオーディオメトリー
- 第11回 選別聴力検査
- 第12回 他覚的聴覚機能検査
- 第13回 乳幼児聴力検査
- 第14回 後迷路障害の検査、機能性難聴の検査
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義終了後の筆記試験

【テキスト】

聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集 南山堂)
授業毎にプリントを配布。

【参考文献・資料】

講義の中で推薦。

神経系の解剖・生理・病理

渡邊一功

(言語聴覚学専攻) 1年 後期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

感覚の認知や統合、判断およびそれに対する反応と中枢神経系の働きとの関係について深く理解し、身体全体における神経系の位置づけを正しく把握し、構成要素を確認したうえで、それぞれの機能を果たすニューロンの部位と連鎖関係を理解する。

【授業の目標】

神経系の構造、機能、病的状態についての基本的知識を体得する。

【授業計画】

- 第1回 神経解剖学の基礎的事項
- 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
- 第3回 随意運動のための神経伝導路
- 第4回 大脳皮質下の運動中枢
- 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
- 第6回 自律神経系、視床下部
- 第7回 脳神経
- 第8回 聴覚伝導路
- 第9回 視覚伝導路と視覚反射
- 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
- 第11回 大脳皮質
- 第12回 髄膜、脳室系、脳血管支配
- 第13回 中枢神経系の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

リープマン神経解剖学、第2版(山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

【参考文献・資料】

ハインズ神経解剖学アトラス 第2版(Duane E.Haines[著]/山内昭雄訳
メディカル・サイエンス・インターナショナル 2000)
カラー図解神経の解剖と生理(Ben Greenstein Adam Greenstein[著]/
大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2001)
神経病理を学ぶ人のために 第4版(平野朝雄 富安斉著 医学書院
2003)

神経眼科学

大庭紀雄

(言語聴覚学専攻) 2年 前期 選択 2単位
(視覚科学専攻) 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

神経眼科に関係する視覚路の解剖とその生理および臨床を学習する。神経眼科各論として、視神経疾患、視中枢疾患、視覚連合野疾患、それらに見られる視野障害と検査法、頭蓋内疾患と眼球運動障害、瞳孔異常、眼窩内疾患について学習する。

【授業の目標】

1. 眼球や視路における神経の解剖や機能について説明することができる。
2. 眼球や視路の疾病と神経との関係を説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 神経眼科学の医学における位置づけ
- 第2回 瞳孔の解剖と生理
- 第3回 瞳孔の検査法、瞳孔の病理
- 第4回 視神経の解剖・生理・病理
- 第5回 視交叉部とその近傍の解剖・生理・病理
- 第6回 外側膝状体、視放線、視覚皮質の解剖・生理・病理
- 第7回 視覚連合野の解剖・生理・病理
- 第8回 視覚系異常の検査と治療
- 第9回 眼球運動系の解剖・生理・病理
- 第10回 眼球運動系の異常 1. 外眼筋障害、末梢神経障害
- 第11回 眼球運動系の異常 2. 核上性眼球運動障害
- 第12回 全身疾患と神経眼科
- 第13回 心因性視覚障害
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

神経眼科学のあらましについて十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

視能学(丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

適宜指示する。

神経眼科学演習

大庭紀雄 田邊宗子

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

2年 後期 選択 2単位
2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「神経眼科学」の学習内容をベースに、様々な視野検査の手法、EOGや角膜サーチコイルを用いた眼球運動検査法、赤外線電子瞳孔計を用いた瞳孔検査法などの技能を習得する。

【授業の目標】

視能訓練士としての業務に必要な神経眼科領域の検査法や関連した疾病について学習し、実施にも応用できる知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 瞳孔の神経眼科学的検査
- 第2回 屈折・調節の神経眼科学的検査
- 第3回 視野検査 1. 動的視野検査
- 第4回 視野検査 2. 静的視野検査
- 第5回 フリッカー融合頻度測定検査
- 第6回 網膜電図検査
- 第7回 眼電位図検査
- 第8回 視覚誘発反応検査
- 第9回 眼球運動検査 1
- 第10回 眼球運動検査 2
- 第11回 眼部写真撮影検査 1. 角膜内皮細胞、前眼部
- 第12回 眼部写真撮影検査 2. 眼底、超音波
- 第13回 眼窩・視路画像検査
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

神経眼科学の検査について理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

眼疾病学

大庭紀雄

(言語聴覚学専攻)
(視覚科学専攻)

1年 後期 選択 2単位
1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視器の解剖学、生理学、生化学的知識を基礎とし、臨床上重要な眼疾患の病態を把握し、その検査法、治療法の概要について理解を深める。

【授業の目標】

視能学、視能矯正学、視能訓練学、視能検査学などの学習に必要な眼の疾病に関する幅広い知識、視能訓練士としての資格取得のために必要な眼の疾病に関する幅広い知識、専門職業人としての実践に必要な眼の疾病に関する幅広い知識を学習する。

【授業計画】

講義方式による。視能矯正や視能訓練に必要な眼疾患の成因・検査・治療を網羅するとともに、視覚の発達期や加齢期にみられる重要な疾病を重点的に講義する。

- 第1回 視機能障害1. 視力異常・屈折調節異常
- 第2回 視機能障害2. 視野異常
- 第3回 視機能障害3. 色覚異常・暗順応異常・両眼視異常
- 第4回 外眼部疾患・前眼部疾患・透光体疾患
- 第5回 網膜脈絡膜疾患
- 第6回 視神経疾患・視路疾患
- 第7回 小児眼疾患（先天異常、遺伝病）
- 第8回 加齢眼疾患（白内障、緑内障、加齢黄斑変性、網膜剥離）
- 第9回 全身疾患：糖尿病、高血圧
- 第10回 神経眼科疾患
- 第11回 プライマリケア
- 第12回 外傷、救急疾患
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 まとめ3

【評価方法】

形成的評価：簡単なプリテスト、ミニテストを随時行う。

授業終了後には、眼疾患についての一般的知識、ありふれた疾患についての診断法と治療法のあらし、小児や高齢者の眼疾患の特徴などについて理解度を測定する。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫、他編集、文光堂）
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

眼科薬理学

大庭紀雄

(言語聴覚学専攻)	2年 前期 選択 2単位
(視覚科学専攻)	2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

眼科の診断、治療に用いられる薬物について、一般眼科診療で用いる点眼薬、内服薬、縮瞳薬、散瞳薬および自律神経薬による点眼試験について学習する。さらに、麻酔薬、視能矯正に用いる薬物について、一般的使用注意事項と点眼薬、内服薬についても学習する。

【授業の目標】

1. 眼の検査に用いる主要な薬物について理解し説明することができる。
2. 眼疾病の治療に用いる主要な薬物について理解し説明することができる。
3. 眼の検査や疾病の治療に用いる薬剤を使用する場合に留意すべきことを理解し説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 瞳孔薬 (自律神経薬)
- 第2回 屈折・調節検査と薬剤 (自律神経薬)
- 第3回 眼圧下降薬 (自律神経薬)
- 第4回 抗菌薬、抗ウイルス薬
- 第5回 副腎皮質ステロイド薬
- 第6回 非ステロイド系抗炎症薬
- 第7回 抗アレルギー薬
- 第8回 代謝拮抗薬、免疫抑制薬
- 第9回 検査用薬剤、麻酔薬
- 第10回 眼と投薬 1. 局所投与 (点眼、局所注射)
- 第11回 眼と投薬 2. 全身投与
- 第12回 薬剤の副作用、有害効果
- 第13回 薬効評価
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

眼の薬理学や主要な薬剤について十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

授業の際、適宜指示する。

ロービジョン医学

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

オムニバス 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロービジョンの視覚科学的特性、心理社会的側面、および、その評価方法、援助方法について学ぶ。

(大庭紀雄教授) 高齢者と小児におけるロービジョンの病態の違い、ロービジョンの評価法や病歴の聴取法について学ぶ。

(川嶋英嗣助教授) ロービジョンの定義や心理社会的側面、視覚特性について理解し、日常生活の行動にその視覚特性がどのように影響しているかについて理解を深める。

(川瀬芳克教授) 光学的・非光学的補装具の選定や遠方視・近方視訓練のテクニックの実際について習得する。また、チーム治療の必要性や、視機能以外の評価法および視覚以外の感覚を利用したリハビリテーションの実際についても習得する。

ロービジョン医学演習

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「ロービジョン医学」での学習内容を踏まえ、各種補装具の選定、取り扱い、遠方・近方視訓練やロービジョンに関わるリハビリテーションの実際を学習する。

音声学・音韻論

出嶋真由美

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

母音、各種子音について、構音（調音）的特徴や音節、プロソディ（韻律的特長）、日本語の音声の種類と特徴について学習する。また、言語音声の基底にある規則とその表示原則について日本語および他の言語の音韻体系を通して学習する。

【授業の目標】

- 1 音声学・音韻論の概要を理解する
- 2 日本語音声の調音のしくみを理解する
- 3 日本語音声の音韻体系を理解する

【授業計画】

- 1 音声学・音韻論の役割
- 2 音声器官の構造と機能
- 3 子音の分類・母音の分類
- 4 日本語の音声1
- 5 日本語の音声2
- 6 音声の有標性
- 7 音声学まとめ
- 8 日本語の音声と音素1
- 9 日本語の音声と音素2
- 10 音節とモーラ
- 11 アクセント
- 12 イントネーション・プロミネンス等
- 13 音韻論まとめ
- 14 全体のまとめ・復習
- 15 学期末試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

形態論・統語論

出嶋真由美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

語の単位である語彙の特質と、語の結合による文や句の機能および構造の規則について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。必要に応じて、代表的な文法理論についても学習する。

【授業の目標】

- 1 形態論・統語論の概要を理解する
- 2 日本語の言語事実と理論的分析を与える
- 3 言語の理論的分析の意義を理解する

【授業計画】

- 1 言語の構造（形態論・統語論の役割）
- 2 言語学概論
- 3 形態論1形態素
- 4 形態論2形態素の結び付き、異形態
- 5 形態論3形態素分析
- 6 形態論4日本語の語形成
- 7 形態論5語の構造
- 8 形態論まとめ
- 9 統語論1文の構造・生成文法理論について
- 10 統語論2句構造規則
- 11 統語論3日本語の統語分析1
- 12 統語論4日本語の統語分析2
- 13 統語論5言語の個別性と普遍性について
- 14 補足・復習・全体のまとめ
- 15 期末試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

【授業の概要】

記号や言語表現が指し示すものの意味と言語表現とその使用者の関係やコミュニケーション機能について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。

【授業の目標】

1. 言葉の意味の基本的な問題を理解する。
2. コミュニケーションの場での文の意味を考える。

【授業計画】

- 第1回 意味とは
- 第2回 意味の種類
- 第3回 意味と指示
- 第4回 語の意味分析(1)
- 第5回 語の意味分析(2)
- 第6回 意味の場
- 第7回 コミュニケーションの場での文の意味(1)
- 第8回 コミュニケーションの場での文の意味(2)
- 第9回 発話行為(1)
- 第10回 発話行為(2)
- 第11回 会話の含意
- 第12回 日英語の丁寧表現(1)
- 第13回 日英語の丁寧表現(2)
- 第14回 日英語のぼかし言葉
- 第15回 期末試験

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

- 英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (池上嘉彦ほか著 大修館書店)
- 語の意味と意味役割 (米山三明・加賀信宏著 研究社)
- 発話行為 (山梨正明著 大修館書店)

【授業の概要】

言葉の獲得と障害、障害児の発達援助の問題について、特に、コミュニケーションにおける言語機能の側面から理解を深める。

【授業の目標】

言語とその背景にある人間の発達、社会、心理に対する理解を深める。

【授業計画】

- 第1-3回 母語獲得と第2言語習得の差と共通点
- 第4-6回 チンパンジー、原人とホモサピエンス：言語の起源
- 第7回 チンパンジーの認知能力
- 第8-10回 野生児と臨界期
- 第11-13回 脳の発達、臨界期とFoxP2
- 第14回 個人の言語発達と言語の起源
- 第15回 まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業内で指定

神経言語学

吉田 敬

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

言語活動と高次脳機能との関連について、神経科学的側面から理解する。高次脳機能障害を背景とする言語聴覚障害の種類、発現メカニズム、評価法などについて学ぶ。

【授業の目標】

言語学の各領域と脳内の言語処理活動、およびコミュニケーション障害との関連について理解する。

【授業計画】

1. 神経言語学の概要、研究目的
2. 神経言語学の研究方法
3. 音声学、音韻論の観点から見たコミュニケーション障害
4. 形態論、統語論の観点から見たコミュニケーション障害
5. 意味論、語用論、談話研究の観点から見たコミュニケーション障害
6. 神経言語学と脳のイメージング研究

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚障害学

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 吉田 敬

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害をもつ患者から得られた観察資料および検査結果をもとに、障害構造の把握法とアプローチ決定の方策について学習する。

【授業の目標】

1. さまざまな言語聴覚障害について知識を習得する。
2. 障害の構造を科学的に把握する方法を学ぶ。
3. 各障害への基本的アプローチを知る。

【授業計画】

講義方式による。

- 第1回 人間のコミュニケーションの特徴
- 第2回 言語聴覚障害の捉え方
- 第3回 自閉症
- 第4回 知的障害
- 第5回 構音障害
- 第6回 構音障害
- 第7回 構音障害
- 第8回 聴覚障害
- 第9回 聴覚障害
- 第10回 聴覚障害
- 第11回 失語症
- 第12回 失語症
- 第13回 高次神経機能障害
- 第14回 家族への支援
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

言語聴覚診断学

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作 吉田 敬

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害について、評価、診断の基礎的理念、聴覚機能、発達、言語機能、音声機能、摂食嚥下機能の各検査について学習する。

【授業の目標】

言語聴覚障害を評価・診断する意味と方法論を理解する。
各障害別に評価法・診断基準を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語聴覚障害の臨床の流れ
- 第2回 評価・診断の基礎的理念
- 第3回 面接法
- 第4回 評価法
- 第5回 記録法
- 第6回 発声・発語器官の形態と機能の評価と障害の診断
- 第7回 構音の評価と障害の診断
- 第8回 言語発達の評価と障害の診断 1
- 第9回 言語発達の評価と障害の診断 2
- 第10回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 1
- 第11回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 2
- 第12回 小児の聴覚評価と障害の診断
- 第13回 成人の聴覚評価と障害の診断
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席・小テスト・レポート・期末試験

【テキスト】

新版 言語治療マニュアル（伊藤元信、笹沼澄子編 医歯薬出版 2002）

失語症Ⅰ

吉田 敬

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症を理解するために必要な基礎的な神経学的知識を踏まえた上で、失語症研究の歴史、失語の症状、失語症のタイプについて学習する。

【授業の目標】

1. 成人における他のコミュニケーション障害と失語症の違いについて理解する。
2. 失語の症状を理解する。
3. 失語症の下位タイプを理解する。
4. 失語症研究の歴史を理解する。

【授業計画】

1. 失語症とは、他のコミュニケーション障害との違い
2. 失語症に関する神経系の基礎知識
3. 失語の症状
 - 1) 発話
 - 2) 聴覚的理解
 - 3) 復唱
 - 4) 読解・音読
 - 5) 書字
4. 失語症の下位タイプ
 - 1) 古典分類
 - 2) その他
5. 失語症に関連するその他の高次脳機能障害
6. 失語症研究の歴史

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

失語症Ⅱ

鈴木朋子 吉田 敬

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

1. 失語症の臨床における情報収集、検査、評価について理解する。
2. 失語症のリハビリテーションについて理解する。

【授業計画】

1. 失語症臨床の概略・基本的態度
2. 情報収集
3. 検査
 - 1) 失語症検査
 - 2) その他の検査
4. 評価
 - 1) 失語症と他のコミュニケーション障害の鑑別
 - 2) 失語症のタイプ分類、重症度の判断
 - 3) その他
5. リハビリテーション
 - 1) 訓練計画
 - 2) 言語機能へのアプローチ
 - 3) 実用コミュニケーション能力へのアプローチ
 - 4) 環境へのアプローチ、失語症者の社会参加
6. 他職種・他機関との連携

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

高次脳機能障害

渡邊一功

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

脳損傷による言語以外の動作、認知、記憶などの高次脳機能の障害の症状および、それらの評価、リハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

脳損傷による高次脳機能の障害の病態および、それらの評価、リハビリテーションについて理解する。

【授業計画】

- 第1回 脳の構造・機能と認知のメカニズム
- 第2回 一般的な神経疾患
- 第3回 神経心理学の概念、脳障害回復機序
- 第4回 意識障害、認知症、注意障害
- 第5回 記憶障害、前頭葉症候群
- 第6回 失認と失行
- 第7回 聴覚失認
- 第8回 発語失行、失読、失書
- 第9回 小児の高次脳機能障害
- 第10回 右半球と高次脳機能障害
- 第11回 頭部外傷と高次脳機能障害
- 第12回 リハビリテーションにおけるチームと評価
- 第13回 さまざまなリハビリテーション・アプローチ
- 第14回 高次脳機能障害のケア
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

高次脳機能障害（長谷川賢一編著/大槻美佳[ほか]共著 建帛社 2001）
（言語聴覚療法シリーズ：3）

【参考文献・資料】

高次脳機能障害学（石合純夫著 医歯薬出版 2004）
高次脳機能障害【ビデオレコード】（医学映像教育センター著作 医学映像教育センター（制作）1999（基礎医学ビデオシリーズ リハビリテーション医学：vol.14））

言語発達障害 I

西村辨作

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

小児の言語発達障害の臨床に必要な知識と技能を習得するために、構音障害、発声障害、吃音について、その評価、診断の手続きと治療法について、発達の視点から学習する。

【授業の目標】

1. 小児の言語発達障害の臨床に必要な知識と技能を習得する。
2. 言語発達障害の評価、診断の手続きと治療法について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語発達の評価
- 第2回 養育者の面接
- 第3回 行動観察
- 第4回 言語能力検査
- 第5回 発達検査
- 第6回 知能検査
- 第7回 関連諸検査
- 第8回 前言語期の支援
- 第9回 単語獲得期の支援
- 第10回 文形成期の支援
- 第11回 会話能力の支援
- 第12回 読み書き技能の支援
- 第13回 保育場面での支援
- 第14回 教育現場での支援
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

言語発達とその支援 (岩立志津夫・小椋たみ子編 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

言語発達障害 II

西村辨作

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

乳幼児からの発達障害、聴覚障害によって生じた、言語・コミュニケーション障害について、適切な評価を行うための知識と技能を習得するために、乳幼児期、学童期の発達像を小児言語発達学、小児聴覚医学に基づいて学習する。

【授業の目標】

1. 言語発達障害について学ぶ。
2. 論文を講読する能力を養う。

【授業計画】

講義形式で行う。

- 第1回 ことばの遅れの原因
- 第2回 自閉症 I
- 第3回 自閉症 II
- 第4回 自閉症 III
- 第5回 知的障害 I
- 第6回 知的障害 II
- 第7回 知的障害 III
- 第8回 読み書き障害 I
- 第9回 読み書き障害 II
- 第10回 読み書き障害 III
- 第11回 家族支援 I
- 第12回 家族支援 II
- 第13回 療育・教育機関との連携
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 まとめ

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

Dyslexia (Landau, E., Scholastic Inc., 2004)

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

言語発達障害Ⅲ

岩田吉生

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発達障害、聴覚障害によって生じる言語・コミュニケーション行動の障害を評価し、個々の対象に応じたリハビリテーション・プログラムの立案、実施法について学ぶ。

【授業の目標】

発達障害、聴覚障害の言語・コミュニケーション行動、音韻意識、構音、読み書き能力の発達について、その評価と指導の在り方について学ぶことを目的とする。

【授業計画】

1. 健常児の言語発達
2. 健常児の音韻意識の発達
3. 健常児の読み書き能力の発達 1
4. 健常児の読み書き能力の発達 2
5. 発達障害児の言語・コミュニケーションの発達
6. 発達障害児の言語・コミュニケーションの指導
7. 発達障害児の読み書き指導 1
8. 発達障害児の読み書き指導 2
9. 聴覚障害児の言語・コミュニケーションの発達
10. 聴覚障害児の言語・コミュニケーションの指導
11. 聴覚障害児の読み書き指導 1
12. 聴覚障害児の読み書き指導 2
13. 講義のまとめ 1
14. 講義のまとめ 2
15. レポートの評価

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜、紹介する。

吃音

加藤正子 廣島 忍

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

吃音の定義、吃症状、吃に関する検査、間接的訓練、直接的訓練、メンタルリハーサル、環境調整などについて学ぶ。

【授業の目標】

1. スピーチに見られる非流暢性について理解する。
2. 吃音と診断するための評価法と治療法を学ぶ。
3. 事例やセルフヘルプグループから吃音者の心理を学ぶ。
そのことから、コミュニケーション障害の広さと支援の深さを理解する。

【授業計画】

1. 吃音とは
2. 健常者に見られる非流暢性と吃音者の非流暢性について
3. 吃音の疫学
4. 吃音の症状
 - 1) 言語症状
 - 2) 随伴症状
 - 3) 心理
 - 4) 発達性吃音と獲得性吃音
5. 吃音の発生と病因論
6. 評価・診断
 - 1) 情報の収集
 - 2) 吃音に関する諸検査
 - 3) その他の関連検査
7. 治療・訓練（指導）
 - 1) 訓練法
 - 2) 幼児期の治療
 - 3) 学童期の治療
 - 4) 成人の治療吃音者への理解（セルフヘルプグループ）

【評価方法】

出席・レポート、小テスト、期末試験

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

アドバンスシリーズ 吃音（日本聴能言語士協会講習会実行委員会編 協同医書 2001）
子どもが吃っていると感じたら（廣島忍、他 大月書店 2004）

音声障害

丹羽英人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発声の生理、物理的特性、その調節、さらに音声障害の定義、器質性音声障害、機能性音声障害について学ぶ。音声の検査・評価・診断法について具体的に理解し、また音声障害の治療、無喉頭音声、気管切開への対応、音声障害患者の社会復帰を学ぶ。

【授業の目標】

音声障害をきたす疾患の病態を理解し、それに基づいた治療方法を系統的に知る。

【授業計画】

- 第1回 音声障害の検査法
- 第2回 音声障害の診断
- 第3回 音声障害とその治療—喉頭の基質的障害
- 第4回 音声障害とその治療—前進障害に伴う音声障害
- 第5回 音声障害とその治療—機能性発声障害
- 第6回 音声障害とその治療—音声障害の治療
- 第7回 言語障害—言語障害の種類
- 第8回 言語障害の検査
- 第9回 言語発達遅滞
- 第10回 機能的構音障害
- 第11回 口蓋裂に伴う言語障害
- 第12回 難聴による小児言語障害
- 第13回 失語症
- 第14回 嚥下障害
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

随時プリントを配布する

【参考文献・資料】

授業の際に紹介

嚥下障害

長谷川和子

2年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

摂食・嚥下機能の発達と加齢による変化、摂食・嚥下障害の発生メカニズム、摂食・嚥下の検査・評価、治療・訓練（間接訓練、直接訓練など）について学ぶ。

【授業の目標】

摂食嚥下障害の診方と対応の仕方について学び、臨床的にそれらを適用できる能力を身に付ける。

【授業計画】

下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。

- 1 口腔顔面の機能的活動
- 2 食べるということ
- 3 摂食嚥下の正常過程
- 4 解剖と生理
- 5 機能の発達と加齢による変化
- 6 摂食嚥下障害の病態
- 7 摂食嚥下障害の分類
- 8 評価
- 9 治療
- 10 マネージメント
- 11 チームアプローチ

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

構音障害Ⅰ

加藤正子 鈴木朋子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

構音障害の概念と理論的基礎、構音障害の検査と評価について学習する。
さらに、脳損傷後の成人の言語臨床で扱われる運動障害性構音障害について、発生の原因、症状、評価、訓練、リハビリテーション医療におけるチームアプローチについて学習する。

【授業の目標】

1. 運動障害性構音障害の機序と評価法と治療法について学ぶ。
2. 小児の構音と音韻及び障害を理解し、治療法について学ぶ。

【授業計画】

1. 構音障害とは
2. 基礎知識
 - 1) 構音器官の解剖と機能
 - 2) 構音の基礎となる音声学
3. 運動障害性構音障害と他のコミュニケーション障害の違い
4. 運動障害性構音障害の発生メカニズム
5. 運動障害性構音障害のタイプ
6. 運動障害性構音障害の評価
7. 運動障害性構音障害の訓練、代償手段
8. 子どもの構音・音韻の概念
 - 1) 正常構音
 - 2) 構音・音韻障害
9. 音韻発達
 - 1) 音韻の知覚発達
 - 2) 音韻発達
10. 構音障害に影響を及ぼす要因

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験

【テキスト】

特に使用せず

【参考文献・資料】

構音と音韻の障害 (船山美奈子・岡崎恵子監訳 協同医書2000)
articulation and phonological disorders
(J.E.Berthal,N.W.Bankson,Allyn & Bacon 2004)

構音障害Ⅱ

加藤正子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

機能性構音障害のメカニズム、音韻発達および構音の発達から評価・訓練計画・訓練方法について学ぶ。さらに、器質性構音障害について、まひ性、形態性の障害への評価、訓練、医学的治療について学習する。

【授業の目標】

1. 子どもの構音障害の評価・診断法と治療法について学ぶ
2. 口蓋裂言語の評価・診断および治療法について学ぶ。

【授業計画】

1. 子どもの構音の特徴
2. 構音障害の特徴
3. 音の誤りの分析法
4. 構音検査法
 - 1) 各検査
 - 2) 構音類似運動検査
5. 関連検査
6. 構音訓練の原則
7. 各構音障害の訓練法
8. 器質的構音障害
9. 口蓋裂に伴う問題
10. 口蓋 (口蓋裂) の解剖と発生
11. 鼻咽腔閉鎖機能の評価・診断
12. 口蓋裂の言語 (評価と治療)

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験

【テキスト】

口蓋裂の言語臨床第2版 (岡崎恵子・加藤正子 医学書院 2005)

構音障害Ⅱ

織田千尋 加藤正子

オムニバス 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

機能性構音障害のメカニズム、音韻発達および構音の発達から評価・訓練計画・訓練方法について学ぶ。さらに、器質性構音障害について、まひ性、形態性の障害への評価、訓練、医学的治療について学習する。

【授業の目標】

1. 運動障害性構音障害の機序と評価について、原則と具体的な検査法を学ぶ。
2. 構音障害の治療について、原則と各構音障害の治療法を学ぶ。
3. 口蓋裂言語の評価法と治療法を学ぶ。

【授業計画】

- 1回 発声・発語のメカニズム
- 2回 運動障害性構音障害(dysarthria)の病態
- 3回 運動障害性構音障害(dysarthria)の評価
- 4回 運動障害性構音障害(dysarthria)の治療の原則
- 5回 運動障害性構音障害(dysarthria)の治療の実際
- 6回 コミュニケーション効果を高めるために
- 7回 器質的構音障害
- 8回 口蓋裂に伴う問題
- 9回 口蓋(口蓋裂)の解剖と発生
- 10回 鼻咽腔閉鎖機能の評価
- 11回 鼻咽腔閉鎖機能の診断
- 12回 口蓋裂の言語(評価と治療) 1
- 13回 口蓋裂の言語(評価と治療) 2
- 14回 試験

【評価方法】

出席・レポート・小テスト・期末試験

【テキスト】

口蓋裂の言語臨床 第2版(岡崎恵子・加藤正子 医学書院 2005)
言語聴覚士のための運動障害性構音障害学(広瀬肇 医歯薬出版 2001)

【参考文献・資料】

アドバンスシリーズ4 運動性構音障害(日本聴能言語士協会講習会実行委員会編 協同医書出版 2002)
運動性発話障害の臨床(伊藤元信 監訳 インテルナ出版 2004)

聴覚障害Ⅰ

荒尾はるみ 井脇貴子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚障害に関わる知識の習得と、それに基づく技能を習得し、聴覚障害を原因として発達上に生ずる諸問題について理解を深める。

【授業の目標】

主に小児の聴覚障害について学習する。乳幼児聴力検査、小児聴覚障害の原因・種類、聴覚障害児の発達、聴覚障害児の検査と評価、聴覚障害児の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

1. 聴覚系の成熟と聴覚機能の発達
2. 聴覚障害の早期発見と療育
3. 検査法の種類と適用
聴性行動反応聴力検査(BOA)・条件詮索反応聴力検査(COR)・ピープショウ検査・遊戯聴力検査
他覚的聴覚検査(聴性誘発反応検査、耳音響放射検査)
4. 新生児聴覚スクリーニング
5. 小児聴覚障害の原因と種類
遺伝性・胎生期性・周生期性、後天性
伝音性・感音性・混合性
6. 聴覚障害児の心理面・行動面の発達、情緒・社会性の発達
7. 聴覚障害児の言語能力・コミュニケーションの発達
8. 関連情報の収集
9. 検査と評価
言語、言語的・非言語コミュニケーションの検査と評価
発声・発語の検査と評価
知能の検査と評価
行動・情緒・パーソナリティ・社会性などの検査と評価
10. 聴覚障害児の指導・訓練プログラムの立案(コミュニケーション・モードの選択を含む)
保育・育児指導
コミュニケーション指導
言語指導
聴能訓練と聴覚学習
発声・発語指導
文字指導
11. 関係機関の連携とチームアプローチ

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際(日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学(喜多村健、医歯薬出版、4200円)

【参考文献・資料】

1. 音遊びの聴覚学習(徳島県立聾学校編、高橋信雄監修、学苑社、2500円)
2. 子どもの聴覚障害訓練ガイド(立石恒雄・木場由紀子編集、医学書院、3675円)

聴覚障害Ⅱ

井脇貴子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚機能の診断に必要となる聴覚医学的な考え方について理解し、各種聴覚機能検査の原理とその実際について学び、検査から診断にいたる具体的な方法について学習する。

【授業の目標】

主に成人の聴覚障害について学習する。成人聴力検査、成人聴覚障害の種類と特性、成人聴覚障害の検査と評価、成人聴覚障害の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

1. 検査法の種類と適用
純音聴力検査
気導聴力検査
骨導聴力検査
自記オーディオ
語音聴力検査
語音聴取閾値検査（語音了解閾値検査）
語音弁別検査
中耳機能検査（インピーダンスオージオメトリー等）
内耳機能検査（SISI等）
マスキング
他覚的聴力検査
2. 成人聴覚障害の種類と特性
先天性難聴
後天性難聴（中途失聴・老人性難聴等）
3. 関連情報の収集
4. 検査と評価
聴取・読話・発声発音・文字言語能力・コミュニケーション・心理面・行動面・社会性など・その他
5. 成人聴覚障害者の指導・訓練プログラムの立案
聴能訓練
読話指導
文字言語能力向上の指導
コミュニケーション指導
高齢者の指導
重複障害者の指導
6. 聴覚障害をサポートする各種機器
7. 環境調整
8. 相談・助言
9. 関係機関の連携とチームアプローチ

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き（服部浩、中山書店、1100円）

【参考文献・資料】

1. 言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰ－基礎編（山田弘幸・佐場野優一編著、建帛社、2400円）
2. 言語聴覚療法シリーズ6 聴覚障害Ⅱ－臨床編（山田弘幸・佐場野優一編著、建帛社、2400円）
3. アドバンスシリーズ コミュニケーション障害の臨床7 聴覚障害（日本聴能言語士協会講習会実行委員会編集、協同医書出版社、4000円）
4. よくわかるオージオグラム（立木孝、金原出版、2800円）

聴覚障害Ⅲ

井脇貴子 担当者未定

オムニバス 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚機能の診断に必要となる聴覚医学的な考え方について理解し、特に小児の特性について注目し、聴覚機能検査の原理とその重要性について学び、検査から診断にいたる具体的な方法について学習する。また、補聴器適合の方法についても学習する。

【授業の目標】

聴覚障害における聴覚補償の方法、特に補聴機器の仕組みと原理について知識を深めると共に、機器類の調整法についても実践的に学習し、理解を深める。また、FM・磁気ループ・赤外線などの補聴システムについても学ぶ。

【授業計画】

1. 聴覚障害における聴覚補償について
2. 身体障害者福祉法、障害者自立支援法
3. 補聴器の仕組み、種類、特性について
4. 補聴器の調整の基礎
5. 補聴器測定演習
6. 補聴器フィッティング演習
7. 補聴器装用効果の評価
8. 老人性難聴と補聴器
9. 人工内耳の仕組み、原理、種類について
10. 人工内耳の調整の基礎
11. 人工内耳フィッティング演習
12. 人工内耳装用効果の評価
13. 補聴システム

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 補聴器フィッティングの考え方（小寺一興 診断と治療社、2800円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健一 医歯薬出版株式会社、4000円）

【参考文献・資料】

1. すぐに役立つ補聴器装用の実際（ENTONI 編集企画細井裕司 全日本病院出版会、2381円）
2. 補聴器ハンドブック（Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円）

聴覚障害Ⅳ

井脇貴子 担当者未定

オムニバス 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚補償の原理、聴覚支援システムの実際、人工内耳について学び、適用にいたる具体的方法について学習する。また視覚と聴覚との両者に障害を持つ場合の聴覚補償、リハビリテーションについて、評価と指導の具体的方法について学習する。

【授業の目標】

視覚障害と聴覚障害という二重障害のそれぞれの発症時期・進行程度がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深めると共に、新しいコミュニケーション手段や補助手段について学ぶ。

【授業計画】

1. 視覚聴覚二重障害について
2. 視覚聴覚二重障害がもたらすさまざまな困難について
3. 視覚聴覚二重障害教育の歴史
4. 視覚聴覚二重障害児のケースレポート
5. 視覚聴覚二重障害児および両親への指導
6. 視覚聴覚二重障害児に関して他機関との連携
7. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段
8. 視覚聴覚二重障害者の評価
9. 視覚聴覚二重障害者の生活上のニーズ

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健一 医歯薬出版株式会社、4000円）

【参考文献・資料】

1. アドバンスシリーズ コミュニケーション障害の臨床7 聴覚障害（日本聴能言語士協会講習会実行委員会 協同医書出版社、4000円）

言語聴覚臨床実習Ⅰ

井脇貴子 加藤正子 北山裕子 鈴木朋子

西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実際の言語聴覚臨床に接し、コミュニケーション障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、障害スクリーニング技法、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について学ぶ。

【授業の目標】

クライアントへの接し方、障害の評価、訓練、報告書の作成の仕方について理解する。

【授業計画】

以下のテーマについて少人数グループで実習を行う。

1. 小児発達障害
2. 小児構音障害
3. 小児聴覚障害
4. 成人聴覚障害
5. 運動障害性構音障害
6. 失語症
7. 高次脳機能障害

【評価方法】

出席、受講態度、課題の成績を基に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

言語聴覚臨床実習Ⅰ

井脇貴子 加藤正子 北山裕子 鈴木朋子
西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

実際の言語聴覚臨床に接し、コミュニケーション障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、障害スクリーニング技法、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について学ぶ。

【授業の目標】

クライアントへの接し方、障害の評価、訓練、報告書の作成の仕方について理解する。

【授業計画】

以下のテーマについて少人数グループで実習を行う。

1. 小児発達障害
2. 小児構音障害
3. 小児聴覚障害
4. 成人聴覚障害
5. 運動障害性構音障害
6. 失語症
7. 高次脳機能障害

【評価方法】

出席、受講態度、課題の成績を基に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

言語聴覚臨床実習Ⅱ

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 後期 必修 5単位

【授業の概要】

臨床実習施設において評価実習を行う。具体的には、対象者に実際に接し、検査等によって評価・言語病理学的診断をするために必要な情報収集を行い、結果を分析し、対象者の問題を障害の各側面から把握する。

【授業の目標】

学内で学習した言語聴覚学の知識や技術を実際の臨床の場において確認する。同時に学内で得られなかった障害の多様性、言語臨床の深さ、概念や知識を学ぶ。他職種の業務内容を知ること、チームで行う臨床とその中で、言語聴覚士の専門性を学ぶ。

【授業計画】

3年次の8月から9月の間、原則6週間(約225時間)通して、成人施設(あるいは小児施設)、各1箇所では言語聴覚士の指導下で言語聴覚障害学の実習を行う。実際の実習期日、実習時間は実習施設の診療体制に従う。

【評価方法】

実習施設の指導者が実習態度、社会性、実習への意欲、クライアントへの対応、検査、治療、記録、報告などを観察して評価する。

【テキスト】

臨床実習の手引き(愛知淑徳大学言語聴覚学専攻編 2005 完成予定)

言語聴覚学研究Ⅰ

井脇貴子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自が設定した研究課題について指導する。

1. テーマの設定 研究目的の明確化と研究計画
2. 関連文献の調査と整理
3. 実験・調査など研究方法の検討、実験技術の習得
4. データの収集、結果の分析と評価
5. 論文の構成要素、アウトラインの作成
6. 口頭発表による研究報告

【評価方法】

進捗状況の報告

研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

言語聴覚学研究Ⅰ

加藤正子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

小児の構音とその障害を中心とするコミュニケーション障害をテーマにして論文を書くために、著作や論文を読み、先行研究を知る。さらに研究方法を理解する。

【授業計画】

1. 構音障害のテキストを講読する。
2. 各自、小児の構音と障害の文献を探す。
3. 各自文献の研究法を検討し、発表する。

【評価方法】

出席、レポート、プレゼンテーションの内容

【テキスト】

構音と音韻の障害（船山美奈子監訳 協同医書）

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学研究 I

鈴木朋子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

失語症などの成人のコミュニケーション障害の先行研究について理解するとともに、具体的な研究方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 成人のコミュニケーション障害の研究の概略
2. 先行研究の文献講読
3. 先行研究の内容の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づいて評価する。

【テキスト】

授業中に指定する。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学研究 I

西村辨作

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を高める。

【授業計画】

各自の研究テーマに応じて文献を講読して、研究計画を立案する。

【評価方法】

授業態度および達成度に基づく。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

1. 各種の言語聴覚障害の詳細なメカニズムについて理解する。
2. 実際の診断方法を理解する。
3. 特殊な検査方法を実際に実行できるようにする。

【授業計画】

1. 言語聴覚障害とは
2. 言語聴覚障害の病態
3. 言語聴覚障害の診断
4. 聴覚障害の治療
5. 聴覚障害の医学的リハビリテーション
6. 聴覚障害の臨床の実際（診断治療）

【評価方法】

出席状態、レポート、筆記試験

【テキスト】

随時プリント使用

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

関心のあるテーマについて独自で文献を調べた上、習得した知識をまとめることができるようになる。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書にまとめる。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

言語聴覚学研究Ⅰ

吉田 敬

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、文献研究、実験、調査を通して、言語科学・言語発達学の基礎領域および言語聴覚障害学の基礎、臨床、応用について専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

失語症を中心とする成人のコミュニケーション障害の先行研究を理解するとともに、具体的な研究方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 失語症研究の概略（講義）
2. 失語症研究に関わる関連領域（講義）
3. 専門文献の検索、入手
4. 専門文献の講読、内容の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づき評価する。

【テキスト】

授業中に指定する。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学研究Ⅱ

井脇貴子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

「言語聴覚学研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

1. データの整理、分析、評価、考察
2. 論文の書き方、参考文献の引用法
3. 論文の要旨の作成
4. プレゼンテーションのための資料の作成
5. 口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

言語聴覚研究Ⅰで学んだ内容を深め、各自研究したいテーマと研究法を絞っていく。

【授業計画】

1. テキストを講読する。
2. 著作・論文を読み、先行研究から各自興味のあるテーマを探す。
3. そのテーマで行える実験計画・調査計画を考えて発表する。

【評価方法】

出席、レポート、プレゼンテーションの内容

【テキスト】

構音と音韻の障害（船山美奈子監訳 協同医書 2001）

【参考文献・資料】

授業の中で指定する。

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識を発展させ、各自の研究テーマを深める。

【授業計画】

1. 先行研究における研究対象、研究方法に関する討論
2. 受講者が関心を持つテーマの発表、発表に基づく討論

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づいて評価する。

【テキスト】

授業中に指定する。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学研究Ⅱ

西村辨作

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を高める。

【授業計画】

各自の研究テーマに応じて文献を講読して、研究計画を立案する。

【評価方法】

授業態度および達成度に基づく。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

言語聴覚学研究Ⅱ

丹羽英人

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

言語聴覚障害の中で特に成人の聴覚障害を理解する。
聴覚機能検査各種を理解し聴覚生理の特殊性を実際に実験する。

【授業計画】

1. 各種の聴覚障害の詳細な病態、聴覚医学の中での位置づけ。
2. 伝音難聴の診断治療、リハビリテーション。
3. 内耳性難聴の診断、治療、リハビリテーション。
4. 後迷路性難聴の診断、治療、リハビリテーション。
5. 聴覚の年齢変化とは、感覚器系の退行性変化。
6. 上記内容を臨床的に検討。

【評価方法】

出席状態、レポート、筆記試験

【テキスト】

随時プリント配布

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

関心のあるテーマについて独自で文献を調べた上、仮説と研究計画を立てることをできるようになる。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書を書く。研究内容に応じて、観察・面接・調査・データベース資料などを用いて、各自でデータを収集する。

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

「言語聴覚学研究Ⅰ」で習得した問題意識を発展させ、各自の研究テーマを深める。

【授業計画】

1. 専門文献の入手、講読
2. 先行研究における研究対象、研究方法に関する討論
3. 受講者が関心を持つテーマの発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づき評価する。

【テキスト】

授業中に指定する。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚臨床実習Ⅲ

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作 吉田 敬

4年 前期 必修 6単位

【授業の概要】

各種臨床実習施設の実習指導者の下に総合実習を行う。講義・演習で学んだ知識・技能・態度を実際の臨床に適用し、言語聴覚士としての基本的な臨床能力を習得する。具体的には、対象者に実際に接し、評価・言語病理学的診断から訓練・治療、社会参加への支援にいたる言語聴覚臨床の全プロセスについて実践的に学ぶ。

言語聴覚学研究Ⅲ井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作
丹羽英人 宮田 Susanne 吉田 敬

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究として展開する準備を行う。

言語聴覚学研究Ⅳ井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作
丹羽英人 宮田 Susanne 吉田 敬

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学、の各領域、あるいはそれら学際領域における独自の研究テーマについて、「言語聴覚学研究Ⅲ」の成果に基づき、それを卒業研究として展開する。

卒業論文井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 西村辨作
丹羽英人 宮田 Susanne 吉田 敬

4年 後期 必修 4単位

【授業の概要】

「言語聴覚学研究Ⅰ～Ⅳ」の成果を卒業論文の形にまとめ、提出する。

視覚認知総論

高橋伸子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

パターン認知、視覚的注意、視覚システムの階層構造、視覚イメージと心的表象、視覚システムと言語システムの相互作用について、具体的なトピックスを紹介しつつ、人間の視覚情報処理の基礎過程について理解を深める。

【授業の目標】

代表的な研究の紹介や実験データの解説を通して、基礎過程から高次過程までの視覚認知の特性について理解する。

【授業計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) 視覚の空間特性
- 3) 視覚の時間特性
- 4) 運動視
- 5) 錯視
- 6) パターン認知
- 7) 視覚記憶
- 8) 視覚的注意
- 9) 視覚と他感覚の相互作用
- 10) まとめ

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

- 視覚の情報処理 (K.T.スペアー・S.W.レムクール著 サイエンス社)
 視覚情報処理の基礎 (乾敏郎著 1990 サイエンス社)
 視覚情報処理ハンドブック (日本視覚学会編 2000 朝倉書店)

視覚心理総論

高橋啓介

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ゲシュタルト心理学からギブソンの視空間論までについて、具体的なトピックスを通して、視覚の基本的な特性とそのメカニズムについて学習する。

【授業の目標】

視覚心理学の重要なトピックスについてのさまざまな知見を学習することで、人間の視覚の特性に関する理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 知覚の体制化1
- 第2回 知覚の体制化2
- 第3回 明るさの知覚
- 第4回 色覚1
- 第5回 色覚2
- 第6回 色覚3
- 第7回 色覚4
- 第8回 色知覚1
- 第9回 色知覚2
- 第10回 視空間知覚1
- 第11回 視空間知覚2
- 第12回 視空間知覚3
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

出席30点満点、単位認定試験70点満点とし、60点以上取得で合格とする。ただし、4回以上の欠席の場合は、得点に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

- 視覚の冒険－イリュージョンから認知科学へ (下條信輔 産業図書 1997年)
 眼はなにを見ているか－視覚系の情報処理 (池田光男 平凡社 1988年)
 どうして色は見えるのか－色彩の科学と色覚 (池田光男・芹沢昌子 1992年)

視覚認知特論

高橋伸子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

形態視、色彩視、立体視、運動視のメカニズムについて理解を深め、脳の視覚情報処理全体の中で、これらの視覚モジュールの位置づけについても考察する。

【授業の目標】

脳科学に基づく視覚情報処理モデルと視覚認知過程について学び、脳と視覚についての理解を深める。

【授業計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) 視覚の進化
- 3) 視覚皮質の機能分化
- 4) 視覚情報処理経路
- 5) 視覚モジュールと統合
- 6) まとめ

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

脳のヴィジョン (S.ゼキ著 河内十郎訳 1995 医学書院)
視覚の進化と脳 (三上章允編 1993 朝倉書店)

視覚心理特論

高橋啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

錯視現象、知覚的恒常性、両眼立体視、奥行き知覚について、これまでの実験的研究の知見に基づきながら理解を深めることを通して、逆光学推論系としての視覚の特性とメカニズムについて考察する。

【授業の目標】

視知覚のうち、特に初期知覚の特性についての知見を学ぶことで、課題解決推論系としての視覚情報処理系の特性について理解する。

【授業計画】

- 第1回 ステレオグラムの実体験
- 第2回 ステレオグラムの意味するもの
- 第3回 計算推論系としての視覚情報処理系
- 第4回 ランダムドット・ステレオグラムという方法
- 第5回 ランダムドット・ステレオグラムがもたらしたもの
- 第6回 視覚系の適応性1
- 第7回 視覚系の適応性2
- 第8回 視覚系の適応性3
- 第9回 視覚系の適応性4
- 第10回 心理物理学と脳科学1
- 第11回 心理物理学と脳科学2
- 第12回 心理物理学と脳科学3
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

出席15点満点、単位認定テスト85点満点とし、両者合計で60点以上取得の者を合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

Q & Aでわかる脳と視覚—人間からロボットまで— (乾敏郎 サイエンス社)
視覚の文法—脳が物を見る法則 (ドナルド・D・ホフマン 紀伊國屋書店)
〈意識〉とは何だろうか—脳の来歴、知覚の錯誤— (下條信輔 講談社現代新書)

視能矯正学総論

川澄未来子 都築欣一 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視能矯正学の枠組みを理解し、系統的な視能矯正を構築するための基礎的技術を学習する。

(川澄未来子兼担助教授) 正常な眼球の働きや両眼視機能の基礎、外眼筋の作用とその法則、両眼共同運動、輻輳・開散と調節、ホロプターとVieth-Mullerの円、Panumの融像感覚圏等について学ぶ。

(都築欣一兼任講師) 斜視の分類と病因論、弱視の成因と治療法について学ぶ。

(平井淑江教授) 小児視力の発達と特性や斜視に伴う網膜対応の異常や患眼の抑制について学習する。

【授業の目標】

視能学(矯正学・障害学・検査学・検査学を含む)の枠組みを理解する。

眼球の構造と仕組みを理解する。

斜視と弱視の成因と治療についての基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 視能矯正学の歴史と視能訓練士
- 第2回 眼の光学的特性
- 第3回 眼球の調節過程
- 第4回 眼球運動
- 第5回 三次限立体視と眼球運動
- 第6回 小児の視機能の発達と視覚の感受性期間
- 第7回 斜視の分類と病因 その1
- 第8回 斜視の分類と病因 その2
- 第9回 斜視の治療
- 第10回 弱視の成因と治療 その1
- 第11回 弱視の成因と治療 その2
- 第12回 斜視や弱視の感覚適応：抑制
- 第13回 網膜対応：正常と異常
- 第14回 単位認定試験(1)
- 第15回 単位認定試験(2)

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫 他：編 文光堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論Ⅰ

大庭紀雄 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人の眼位や両眼視機能と眼球運動との関係を機能解剖学的に学習する。

(大庭紀雄教授) 外眼筋の基礎解剖と神経生理、輻輳および開散の生理と病態、両眼視機能の中樞神経機構について理解を深める。

(平井淑江教授) 両眼視機能の正常像と病態像について学ぶ。

【授業の目標】

1. 両眼視機能の成り立ちと構造を理解する。
2. 外眼筋の解剖と眼球運動・眼位について理解する。
3. 機能的視覚障害である弱視・心因性視覚障害について理解する。

【授業計画】

講義方式による。検査機器やビデオを適宜使用する。学生の理解度を測定し、講義にフィードバックする目的でプリテストとミニテストを適宜行う。

- 第1回 両眼視機能の基礎 1. 眼窩・外眼筋・眼球運動機構
- 第2回 両眼視機能の検査法1. 眼位、眼球運動
- 第3回 両眼視機能の基礎 2. 両眼視の神経機構、発達と劣化
- 第4回 両眼視機能の検査法2. 同時視、融像、立体視、対応
- 第5回 視能矯正： 両眼視訓練
- 第6回 機能的弱視1. 定義、成因、病型
- 第7回 機能的弱視1. 検査法：小児の視力検査と固視検査
- 第8回 機能的弱視2. 検査、診断、治療
- 第9回 機能的弱視2. 屈折矯正と眼鏡、遮蔽法
- 第10回 心因性視覚障害の成因・症候・治療
- 第11回 心因性視覚障害の検査
- 第12回 眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の成因・症候・治療
- 第13回 眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の検査
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

視能矯正、視能訓練の概念と基本知識を理解し、実地に活用できるかどうかを測定する。

出席状況、授業態度、期末試験を加点法で評価する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

視能矯正学(丸尾敏夫・栗屋忍 金原出版)

視能矯正学各論Ⅱ

都築欣一 平井淑江

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視、斜視の病態の検査と方法について学習する。
(都築欣一兼任講師) 弱視、斜視の病態の総合評価ができる技能を習得する。
(平井淑江教授) 弱視、斜視の病態の検査と方法を、入力、統合、出力系の順に学習する。

【授業の目標】

偽斜視と斜位と斜視の違いを理解する。水平斜視の分類とその検査法について理解する。
上下斜視の分類とその検査法について理解する。弱視の分類とその病態について理解する。

【授業計画】

第1回	偽斜視と斜視	平井
第2回	外斜視	都築
第3回	外斜視の分類と検査法	平井
第4回	内斜視	都築
第5回	Krimsky 法、Hirshberg 法	平井
第6回	上下斜視	都築
第7回	AV型斜視・交代性上斜視の検査	平井
第8回	麻痺性斜視	都築
第9回	Bielshwsky test と Perks の 3 step test	平井
第10回	弱視その1	都築
第11回	斜視弱視・不同視弱視の検査	平井
第12回	弱視その2	都築
第13回	屈折性弱視・径線弱視	平井
第14回	まとめ	平井
第15回	単位認定試験	平井

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論Ⅲ

平井淑江 矢ヶ崎悌司

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視の病態、発症メカニズムとその検査について学習する。
(平井淑江教授) 機能・器質弱視の病態を検査する意義、原理、方法、検査理論について学習する。
(矢ヶ崎悌司兼任講師) 弱視の各種病態と発症メカニズムを学び鑑別診断法について理解を深める。

【授業の目標】

弱視の定義・検査・治療について包括的に理解する。

【授業計画】

第1回	弱視の定義と病態生理
第2回	弱視の分類と鑑別診断
第3回	斜視弱視
第4回	不同視弱視
第5回	微小斜視弱視
第6回	屈折異常弱視
第7回	経線弱視
第8回	形態覚遮断弱視
第9回	器質弱視・難治症例
第10回	固視検査
第11回	両眼視機能検査
第12回	まとめI
第13回	まとめII
第14回	単位認定試験(1)
第15回	単位認定試験(2)

【評価方法】

出席状況・受講態度・レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

視能学 (丸尾敏夫 他 編 文光堂)

視能矯正学各論Ⅳ

増井 透

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の脳機能の問題について理解を深め、視覚情報処理機構の特性と、種々の視覚障害との関連性、さらに高次脳機能障害や学習障害と視覚障害との関連性について学習する。

【授業の目標】

視覚のメカニズムとその損傷について認知神経心理学の知見に従って理解し、損傷というシミュレーションの意味と適用可能性を考えることが可能になるようにする。

【授業計画】

必要に応じて受講者が参加する簡単な実験を行い、またAV資料を用いて理解を深める。

- 第1回 視覚システムの機能と構造
- 第2回 認知神経心理学の概要(1)
- 第3回 認知神経心理学の概要(2)
- 第4回 視覚の問題(1)
- 第5回 視覚の問題(2)
- 第6回 視覚の問題(3)
- 第7回 イメージの損傷(1)
- 第8回 イメージの損傷(2)
- 第9回 色彩の問題(1)
- 第10回 色彩の問題(2)
- 第11回 色彩の問題(3)
- 第12回 視覚障害への対応(1)
- 第13回 視覚障害への対応(2)
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況(20%)、随時のレポート(20%)と期末試験(60%)で評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で随時紹介する。

視能検査学総論

大庭紀雄 川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査の基礎について学習する。

(大庭紀雄教授) 主訴や眼症状によって進めていく検査の具体的プロセスについて学習する。

(川瀬芳克教授) 電気生理の原理と方法について学ぶ。

(平井淑江教授) 視能矯正での基礎となる視能検査の原理、特性、実施の概要について学ぶ。

【授業の目標】

視覚・視機能に関する各種検査の目的・機器・検査法・評価について学ぶ。画像診断・全身検査についても理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、検査機器やビデオを供覧して学習効果を高める。

- 第1回 検査の進め方:面接(インタビュー)との検査計画の策定
- 第2回 機能検査 1-1 視力・屈折・調節
- 第3回 機能検査 1-2 視力・屈折・調節
- 第4回 機能検査 2-1 瞳孔・光覚・順応・視野・色覚
- 第5回 機能検査 2-2 瞳孔・光覚・順応
- 第6回 機能検査 2-3 視野・色覚
- 第7回 機能検査 3-1 眼球運動・両眼視
- 第8回 機能検査 3-2 眼球運動・両眼視の検査
- 第9回 形態検査:細隙灯顕微鏡、眼底
- 第10回 電気生理学検査 I ERG,VEP,EOGの原理
- 第11回 電気生理学検査 II 検査法の実際
- 第12回 特殊検査:画像検査1(角膜内皮、蛍光眼底検査、OCT、SLO)
- 第13回 特殊検査:画像検査2(超音波、X線、CT、MRI)
- 第14回 全身検査
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

さまざまな病状を把握するために、諸種検査法の目的を理解して過不足なく策定できるかどうかを重点的に評価する。出席率・小テスト・単位認定試験で総合的に評価する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他 文光堂)

【参考文献・資料】

現代の眼科学(所敬・金井淳 編 金原出版)
眼科検査メモ(南江堂)

視能検査学各論 I

川瀬芳克 田邊宗子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。
(川瀬芳克教授) 眼球運動検査、斜視角の測定、両眼視機能検査、輻輳、AC/Aなどの各検査法について学習する。
(田邊宗子講師) 視力検査、屈折調節検査、眼鏡、コンタクトレンズの検査、眼位などの各検査について学ぶ。

【授業の目標】

1. 今まで講義を受けた幾何光学及び眼光学を基に屈折及び視力検査の方法を理解し、体験する。
2. 眼位・眼球運動検査の手技を学びながら、両眼視機能検査を理解し、体験する。

【授業計画】

- 第1回 視力検査 1
- 第2回 視力検査 2
- 第3回 屈折調節検査 1
- 第4回 屈折調節検査 2
- 第5回 眼鏡
- 第6回 コンタクトレンズの検査
- 第7回 眼位・眼球運動 1
- 第8回 眼位・斜視角の測定 1
- 第9回 眼位・斜視角の測定 2
- 第10回 両眼視機能検査 1
- 第11回 両眼視機能検査 2
- 第12回 両眼視機能検査 3
- 第13回 輻輳・AC/A
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

【評価方法】

主に期末試験により評価する。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- 視能矯正 (弓削経一編 金原出版)
- 視能矯正学 (粟屋忍 丸尾敏夫 金原出版)
- 眼科検査メモ (澤田惇 吉田晃敏 南光堂)
- 斜視・弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院)

視能検査学各論 II

川瀬芳克 田邊宗子 玉置明野

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「視能検査学各論 I」を踏まえ、さらに視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。
(川瀬芳克教授) 視野検査 (静的・動的視野・両眼開放視野・中心視野)、フリッカー検査などについて学習する。
(田邊宗子講師) 眼圧検査、涙液・涙道検査、瞳孔の検査、眼底写真撮影などについて学習する。
(玉置明野兼任講師) 色覚検査について学習する。

【授業の目標】

1. 眼科で用いられる各種視野検査の方法と疾患との関係を理解するとともに簡単な手技を体験する。
2. 眼科で用いられる眼圧、涙液・涙道、瞳孔検査を理解するとともに眼底写真術を体験する。
3. 色覚の理論と各種色覚検査の方法を理解するとともに疾患との関係を学習する。

【授業計画】

- 第1回 量的視野の理論
- 第2回 動的量的視野検査の実際 (実習 1)
- 第3回 動的量的視野検査の実際 (実習 2)
- 第4回 静的量的視野検査法の理論
- 第5回 その他の視野検査法
- 第6回 色覚のメカニズム: 先天色覚異常の分類、後天色覚異常 (先天異常との違い)
- 第7回 検査法: 仮性同色表、Panel-D-15、ランタンテスト、アノマロスコープ
- 第8回 先天色覚異常の遺伝: 杆体一色型色覚、錐体一色型色覚、先天赤緑異常
- 第9回 診断後の説明および指導
- 第10回 眼圧検査
- 第11回 涙液・涙道検査
- 第12回 瞳孔検査
- 第13回 眼底写真撮影
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験 (筆記) により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- ・眼科検査メモ (澤田惇他編 南江堂)

【参考文献・資料】

- ・新編画像解析ハンドブック (高木幹雄他監修 東京大学出版会)
- ・先天色覚異常の検査と指導 (市川一夫他 金原出版)
- ・眼科New Insight 1 「視覚情報処理」 (若倉雅登編 メジカルビュー社)
- ・眼科診療プラクティス66巻 「色覚の考え方」 (北原健二編 文光堂)

視能検査学各論Ⅲ

川瀬芳克 佐橋一浩 玉置明野

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能を評価する諸検査のうち、近年その重要度を増している新しい検査法について知見を深める。

(川瀬芳克教授) 電気生理検査。

(佐橋一浩兼任講師) 網膜断層撮影 (OCT)。

(玉置明野兼任講師) 超音波検査。

【授業の目標】

1. 超音波検査の方法と画像の見方を理解するとともに基本的な手技を習得する。
2. 電気生理検査の理論的背景と網膜脈絡膜疾患等との関係を理解する。
3. OCT、RTAなどの理論的背景を理解するとともに簡単な手技を習得する。

【授業計画】

- 第1回 超音波検査法の原理：光干渉法との違いも含め
- 第2回 Bモード測定の意義と方法：後眼部およびUBM
- 第3回 Aモード測定の意義と方法：眼軸長およびパキメトリー
- 第4回 眼内レンズ度数決定：白内障手術における超音波検査の重要性
- 第5回 電気生理検査の留意点
- 第6回 ERG検査手技（実習）
- 第7回 各種疾患におけるERG波形
- 第8回 EOG検査手技（実習）
- 第9回 VEP検査手技（実習）
- 第10回 網膜断層撮影（光干渉断層計：OCT）の原理
- 第11回 網膜厚解析装置：RTAの原理
- 第12回 共焦点走査型レーザー検眼鏡：HRTの原理
- 第13回 測定法の実際
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- ・眼科検査メモ（澤田惇他編 南江堂）
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ・最新眼科超音波診断法（太根節直編 診断と治療社）
- ・新超音波医学 1 医用超音波の基礎（日本超音波医学会編 医学書院）
- ・絵でみる超音波（長井 裕 伊東紘一 南江堂）
- ・眼科診療プラクティス1巻「眼内レンズの使い方と実際」（白井正彦編 文光堂）
- ・小切開創白内障手術（大鹿哲郎 医学書院）

視能障害学総論

大庭紀雄 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

様々な視能障害について概観し、視能障害に対する基本的な理解を深める。（大庭紀雄教授）視力障害、視野障害、両眼視機能の障害をもたらす疾患について、その予防と治療について学ぶ。

（平井淑江教授）成人の視能障害や加齢による視覚障害と社会適応について学ぶ。

【授業の目標】

- 主要な視能障害の種類とその病態について理解する。
- 視覚障害の認定法について理解する。
- 主要な視能障害の治療法と支援のあり方について学ぶ。

【授業計画】

講義はビデオや体験学習も取り入れて視覚障害の認識を深める

- 第1回 視力異常・視野異常・色覚異常
- 第2回 視力障害の等級とその実際
- 第3回 視野障害の等級とその実際
- 第4回 色覚障害とその対応
- 第5回 屈折異常・調節異常・両眼視機能異常
- 第6回 不等像視・老視・複視・抑制
- 第7回 外眼部・前眼部疾患、透光体疾患（白内障）
- 第8回 網膜・視神経・視路疾患
- 第9回 加齢性眼疾患
- 第10回 神経眼科疾患（瞳孔異常・眼球運動異常）
- 第11回 眼疾患の治療学（光学矯正、薬物療法、物理療法、外科療法）
- 第12回 ロービジョンとリハビリテーション
- 第13回 視能障害とその支援のあり方
- 第14回 期末試験1
- 第15回 期末試験2

【評価方法】

さまざまな重要な眼疾患について適切な知識を習得し理解を深めたかどうかを評価する。

出席状況、授業態度、レポート、期末試験で総合判定する。

【テキスト】

現代の眼科学（所敬・金井淳 編 金原出版）

【参考文献・資料】

適宜指示する。

視能障害学各論Ⅰ

伊藤照子 佐藤美保

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の発達の特性とその障害について理解を深める。
(伊藤照子兼任講師) 視覚障害児の社会への適応について学ぶ。
(佐藤美保兼任講師) 乳幼児の視覚の発達を阻害する因子とその予防と治療、
小児の失明や視野障害をもたらす疾患について学習する。

【授業の目標】

小児の視機能の発達の特徴を知りその阻害因子について理解する。
視能障害児の支援の方法を習得する。

【授業計画】

第1回	小児視機能の発達	佐藤
第2回	視機能評価1	伊藤
第3回	視機能評価2	伊藤
第4回	ロービジョン症例の紹介1	伊藤
第5回	ロービジョン症例の紹介2	伊藤
第6回	非光学的補助具の紹介	伊藤
第7回	非光学的補助具の実習	伊藤
第8回	小児視機能発達障害	佐藤
第9回	光学的補助具の紹介	伊藤
第10回	弱視疑似体験	伊藤
第11回	その他の補助具	伊藤
第12回	小児眼疾患の予防と治療	佐藤
第13回	関係法規	伊藤
第14回	単位認定試験	伊藤
第15回	まとめ	

【評価方法】

出席日数・授業態度・認定試験等で総合的に判断する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能障害学各論Ⅱ

川嶋英嗣

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚障害児・者の障害の特性や心理社会的側面について学習し、現状と課題について理解を深め、障害の特性に応じた教育的支援、福祉的支援のあり方について考察をおこなう。

【授業の目標】

眼の時空間特性と日常行動の関連について理解するとともに、障害への応用について理解を深める

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める

第1回	イントロダクション
第2回	視角1
第3回	視角2
第4回	コントラスト
第5回	コントラスト感度特性
第6回	空間周波数
第7回	コントラスト感度検査法
第8回	CFFの測定1
第9回	CFFの測定2
第10回	読みの有効視野
第11回	白黒反転効果
第12回	ETDRSチャートによる視力測定
第13回	まとめ1
第14回	まとめ2
第15回	試験

【評価方法】

出席、提出課題、試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業で指示する

視能訓練学総論

大庭紀雄 田邊宗子 行松慎二

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視能訓練の対象となる症例を鑑別し、視能訓練の基礎と適応について学ぶ。
(大庭紀雄教授) 器質的疾患と機能弱視との鑑別法及び感染症に対する対応と眼科の救急疾患について学ぶ。

(田邊宗子講師) 神経回路網を構築させる訓練療法の作用機序について学習し、視覚発達への促進や種々の視覚障害に対する矯正指導、管理の立場から必要な知識と技術を習得する。

(行松慎二兼任講師) 視覚系の神経生理学的特性について理解を深める。

【授業の目標】

(大庭紀雄教授) 視能訓練の対象となる症例の鑑別

(田邊宗子講師) 視能訓練の基礎と適応の理解

(行松慎二兼任講師) 視能訓練を行ううえでの必要な視覚生理学的特性の理解

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

(大庭紀雄教授) 器質的疾患と機能的弱視の鑑別のため

- 1 視覚の発育と成長と成熟と老化の理解する。
- 2 眼の先天異常と遺伝病の理解する。
- 3 眼の感染症の対応と救急疾患について理解する。

(行松慎二兼任講師)

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- 1 網膜での信号受容と処理
- 2 明暗の知覚の神経生理学的基礎
- 3 中枢視覚神経系での信号処理
- 4 色覚の生理学的基礎

(田邊宗子講師)

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- 1 視力と正確な屈折検査のための調節麻痺剤に関する知識と検査の実際。
 - 1) 視力
 - 2) 屈折
 - 3) 調節麻痺剤
- 2 眼位と両眼視。斜視の診断。
 - 1) 眼位
 - 2) 両眼視機能 (網膜対応・日常両眼視)

【評価方法】

主に期末試験で評価する。ただし出欠席も重視する。

期間中にレポート、及び小テストを行なった場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

斜視・弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院)

【参考文献・資料】

視能矯正学 (丸尾敏夫 栗屋忍編 金原出版)

視能矯正—理論と実際— (弓削経一他編 金原出版)

視能訓練学各論 I

平井淑江

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視訓練、治療の目的、原理、適応、訓練の効果評価法、治療判定の基準について学習する。

【授業の目標】

1. 小児の視機能の発達と特性について理解する。
2. 診療録や病歴について記載法を習得する。
3. 弱視を原因別に分類しそれに応じた検査法・訓練法を計画する。

【授業計画】

第1回 弱視の訓練と治療の基本的概念

第2回 小児視力の発達と特性

第3回 現病歴・既往歴・家族歴

第4回 固視検査1. 他覚的検査

2. 自覚的検査

第5回 中心固視・偏心固視・偏心視、固視不良

第6回 屈折検査・矯正眼鏡・コンタクトレンズの選択

第7回 遮蔽法

第8回 光学的・薬理的遮蔽法

第9回 弱視の訓練器具と効果判定

第10回 訓練計画：治療基準と治療期間

第11回 ケーススタディ

第12回 訓練計画の評価

第13回 まとめ(1)

第14回 まとめ(2)

第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定検査等で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

斜視弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院)

視能訓練学各論Ⅱ

田邊宗子 三宅三平

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

斜視の病理学的理解とその矯正法について学ぶ。
(田邊宗子講師) 斜視の視能矯正、光学的矯正などについて学ぶ。
(三宅三平兼任講師) 斜視の発症メカニズム、先天性、後天性斜視の診断と手術、薬物療法などの治療について学ぶ。

【授業の目標】

斜視の発症メカニズムの理解。斜視の分類と治療方法の理解。視能訓練士が行える視機能訓練の適応者と訓練方法の理解と修得

【授業計画】

- 第1回 斜視弱視外来 (田邊)
- 第2回 弱視・斜視の検査 (田邊)
- 第3回 斜視の治療・訓練と分類1 (田邊)
- 第4回 プリズムについて1 (臨床に使えるプリズム：プリズムを用いた検査におけるプリズム使用上の注意点) (三宅三平講師)
- 第5回 斜視の治療 非視血性治療 (三宅三平講師)
- 第6回 斜視の治療・訓練と分類2 (田邊)
- 第7回 斜視の治療 手術1 (三宅三平講師)
- 第8回 眼球運動と検査 (三宅三平講師)
- 第9回 弱視訓練1 (田邊)
- 第10回 弱視訓練2 (田邊)
- 第11回 水晶体に関する視機能の話 (三宅三平講師)
- 第12回 弱視 (三宅三平講師)
- 第13回 斜視の訓練1 (田邊)
- 第14回 斜視の訓練2
- 第15回 期末テスト

【評価方法】

主に期末試験により評価す。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映する。

【テキスト】

- プリントを配布する。(三宅三平講師、田邊)
- 斜視・弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院) (田邊)

【参考文献・資料】

- 視能矯正 (弓削経一編 金原出版)
- 視能矯正学 (粟屋忍、丸尾敏夫編 金原出版)

視能訓練学各論Ⅲ

田邊宗子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

両眼視獲得訓練、融像訓練、網膜対応異常の矯正訓練について、その原理、適応、方法について学習する。

【授業の目標】

視能矯正・訓練の最終目的の確認と訓練の原理、適応、方法の修得

【授業計画】

- 1、視能矯正・訓練の定義の理解。
- 2、視能矯正と訓練の目的の理解。
- 3、視能矯正と訓練の原則の理解
 - 1) 目的に応じた目標の設定とそのための訓練計画作成
 - 2) 訓練の評価と訓練中止の要因の把握
- 4、実際の訓練方法の原理を理解し、学生同士で模擬実習を行う。

【評価方法】

主に期末試験により評価する。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- 視能矯正 (弓削経一編 金原出版)
- 視能矯正学 (粟屋忍 丸尾敏夫 金原出版)
- 斜視・弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院)

視能訓練学各論Ⅳ

大庭紀雄 川瀬芳克 渡邊一功

オムニバス 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

様々な視覚障害について幅広く理解するとともに、それらに対する訓練方法、支援方法について学ぶ。

(大庭紀雄教授) 眼球震盪症の病理学的特性とその治療、訓練について学ぶ。

(川瀬芳克教授) 高齢者、ロービジョンなどにおける視覚障害の特性とその訓練法について学習する。

(渡邊一功教授) 学習障害、高次脳機能障害に基づく視覚障害について学習する。

【授業の目標】

1. 眼振とその類型別特徴および治療方法を学ぶとともにプリズムによる矯正を理解する。
2. 年齢別にみた視覚の特性と障害の特徴と対応について学ぶ。
3. 学習障害や半側無視などにおける視覚の特徴と対応方法を理解する。

【授業計画】

1. 眼振
 - 1) 眼振の種類とその特徴
 - 2) 眼振の検査法
 - 3) 眼振の治療法
2. 視覚とその障害
 - 1) 視覚と視機能
 - 2) 年齢別にみた視覚の特性とその障害
 - 3) 年齢別にみたロービジョンの特性と対応
3. 学習障害および高次脳機能障害における視覚特性
 - 1) 視覚特性
 - 2) 評価法

【評価方法】

主に期末試験(筆記)により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他編 文光堂)
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ロービジョンケアの実際(高橋広編 医学書院)

視能矯正学実習Ⅰ

伊藤照子 川瀬芳克 笹倉公美 田邊宗子 平井淑江 御宿真理子

2年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに確実な定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

視能検査を実習する。検査の目的と方法を理解し自ら検査を自信を持って行えるようにする。

検査結果の記載法を学ぶ。検査結果の評価について理解する。

【授業計画】

1. 学生を6、8名のグループに分割し、1名の教員が一つの検査項目を担当する。
2. 学生は一つの検査項目につき、2回ずつ巡回する。(計12回)
3. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
4. 検査項目は1) 遠見視力検査 2) 動的視野検査、3) 電気生理検査: 網膜電図、4) 両眼視機能検査 5) 眼位検査 6) 大型弱視鏡とする。
5. 第1回は全体のオリエンテーション・14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等、総合的に評価する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他編 文光堂)
プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習Ⅰ

新井公子 伊藤照子 川瀬芳克 笹倉公美
田邊宗子 平井淑江 御宿真理子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに確実な定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

基本的となる視機能検査を実習する。その検査の目的と方法を理解して自ら自信を持って検査を行えるようにする。検査結果の記載法を習得する。検査結果の評価について理解する。

【授業計画】

1. 学生を6、8名のグループに分割し、1名の教員が一つの検査項目を担当する。
2. 学生は一つの検査項目につき、2回ずつ巡回する。(計12回)
3. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
4. 検査項目は1) 視力検査・レンズメーター 2) 静的視野検査、3) 電気生理検査 4) 両眼視機能検査 5) 眼位・眼球運動検査 6) 前眼部・眼底写真
5. 第1回は全体のオリエンテーション・14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等を総合的に評価する。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫編 文光堂）
プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習Ⅱ

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

3年 後期 必修 7単位

【授業の概要】

大学病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し、習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視機能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。

【授業の目標】

- 1) 医療従事者としてのあり方を学ぶ。
- 2) 視能矯正を中心に視覚の生理機能の検査や視能訓練を修得する。
- 3) 実習病院独自の臨床、研究分野を積極的に学ぶ。
- 4) 外来業務の流れを学ぶ。
- 5) チーム医療の一員としてふさわしい態度を身につける。

【授業計画】

1. 2名を1グループとし、8月、9月の2ヶ月間を実習期間とする。
2. 各グループは1ヶ月ずつ2施設で実習指導を受ける。
3. 本学の実習担当教員と学外実習指導者は緊密な連携を保ち学生の実習が円滑に行われるように指導する。
4. チーム医療の一員としての自覚と責任を認識し、視能訓練士としての仕事を学び、他の医療関係者と健全な人間関係を確立できるように援助する。

【評価方法】

学外実習指導者の評価に基づき本学実習担当教員が評価する。

【テキスト】

学外実習の手引き

【参考文献・資料】

特になし

視覚科学研究Ⅰ

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、実験・文献研究・調査をおこなうことで、視覚科学の基礎及び視能矯正学の臨床に関して視能訓練士として必要な専門的知識を深めるとともに、応用や現場への基礎研究知見の還元について幅広い視点から問題意識を習得する。

【授業の目標】

視覚科学、視能学の分野における卒業研究テーマを決定するための準備として、これらの分野における研究知見を学生各自の興味・関心に基づいて、文献研究を行い、研究テーマの絞り込みを行う。それと同時に、当該分野の原著論文を読解する技能についても習得をめざす。

【授業計画】

各自、関心のある問題を扱った原著論文を購読し、それについて報告を行う。なお学生1人につき3本の原著論文の報告を義務づける。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索1
- 第3回 文献検索2
- 第4回 文献報告1・1
- 第5回 文献報告1・2
- 第6回 文献報告1・3
- 第7回 文献報告1・4
- 第8回 文献報告2・1
- 第9回 文献報告2・2
- 第10回 文献報告2・3
- 第11回 文献報告2・4
- 第12回 文献報告3・1
- 第13回 文献報告3・2
- 第14回 文献報告3・3
- 第15回 文献報告3・4

【評価方法】

出席、演習態度、期末の単位認定レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

視覚科学研究Ⅱ

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、ゼミナール指導教員の特徴を生かした指導を受けながら、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

視覚科学研究Ⅰでの学習内容を踏まえ、卒業研究で扱う各自の研究テーマを決定する。

【授業計画】

各回、指定された課題について、2名ずつの報告を行い、ゼミ生全員で報告に基づき議論する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前指導1
- 第3回 研究テーマ報告1
- 第4回 研究テーマ報告2
- 第5回 研究テーマ報告3
- 第6回 研究テーマ報告4
- 第7回 研究テーマ決定
- 第8回 先行研究報告1
- 第9回 先行研究報告2
- 第10回 先行研究報告3
- 第11回 先行研究報告4
- 第12回 研究計画報告1・1
- 第13回 研究計画報告1・2
- 第14回 研究計画報告1・3
- 第15回 研究計画報告1・4

【評価方法】

出席、演習態度、期末の単位認定レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

視能検査学各論Ⅳ

大庭紀雄 川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査方法および検査結果の読み取りについて、さらに理解を深め、有効な視能矯正を行うための判断能力を習得する。

(大庭紀雄教授) 主要な病態因子の位置づけについて学ぶ。

(川瀬芳克教授) POSで検査結果を分析する技法について学ぶ。

(平井淑江教授) 入力系検査を基に、統合系、出力系の基本的な検査法の知識と技術を習得する。

卒業論文

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 後期 必修 4単位

【授業の概要】

「視覚科学研究Ⅰ～Ⅳ」の成果を卒業論文の形にまとめ、提出する。

視能矯正学実習Ⅲ

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

4年 前期 必修 7単位

【授業の概要】

大学病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視機能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。社会に出る前の最後の実習としての自覚を持ち基本的な視能矯正の実践技術を自信を持って行えるような能力を養い、患者さんから学ばせて貰っているという謙虚さを身につける。また、医療チームの一員としての責任と自覚を学ぶ。

視覚科学研究Ⅲ

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、主体的に具体的な調査または実験等を計画し、学術研究として展開する。

視覚科学研究Ⅳ

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究Ⅲ」の成果に基づき、卒業研究として展開する。

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につかどうか、自らの適性を見極めるための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力の形成諸段階
 - (1) 養成段階
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育

動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質

注入主義(ソフィスト～本質主義)/開発主義(ソクラテス～進歩主義)
4. 教育の目的

教育目的とは/教育目的の歴史的変遷(古代ギリシャ～現代)
5. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 教員養成の歴史と現在
 - (2) 教職課程の仕組み
 - (3) 教員の採用
2. 教師について考える
 - (1) 教科指導
 - (2) 生徒指導
 - (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生はまずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文字

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
 - 特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
 - 一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著 学事出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
 - (1) 伝達講習（ブロック、県、各学校）
 - (2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編（小・中・高）
- 5 現行教育課程の事例検討（小・中・高）
- 6 教育課程編成の構成要件
- 7 教育課程研究と教師

【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 1 学生たちの経験した授業の数々
- 2 教育課程の哲学(思想)…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
- 3 教育課程の構造(編成)と法
- 4 近代日本の教育課程の歩み
- 5 戦後の教育課程変遷史(「学習指導要領」改訂の歴史)
- 6 新教育課程(1998年改訂の学習指導要領)を学ぶ
- 7 新教育課程の問題点1(ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは)
- 8 新教育課程の問題点2(「総合的な学習の時間」、「情報」)
- 9 新教育課程の問題点3(あたらしい実践の数々に学ぶ)
- 10 新教育課程の問題点4(小学校の英語教育を考える)
- 11 教育課程をどう編成するか(構成要件、基本原則)
- 12 各国にみる教育課程

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

福祉科教育法 I

堀 正和

【授業の概要】

福祉教育の変遷や福祉教育の基礎的概念を学び、その上で福祉に関する学科や教科が設置された背景をさぐり、学校教育における福祉教育の諸問題を検討する。そして、福祉教育のあり方・福祉教育の意義と課題・これからの福祉教育の展望を考察する。

【授業の目標】

高等学校福祉科の各教材内容に応じた指導計画や授業展開を立案することができるようになる。

【授業計画】

- 1回 福祉教科創設の目的と教科の科目構成
- 2～5回 社会福祉基礎指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 6～10回 社会福祉制度指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 11～14回 社会福祉援助技術指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 15回 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説—福祉編—(文部科学省)

福祉科教育法 II

堀 正和

【授業の概要】

新教科「福祉」について、指導要領の示す内容を検討しつつ、教科「福祉」に関する各科目の指導法とそのあり方を検討する。教科書をはじめとする教材の問題点、教育課程編成における留意点、他教科や科目間の連携、さらには、福祉科の教師に求められる資質についても検討する。

【授業の目標】

高等学校福祉科の各教材内容に応じた指導計画や授業展開を立案することができるようになる。

【授業計画】

- 1～5回 高齢者・障害者介護指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 6～8回 社会福祉実習指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 9～11回 社会福祉演習指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 12～13回 福祉情報処理指導法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 14回 福祉科指導案の書き方と教育実習の意義
- 15回 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説—福祉編—(文部科学省)

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
・道徳教育の目標
・道徳教育の内容
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

人間回復の立場に立って、今日教育状況を見直せる力量をつけ、具体的な学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論(霜田一敏著 明治図書 2,370円)

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導のかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どけりマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しいマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どけりマンボウ青春記(北杜夫 新潮文庫)

【参考文献・資料】

特別活動(高橋正人・倉田祝司編著 ミネルヴァ書房)
教科外活動を創る(折出健二編 労働旬報社)
<子供>の誕生(フィリップ・アリス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)
教員主義の没落(竹内洋 中公新書)
立身出世主義(竹内洋 NHKライブラリー)
立志・苦学・出世(竹内洋 講談社現代新書)
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折(竹内洋 中央公論新書)
近現代日本の教員論(渡辺かよ子 行路社)
学級経営の歴史(志村廣明 三省堂)
「勉強」時代の幕開け(江森一郎 平凡社)
<学級>の歴史学(柳治男 講談社選書メチエ)
運動会と日本近代(吉見俊哉他編 育弓社)
「校則」の研究(坂本秀夫 三一書房)
教育には何ができないか(広田照幸 春秋社)
教育学がわかる事典(田中智志 日本実業出版社)
教育に関する私の方法叙説(不破民由 新風舎)

他

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- 1 生徒指導にかかる三つの基礎理論
 - (1) マスローの所論
 - (2) エリクソンの所論
 - (3) ロジャースの所論（ビデオ視聴）
- 2 生徒指導の四領域
 - (1) 生活指導
 - (2) 進路指導
 - (3) 学習指導
 - (4) 保健指導
- 3 特に開発的指導としての生活指導について
 - (1) 日常的指導項目
 - (2) 対症療法的指導項目
 - (3) 計画的指導項目
- 4 特に在り方・生き方指導としての進路指導について
 - (1) 進路指導にかかる今日的課題
 - (2) 小・中・高という発達段階に応じた進路指導の在り方
 - (3) 総合的な学習の時間を生かした進路指導の展開
- 5 まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末試験及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実践を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師・生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- 1 いま学校では…
- 2 いまの生徒たちが育ってきた社会を見てみよう
- 3 「生徒指導の手引き」を読む（生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観）
- 4 青年期の心理と生徒指導
- 5 校則と生徒指導
- 6 教科と生徒指導
- 7 教育問題をドキュメントしたビデオを見て
- 8 新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
- 9 中・高校生徒の進路指導について（フリーター、ニート）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係 基礎資料集」

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ、教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

- (1) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題（後口伊志樹）
- (2) 福祉一障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて（伊藤昭道）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (5) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (6) 高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
- (7) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (8) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）
- (9) 国際化を考える（羽場俊秀）

【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月11日 ※1月31日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明（各担当者）
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
 2. 8月29日 ※2月20日
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
 3. 各テーマ別 9月1日 ※2月23日
 - (1) 課題レポートについて報告（1人10～15分）
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
 4. 各テーマ別 9月2日 ※2月24日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
 5. 全体 9月8日 ※3月2日
 - (1) グループ代表者の発表（1名15～20分）
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展

生涯学習実践の課題

生涯学習と社会

生涯学習と人間

社会教育の意義

社会教育施設の概要

社会教育の内容・方法・形態

社会教育指導者

総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取

(1) 近代化への萌芽

(2) 海外視察と帰国後の動向

(3) 外国人教員の雇用とその教育への影響

(4) 技術伝習による日本の産業の近代化

2. 現代の学校教育における国際化

(1) 学校教育における国際理解教育

(2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
 - (1) 学校教育における学校図書館の役割
 - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
 - (1) 学校図書館法の成立と展開
 - (2) 国内外の先進事例
 - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営

学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその問題点
6. 学校図書館メディアの内容と構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
3. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
 - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根拠となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
 - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける1日（9:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業の目標】

- * 英語表現能力を高めること。
- * アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- * ウェスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- * 海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティー

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

外国語教育センター主催の韓国・朝鮮語科目は、言活（韓国・朝鮮語）のページを参照ください。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS Harry T.

【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course hopes to improve students' fluency and confidence in using English. Being emerged in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目を持った共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨花(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財踏査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サバイバル韓国語)を身に付け、梨花大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学出版部) 4
その他は特になし

Japan's Global Interface I

藤井正志 森下允之 福本明子 真田幸光 JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識するとともに、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生(一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生))である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:

- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通して、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養う。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

Schedule		
1	FUJII, Masaaki	Introduction
2	FUJII, Masaaki	Business Society in Japan
3	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
4	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
5	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
6	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
7	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
8	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
9	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
10	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
11	JOLLY, James	International Business and Law
12	JOLLY, James	International Business and Law
13	JOLLY, James	International Business and Law

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface II

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne プイチトルン
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生(一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生))である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: *Special Credit-Auditors (exchange students only) *Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture *Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通して日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

1	FUJII, Masaaki	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
11	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
12	JOLLY, James	Developing International Business Practices
13	JOLLY, James	Developing International Business Practices

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

(ボウリング)

1. 実習日時 平成18年9月6日(水)・7日(木)・8日(金)
11日(月)・12日(火)・13日(水)
計6日間 9:30~12:40

2. 説明会 日時 平成18年7月5日(水) 12:30~13:15

場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室

実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。

参加できない場合は事前に長久手キャンパス

健康科学教育センターに問い合わせること。

説明会の欠席者は受講を認めません。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円

(平成17年度のものでありますので変更する場合があります)

5. 定員 60名

6. 内容

1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明

2日目 ボウリングの歴史、基本動作

3日目 ボールのコントロール、軌道調整

4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論

5日目 レーンコンディションとボールの曲がり

ストライクアングルの実践練習

6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 実習日時 平成19年2月7日(水)・8日(木)・9日(金)
13日(火)・14日(水)・15日(木)
計6日間 9:30~12:40
2. 説明会 日時 平成19年1月10日(水) 12:30~13:15
場所 長久手キャンパス体育館1階 多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円
(平成17年度のものでありますので変更する場合があります)
5. 定員 40名
6. 内容
 - 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
 - 2日目 自然滑走、正しい押し出し
 - 3日目 フォアスケーティング・カーブ滑走
 - 4日目 ストップ、バックスケーティングの基本
 - 5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
 - 6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

中級簿記(2級程度) A * 商業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記(2級程度)Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本店支店会計
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

外国語教育センター主催の韓国・朝鮮語科目は、言活(韓国・朝鮮語)のページを参照ください。

初級簿記(3級程度) * 基礎総合

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。前期は2コマ(3時間)ずつ週2回のペースで、後期は2コマ(3時間)ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説(補助簿、試算表、伝票対策)
- 第7回 決算整理(売上原価)、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理(貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越)
- 第9回 決算整理(消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金)
- 第10回 直前総まとめ問題集解説(仕訳、精算表対策)
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記(2級程度) B * 工業簿記

コーディネーター: 浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記(2級程度)Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工業簿記の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ
- 第14回 単位認定試験第1回
- 第15回 単位認定試験第2回

【評価方法】

2回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じ1級の試験範囲である「会计学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買Ⅰ
- 第3回 特殊商品売買Ⅱ
- 第4回 特殊商品売買Ⅲ
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産Ⅰ
- 第7回 固定資産Ⅱ
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金Ⅰ
- 第10回 引当金Ⅱ、退職給付会計Ⅰ
- 第11回 退職給付会計Ⅱ、社債Ⅰ
- 第12回 社債Ⅱ、資本Ⅰ
- 第13回 資本Ⅱ
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会计学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会计学」を取り扱う。同じ1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理Ⅰ
- 第6回 一時差異等の会計処理Ⅱ
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結Ⅰ
- 第10回 連結会計、取得後連結Ⅱ
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

外国語教育センター主催の韓国・朝鮮語科目は、言活（韓国・朝鮮語）のページを参照ください。

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じ1級の試験範囲である「商業簿記」、「会计学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制Ⅰ
- 第5回 予算統制Ⅱ、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定Ⅰ
- 第8回 業務的意思決定Ⅱ
- 第9回 業務的意思決定Ⅲ、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意決定Ⅰ、設備投資の意決定
- 第11回 構造的意決定Ⅱ
- 第12回 構造的意決定Ⅲ
- 第13回 戦略的原価計算Ⅰ、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算Ⅱ、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算Ⅰ
- 第4回 部門別計算Ⅱ
- 第5回 実際総合原価計算Ⅰ、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算Ⅰ
- 第12回 標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト